

まえがき

本書は、2018（平成 30）年度の文化庁委託事業「被災地における方言の活性化支援事業」のうち、東北大学方言研究センターが担当した「被災地方言の保存・継承のための方言の記録と公開」の報告書です。

当センターでは、震災発生直後から、被災地の方言をめぐるさまざまな問題に取り組んできました。その活動については、すでに次の7つの報告書に述べています。

『東日本大震災において危機的な状況が危惧される方言の実態に関する予備調査研究』（2011年度文化庁委託事業報告書）

『東日本大震災において危機的な状況が危惧される方言の実態に関する調査研究（宮城県）』（2012年度文化庁委託事業報告書）

『被災地方言の保存・継承のための方言会話の記録と公開』（2013年度文化庁委託事業報告書）

『被災地方言の保存・継承のための方言会話の記録と公開 2』（2014年度文化庁委託事業報告書）

『被災地方言の保存・継承のための方言会話の記録と公開 3』（2015年度文化庁委託事業報告書）

『被災地方言の保存・継承のための方言会話の記録と公開 4』（2016年度文化庁委託事業報告書）

『被災地方言の保存・継承のための方言の記録と公開』（2017年度文化庁委託事業報告書）

今年度も、文化庁の事業方針「被災地域の方言の保存・継承の取組や方言の力を活用した復興の取組を支援することにより、被災地域の方言の再興及び地域コミュニティの再生に寄与する」ことを受け、気仙沼市における日常会話を踏まえた方言の記述と、名取市における市民団体の協力による方言資料の音声化に取り組みました。

今回もまた、現地の方々にはひとかたならぬお世話になりました。特に、話者のみなさまには地元の方言についていろいろと教えていただいたり、方言集の制作に取り組んだりしていただきました。また、気仙沼市における調査では、このたびも気仙沼市教育委員会生涯学習課の手厚いご支援をいただくことができました。名取市における方言集の制作では、「方言を語り残そう会」（代表：金岡律子氏）の全面的なご協力を得るとともに、大阪教育大学の櫛引祐希子先生にすべての面倒を見ていただくことができました。お世話になったみなさま方に心より感謝申し上げます。

私たちのこの取り組みが、震災の困難の中にある“ふるさと”の再生に寄与できることを願っています。また、この報告書が多くの方々の目にとまり、被災地の方言の将来について考えるひとつのきっかけとなることを期待します。

それにしても、こうした文化庁の事業はたいへん貴重です。方言は地域の文化の根底にあるにもかかわらず、被災地の方言についての取り組みは途に就いたばかりといってよい状態です。いまだに多くの地域の方言が、保存・継承の取り組みを必要としています。文化庁には、今後もこうした活動への支援を期待したいと思います。

2019年3月11日

東北大学大学院文学研究科・
東北大学方言研究センター教授

小林 隆

【事業の概要】

1. 事業の目的

本書は、2018（平成 30）年度の文化庁委託事業「被災地における方言の活性化支援事業」のうち、東北大学方言研究センターが担当した「被災地方言の保存・継承のための方言の記録と公開」の報告書である。

宮城県沿岸部の住民は東日本大震災を契機に、方言が地域の貴重な文化であり、復興への精神的な支えであることを強く認識し、その保存・継承を望んでいる。しかし、当該地域の方言は、震災の影響により衰退に向けた速度を速めつつある。地域住民の願いである方言の保存・継承のためには、その地域の方言の精密な記録や音声での保存が必要である。そのような趣旨に立ち、被災地の方言を記録し公開する企画を行うことにする。

2. 企画の概要

(1) 気仙沼市における教育委員会との連携による方言の記述

- ①宮城県内の方言区画を考慮し、北部の気仙沼市と、南部の名取市を具体的な対象地域とする。伝統方言の記録・継承のために、高年層を話者とする。
- ②気仙沼市では、教育委員会との連携のもと、日常会話の収録作業を踏まえた臨地面接型の調査によりさまざまな角度から方言の記述を行う。

(2) 名取市における市民団体の協力による方言資料の音声化

- ③名取市では、榎引祐希子氏（大阪教育大学准教授）および市民団体「方言を語り残そう会」の協力のもとに、これまでこの会が作成してきた方言資料の音声化を行う。

(3) 東日本大震災と方言ネットでの公開

- ④上記②③の成果を報告書およびCDにまとめ、被災地の公共機関をはじめ方言の保存・継承に取り組む人や団体に配布する。
- ⑤上記④の内容を東北大学で運営するホームページ「東日本大震災と方言ネット」にも掲載し、利用の拡大を図る。

3. 実施体制

代表者 小林 隆（東北大学大学院文学研究科教授）

幹事 小原雄次郎（東北大学大学院文学研究科大学院生）

大山雄輔（東北大学大学院文学研究科大学院生）

八木澤亮（東北大学大学院文学研究科大学院生）

八巻千穂（東北大学大学院文学研究科大学院生）

協力者 榎引祐希子（大阪教育大学准教授）

金岡律子（名取市方言を語り残そう会代表）

4. 協力機関

気仙沼市教育委員会生涯学習課

方言を語り残そう会（名取市）

2018（平成 30）年度文化庁委託事業報告書
「被災地方言の保存・継承のための方言の記録と公開 2」

目 次

まえがき

事業の概要

第 1 部 宮城県気仙沼市方言の調査報告

調査の概要	小林 隆	6
名詞のアクセント	寺嶋大輔	9
3・4拍形容詞のアクセント	大山雄輔	16
テンス・アスペクト	津田智史	23
終助詞「ワ」の用法	竹田晃子	31
終助詞「モノ類」	小原雄次郎	34
行為指示表現の体系	八巻千穂	43
「トゼン類」の形態と意味	八木澤亮	56
あいさつ表現定型化の実態	中西太郎	65
評価に関わる言語行動の表現	椎名渉子	74
依頼の言語行動	小林 隆	82

第 2 部 声で残す名取のなつかしい方言集

.....	櫛引祐希子・方言を語り残そう会	88
-------	-----------------	----

第1部

宮城県気仙沼市方言の調査報告

調査の概要

小林 隆

1 調査の目的

東北大学方言研究センターでは、学生たちが主体となって東日本大震災と方言をめぐる取り組みを行っている。被災地の方言会話を収録した会話集とCDの作成、インターネットを通じての公開はその成果のひとつである。被災地の方言を会話資料のかたちで残そうという取り組みは、5年前から始まった。その成果はこれまで次に上げる会話集としてまとめてきた。

『伝える、励ます、学ぶ、被災地方言会話集－宮城県沿岸15市町－』（2012年度）

※<http://www.sinsaihougen.jp/>センターの取り組み/伝える・励ます・学ぶ・被災地方言会話集/
『生活を伝える被災地方言会話集－宮城県気仙沼市・名取市の100場面会話－』（2013年度）
『生活を伝える被災地方言会話集－宮城県気仙沼市・名取市の100場面会話2－』（2014年度）
『生活を伝える被災地方言会話集－宮城県気仙沼市・名取市の100場面会話3－』（2015年度）
『生活を伝える被災地方言会話集－宮城県気仙沼市・名取市の100場面会話4－』（2016年度）

※<http://www.sinsaihougen.jp/>センターの取り組み/生活を伝える被災地方言会話集/

これらの取り組みの特徴は、地域の言語生活、すなわち、そこに暮らす人々の、言葉による生活の様子を、生き生きとしたかたちで後世に伝える記録を作りたいと考えた点にある。

そして、昨年度からは、以上のような方言会話資料を分析し、その結果を補完・発展させるための臨地面接調査を実施する段階に進んだ。方言の継承に向けた基礎作業としては、地域の実際の会話を記録することが必要であると同時に、その方言の言語としての特徴を分析的に把握することも重要である。昨年度は後者の課題の実践に取り組み、その成果を次の報告書にまとめた。

『被災地方言の保存・継承のための方言の記録と公開』（2017年度）

※<https://www.sinsaihougen.jp/>センターの取り組み/被災地方言の保存・継承のための方言の記録と公開/

今年度は、こうした昨年度の取り組みを継続することとした。

2 調査地域とテーマ

今年度の調査地域は宮城県気仙沼市である。昨年度、同市で行った臨地面接調査の結果を踏まえるとともに、これまで作成してきた気仙沼市の方言会話資料の中から具体的なテーマを発掘し、その課題について面接調査を企画した。何をテーマとするかは、担当者それぞれの興味に従うことにした。

今回調査を行った具体的なテーマを紹介しよう。アクセント、文法、語彙、そして、言語行動・

談話といった広い範囲から 16 の課題を選んでいる。担当者も合わせて示すことにする。

○アクセント

- ・名詞のアクセント規則（寺嶋大輔）
- ・3・4 拍形容詞のアクセント（大山雄輔）

○文法

- ・テンス・アスペクト（津田智史）
- ・副詞「ハ」・終助詞「ワ」の用法（竹田晃子）
- ・「モノ」系終助詞の形態と用法（小原雄次郎）
- ・行為指示表現の体系（八巻千穂）

○語彙

- ・感動詞「ダレ」の用法（坂喜美佳）
- ・方言語彙「トゼン」類の記述（八木澤亮）

○言語行動・談話

- ・あいさつ・待遇表現（中西太郎）
- ・評価に関わる言語行動〈ほめる・非難する等〉における表現（椎名渉子）
- ・言語行動の特徴：正月の三が日に、道端で出会う（高田大生、尾崎文哉、高橋奨、本間可奈）
- ・言語行動の特徴：荷物運びを頼む（小林隆）
- ・言語行動の特徴：旅行に誘う（尾形美乃、田形圭悟、羽柴一武希）
- ・言語行動の特徴：のど自慢への出演を励ます（鏡耀子、工藤真子、高橋佳弘、湊一輝）
- ・言語行動の特徴：のど自慢での優勝を祝う（栗原希、山際佳穂、山本理帆）
- ・言語行動の特徴：のど自慢での不合格をなぐさめる（大庭佳乃、小池麟太郎、寺嶋志優、山本賢）

3 調査の担当者

上にテーマごとの担当者を示したが、その所属は次のようになっている。

- 教員：小林隆、甲田直美（東北大学）、竹田晃子（立命館大学）、椎名渉子（名古屋市立大学）、中西太郎（目白大学）、津田智史（宮城教育大学）、坂喜美佳（仙台青葉学院短期大学）
- 大学院生・研究生：小原雄次郎、寺嶋大輔、大山雄輔、八木澤亮、八巻千穂、鏡耀子、朱臻宇、曹雁雯、ラハユ・エリンダ、李欣燃、劉海燕、郭莉
- 学部生・聴講生：高田大生、大庭佳乃、尾形美乃、尾崎文哉、工藤真子、栗原希、小池麟太郎、田形圭悟、高橋奨、高橋佳弘、寺嶋志優、羽柴一武希、本間可奈、湊一輝、山際佳穂、山本賢、山本理帆、楊明憲、クレマン・トリスタン

以上のように、東北大学文学研究科国語学研究室の大学院生・学部生を中心に、研究室 OB の研究者も参加して調査を企画・実施した。特に幹事・副幹事が全体を統括し、調査を導いた。今年度の幹事・副幹事は次のとおりである。

幹事：小原雄次郎

副幹事：大山雄輔、八木澤亮、八巻千穂

4 調査の方法

調査は上にも述べたように臨地面接調査の方式で行った。具体的なことは次のとおりである。

調査時期：2017年8月2日～8月4日

調査場所：気仙沼市民会館

話者：老年層（60歳代～70歳代）約40名

若年層（10代後半～20代）数名

調査協力機関：気仙沼市教育委員会生涯学習課（幡野寛治氏、鈴木志穂氏）

気仙沼市民会館（春日敏春館長）

調査の実施にあたっては、話者の推薦から日程の調整、調査会場の確保に至るまで、気仙沼市教育委員会生涯学習課から多大なご支援をいただくことができた。また、気仙沼市民会館には調査会場の借用等でたいへんお世話になった。さらに、話者の方々にはご多忙の中、会場まで足を運んで調査に応じていただいた。これらの方々のご協力なくしては、この調査は実現しなかったと言ってよい。ここにあらためてお礼を申し上げ、感謝の意を表する次第である。

5 報告書の作成

この報告書は、各テーマの担当者が執筆を行ったものである。ただし、全体をまとめきることはできなかったため、それについては今後を期すことにした。

また、成果報告のための費用は平成30年度被災地における方言の活性化支援事業「被災地方言の保存・継承のための方言の記録と公開」から支援を受けている。

なお、気仙沼市方言については、昨年度の成果である『被災地方言の保存・継承のための方言の記録と公開』のほか、かつて次の調査報告を行っている。

小林隆編（2012）『宮城県・岩手県三陸地方南部地域方言の研究』東北大学大学院文学研究科
国語学研究室

この成果は、次の報告書の中にも収められている。

東北大学方言研究センター（2012）『東日本大震災において危機的な状況が危惧される方言の実態に関する予備調査研究（文化庁委託事業報告書）』東北大学大学院文学研究科国語学研究室

今回の調査は、以上の内容を補完する位置付けにあるものとも考えることもできる。合わせてご覧いただくことを期待したい。

名詞のアクセント

寺 嶋 大 輔

1 調査の目的

アクセントから見た気仙沼方言は、「特殊音調Ⅱ」（平山 1957）、あるいは「南奥特殊アクセント」（田中 2005）と呼ばれる地域に属しているが、従来の見解では、この地域はアクセントパターンの単純化が進行していると考えられていた。

たとえば、類別語彙に対応させると、2 拍名詞のⅣ・Ⅴ類（例：「猫」）は○●（黒は高音をあらわす）と発話されるが、これはⅢ類（例：「犬」）の○●と合流しているとみなされており、実際に両者とも、たとえば助詞モをともなって読み上げると○●△となる。このようなアクセントパターンの少なさは、仙台以南に広がる無アクセント地帯との繋がりが深いとも考えられてきた。

調査者はこのような定説に疑問を持っており、前年度調査では、1 拍助詞や 2 拍助詞が後続する文、あるいは助詞がない文などを後続させた場合、それぞれで異なるアクセントが出るのではないかと考えて調査を行ったが、助詞の拍の多少によるアクセントの変化は特に観測されなかった。

ところが、助詞ノを後続させたときのアクセントのふるまいに着目すると、2 拍名詞Ⅲ～Ⅴ類（○●）は、Ⅲ類にノが後続すると○○△となって高音が消滅する一方、Ⅳ・Ⅴ類は○●△と高音を維持し、両者の区別が実現される（寺嶋 2018）。こうした尾高語に助詞ノを後続させたときに高音を維持する語（以下、尾高語 A と呼ぶ）と高音を消滅させる語（尾高語 B と呼ぶ）の区別は、拍数が少ない語ほど、または戦前生まれなど高齢（本文では 70 歳代以上の話者を「高齢」と定義する）の話者ほど区別があらわれやすい傾向があるようだが、年齢の低い話者では、その実態はよくわかっていない。

本調査では、こうした「尾高語 A」「尾高語 B」の区別について、初老の世代（本文では 50～60 歳代を「初老」と定義する）の話者に調査をおこなうことで、その傾向を明らかにすることを試みた。

なお、東北方言が音節（シラビーム）言語であるかモーラ言語であるかは議論の分かれるところではあるが、本文ではひとまず、特に断りがない限りモーラ言語とみなし、「拍」という単位をもちいて分析を行う。

2 総論

2.1 調査方法

調査方法は、文の読み上げ形式をとった。PC のディスプレイ上にターゲット語、およびターゲット語に助詞をともなった単純な文を提示し、それを話者に「地元の親しい人との自然な会話をする

とき」を意識してもらいながら読み上げてもらった（図 1 参照）。文のバリエーションは、以下の通りである。

- ・「〇〇」（名詞単体）
- ・「〇〇だ」
- ・「〇〇もいる／〇〇もある」
- ・「〇〇の話だ」



図 1. 調査文の提示イメージ

また、調査する単語は、以下の 40 語を選んだ。

気 木 鼻 花 柿 牡蠣 鑿 蚤 油 涙 枕 刀 酔い 飢え 稼ぎ 別れ 傾き	キ キ ハナ ハナ カキ カキ ノミ ノミ アブラ ナミダ マクラ カタナ ヨイ ウエ カセギ ワカレ カタムキ	小船 大船 宝船 大漁船 三毛猫 ^{注1} 招き猫 泥棒猫 屑餅 ずんだ餅 大福餅 酢漬け 味噌漬け わさび漬け 白菜漬け たこ焼き 卵焼き やきもち焼き	コブネ オオブネ タカラブネ タイリョウブネ ミケネコ マネキネコ ドロボウネコ クズモチ ズンダモチ ダイフクモチ スツケ ミソツケ ワサビツケ ハクサイツケ タコヤキ タマゴヤキ ヤキモチヤキ
---	--	--	--

片づけ 賄い 考え	カタヅケ マカナイ カンガエ	馬鹿者 暴れ者 幸せ者	バカモノ アバレモノ シアワセモノ
-----------------	----------------------	-------------------	-------------------------

表 1. 調査語一覧（右は共通語での読み方）

選定語彙については、気仙沼市に隣接する気仙地方方言（ケセン語）（山浦 2000）や、調査者が大島出身の 1927 年生まれの女性話者から行った調査（寺嶋 2018）で確認したものを基準にした。「気」「木」は 1 拍名詞で、アクセントの有無のみが異なるミニマルペアである。「鼻」「花」「柿」「牡蠣」「蟹」「蚤」はいずれも 2 拍名詞のミニマルペアで、それぞれ「平板語」「尾高語 B」、「平板語」「尾高語 A」、「尾高語 A」「尾高語 B」の対立があらわれることが期待される。「油」「涙」「枕」「刀」はいずれも 3 拍名詞尾高語だが、前者 2 語（第 V 類）は尾高語 A、後者 2 語（第 IV 類）は尾高語 B 的なふるまいが生じると考えられる。「酔い」から「考え」は 2 拍から 4 拍までの有アクセント動詞の名詞転用語で、いずれも尾高語 B のふるまいをすることが予測される。それ以降は複合語で、「～船」「～猫」「～餅」は尾高語 A、「～漬け」「～焼き」「～者」は尾高語 B 的なふるまいが期待される。

調査協力者は、1949 年生まれの女性話者（以下、話者①と呼ぶ）と 1955 年生まれの男性話者（以下、話者②と呼ぶ）の 2 名だった。

2.2 調査結果

調査結果を話者①、話者②ごとにまとめると、表 2 のようになった。

なお、尾高語が尾高語 A 的にふるまったか B 的にふるまったかについては、助詞ノを後続したときに最終拍の高音を維持したもの（尾高語 A 的）は「●」と表記し、高音を消滅させたもの（尾高語 B 的）は「○」と表記することで区別している。また、高音位置なしで表記している語は、助詞ノの後続による高音の消滅とは関係のない平板的な読み方が実現した（=はじめから平板語として発話されたと推測される）ことを意味する。アクセントにゆれがみられた場合は、観測された実現アクセントパターンをすべて記載した。

	話者①	話者②
気	○	○
木	●	●
鼻	○○	○○
花	○◎	○◎
柿	○○	○○

	話者①	話者②
牡蠣	○●	○●
鑿	○●	○●
蚤	○●	○◎
油	○○●	○○◎
涙	○○● ○●○	○○◎
枕	○○●	○○◎
刀	○○●	○○◎
酔い	◎○ ○●	◎○
飢え	◎○ ○●	◎○
稼ぎ	○○●	○○◎
別れ	○○●	○○◎
傾き	○○○●	○○○◎
片づけ	○○○●	○○○◎
賄い	○○○● ○○●○ ○○○○	○○○◎
考え	○○○● ○○●○ ○○○○	○○○◎
小船	○○○	○○○
大船	○○○○	○○○○
宝船	○○○○●	○○○○●
大漁船	○○○○○●	○○○○○●
三毛猫	○○○○	○○○◎
招き猫	○○○●○	○○○○●
泥棒猫	○○○○●○	○○○○○●
屑餅	○○○● ○●○○	○○○● ○○●○
ずんだ餅	○○○○● ○○●○○	○○○○●
大福餅	○○○○○● ○○○●○○	○○○○○●
酢漬け	○○●	○○◎

	話者①	話者②
味噌漬け	○○○●	○○○◎
わさび漬け	○○○○●	○○○○●
白菜漬け	○○○○○●	○○○○○●
たこ焼き	○○○● ○○○○	○○○●
卵焼き	○○○○●	○○○○●
やきもち焼き	○○○○○●	○○○○○●
馬鹿者	○○○●	○○○●
暴れ者	○○○○○	○○○○○
幸せ者	○○○○○○	○○○○○○

表 2. 話者①、話者②のアクセント実現パターン

その他、各調査協力者について簡単なまとめと補足を付け加えると、以下のようになる。

話者①（1949 年生まれ、幸町出身、女性）

- ・「蚤」「鑿」のアクセントが同じだったことについては、話者によると「蚤」という語を日常生活であまり使うことはないとのことで、突然出題されて困惑していた様子だったので、本来の「蚤」のアクセントを思い出せなかった可能性も考えられる（一方、「鑿」は義父が大工であったため、日常生活でもよく用いる語彙だったという）
- ・有アクセント動詞の名詞転用語については、「2 拍語+ノ」のときは「○●△」「○○△」の両方が観測されたが、3 拍語や 4 拍語「片づけ」「傾き」のときは、助詞ノを後続させても高音を維持するパターンのみが観測された（尾高語 A 的）。4 拍語の「賄い」「考え」は、「○○●○」「○○○●」「○○○○」と 3 種類のアクセントパターンがみられた。ただし、助詞ノが後続したときは「○○○●△」と尾高語 A 的な発話のみが観測された
- ・「～猫」については、「三毛猫」は共通語と同じく平板語的だったほか、「招き猫」「泥棒猫」では「猫」の「ネ」に高音を置いており、共通語に類似したふるまいを見せていた
- ・「～餅」については、「餅」の最終音節に高音を置くパターンと、「餅」の直前の拍に高音を置くパターンというゆれがみられた。後者の場合の聴覚印象は、共通語にかなり近かった

話者②（1955 年生まれ、松崎出身、男性）

- ・3 拍名詞尾高語は、類にかかわらずすべて助詞ノを後続させたとき高音を消滅させた

- ・有アクセント動詞の名詞転用語も、すべて助詞ノを後続させたとき高音を消滅させた
- ・「屑餅」は「○○●○」「○○○●」のゆれが観測された
- ・概して複合語が尾高語 A 的ふるまいになるか尾高語 B 的ふるまいになるかは一貫した規則が不明だが、拍の長さがひとつの目安になっているようだった

3 考察

ここでは、調査結果について簡単に考察を試みる。

まず、全体的な傾向として、話者①、②ともに尾高語 A/B の区別がはっきりと見られたのは 2 拍名詞のみで、それ以外の語は話者①、②とで差異がみられた。話者①は 3 拍以上になると、助詞ノを後続させても尾高語アクセントを残すか、あるいは共通語の影響が強いと思われるアクセントパターンで発話していた。一方、話者②は全体的な傾向として、3~4 拍と少ない拍数の尾高語では、助詞ノを後続させたときに語末高音を消滅させる一方、それより大きな拍数の尾高語になると、助詞ノを後続させても語末高音を維持する傾向がみられた。つまり、話者②が「尾高語+ノ」において語末高音を維持させるか消滅させるかは、単語の拍数によって左右されやすい傾向があることがうかがえる。

ところで、寺嶋（2018）は 1927 年生まれの大島出身の女性話者から調査を行ったが、この話者は単語の拍数が増えても尾高語 A/B の区別があらわれたことを観測した（表 3 参照）。

尾高語 A	尾高語 B
2 拍名詞第Ⅳ・Ⅴ類 3 拍名詞第Ⅴ類 後部要素が 2 拍名詞第Ⅳ・Ⅴ類の複合語	2 拍名詞第Ⅲ類 3 拍名詞第Ⅳ類 後部要素が「漬け」「焼き」などの複合語

表 3.1927 年生まれ女性話者の尾高語 A/B の弁別

調査自体の絶対数が少ないのですぐに結論は出せないが、上述の調査結果（2018）と今回の調査結果を組み合わせると、以下の 3 点を推測することができる。

- ・気仙沼方言は、かつては尾高語 A/B のアクセント弁別を持っていたが、時代の変遷により両者の弁別パターンが統合しつつある
- ・初老の話者において 3 拍以上の尾高語に助詞ノをともなったとき、語末高音を維持するか消滅させるかは、個々によりなんらかの規則がある
- ・使用頻度の高い 2 拍語については、初老話者においても尾高語 A/B のアクセント弁別は健在である

まず、戦前生まれの話者と戦後直後生まれの話者との間では、アクセントの変化が大きいことがわかる。このアクセントの差は、今回の調査でも話者①、話者②ともに話していたが、やはりテレビの普及により共通語が日常生活に浸透したことが大きいと考えられる。伝統的なアクセントの実態を明らかにするには、高齢の話者が元気なうちにアクセントの情報を聞き出す必要がある。

また、話者①と話者②とでアクセントが多少異なった理由については、性差、出身地^{注2}、年齢、あるいはたんなるゆれの範囲内など、様々な要因が考えられ、今回の調査だけでは判断が難しい（なお、インタビュー中の実感としては、市中心部出身で女性の話者②のほうが、共通語的な影響が強い印象を受けた）。もっと質・量ともに増やして調査を行えば、「尾高語」のアクセントパターン変化の規則性が明らかになるかもしれない。

なお、今回の2拍名詞においてのみ「尾高語」のアクセントパターンに違いが見られた結果は、大西（1990）の報告と類似している。大西（1990）では助詞ノについては言及していないが、第Ⅲ類は○●△～○○▲、第Ⅳ・Ⅴ類は○●△というアクセントの区別があらわれたことを述べており、一方、3音節以上の名詞では同様の現象は見られなかったと報告している。今回の調査結果は、大西（1990）の報告を補強する形になったと解釈することもできる。

最後に、本調査では、気仙沼方言はモーラ的であるという想定のもとで調査を行ったが、話者①の「考え」や「賄い」や話者②の「葛餅」など、音節的であるという前提に立ったほうが解釈しやすい例も散見された（前者は二重母音によるもの、後者は最終拍の無声化によるもの）。気仙沼市と隣接する志津川町（現・南三陸町志津川）方言について報告した大西（1986）も同方言が音節方言的であることを述べており、気仙沼方言のモーラ性・音節性についても、その判断はもう少し慎重に見極める必要があるかもしれない。

注

- 1 調査後に判明したことだが、伝統的な気仙沼方言では、「三毛猫」のことを「サンゲネゴ」と言う。ただし、今回の調査では、漢字で「三毛猫」を提示しても、調査参加者は両者とも「ミゲネゴ」と読み、特にそれ以上の指摘も受けなかった。このことから、初老の年齢層は、アクセントだけでなく語彙的な側面でも共通語の影響が大きくなっていることがうかがえる。
- 2 話者①の出身地である幸町は気仙沼市の中心部である一方、話者②の出身地である松崎は旧気仙沼市の街はずれだった

文献

大西拓一郎（1990）「気仙沼市方言の動詞アクセント」『東日本の音声—論文編-(1)』

大西拓一郎（1986）「宮城県志津川町方言の名詞のアクセント」『国語学』158

寺嶋大輔（2018）「『南奥特殊アクセント』の再解釈—気仙沼方言の助詞付き文をもとに—」『方言研究会第106回研究発表会発表原稿集』

山浦玄嗣（2000）『ケセン語大辞典』無明舎出版

3・4拍形容詞のアクセント

大山 雄輔

*本報告ではアクセントにおける相対的に低い拍を○、高い拍を●で表示した。

1 調査の目的

伝統的な東京方言（以下、伝統的な東京方言のアクセントを「東京アクセント」と表記する）では、3拍以上の形容詞アクセントに平板型と起伏型の対立があったと考えられているが、その対立に変化が生じてきていることが報告されている。特に終止形に関しては、図1に示したようにそれまで平板型であったものが起伏型に統合する方向で変化してきているが、完全に統合が完了したわけではなく統合の過程にあることが報告されている(三樹 2014)。

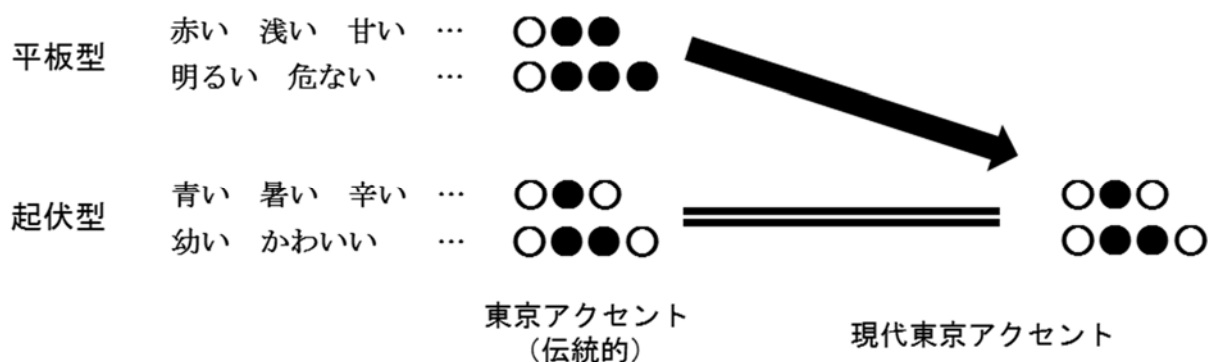


図1 現代東京方言における3・4拍形容詞終止形のアクセント変化

また、清水(1970)によると3拍平板型形容詞を起伏型に発音する傾向は1950年代の東京都内でも生じており、東京方言における形容詞アクセントは古くから変化を起していることがうかがえる。

本調査では、気仙沼市方言における3・4拍形容詞の終止形アクセントに焦点を当て、その発音の基本的傾向を観察した上で、現代東京方言アクセントで進行している変化と照らし合わせた検討と、気仙沼市方言のアクセントが有していると考えられる「個人差の大きさ」を中心に検討を行う。なお、以下では伝統的な東京方言のアクセントと区別し、現在観察されている東京方言のアクセントを現代東京アクセントと呼ぶことにする。

2 調査の方法

2.1 調査項目

調査対象とした3・4拍形容詞は以下のとおりである。

・3拍形容詞 全30語

平板型 15語

赤い 浅い 甘い 厚い 荒い 薄い 遅い 重い 固い 軽い
きつい 暗い 遠い 眠い 丸い

起伏型 15語

青い 暑い 辛い 臭い 黒い 寒い 白い 狭い 高い 強い
長い 早い 広い 安い 悪い

・4拍形容詞 全20語

平板型 10語

明るい 危ない 怪しい 重たい 悲しい 黄色い 冷たい 平たい 眠たい 優しい

起伏型 10語

幼い かわいい 汚い 詳しい 少ない 素早い 鋭い 切ない 激しい まぶしい

なお、上記の平板型・起伏型の分類は平山(1960)に準拠した。

2.2 調査方法

調査対象語が印刷された冊子を渡し、自然な状態での読み上げをお願いした。その後、項目によって適宜調査者がいくつかのアクセント型を発音し、適していると思われるアクセント型の選択をお願いした。場合によっては何度か発音を行った上で、最も納得の行くアクセント型の内省もお願いした。調査に協力していただいた話者の概要は以下のとおりである。

話者 A 女性 77歳 気仙沼市出身

話者 B 男性 70歳 気仙沼市出身

話者 C 男性 33歳 気仙沼市出身

3 調査結果と考察

拍数	東京	形容詞	A(77歳女性)	B(70歳男性)	C(33歳男性)
3	○●●	赤い	○●●	○●●	○●●
		浅い	○●●	○●●	○●●
		甘い	○●●	○●●	○●●
		厚い	○●●	○●●・○●○	○●●
		荒い	○●●	○●●・○●○	○●●
		薄い	○●●	○●●・○●○	○●●
		遅い	○●●	○●●	○●●
		重い	○●●	○●●	○●●
		固い	○●●	○●●	○●●
		軽い	○●●	○●●	○●●
		きつい	○●●	○●●	○●●
		暗い	○●●	○●●	○●●
		遠い	○●●	○●●	○●●
		眠い	○●●	○●●	○●●
		丸い	○●●	○●●・○●○	○●●
		○●○	青い	○●●・○●○	○●○
	暑い		○●○	○●○	○●○
	辛い		○●○	○●○	○●○
	臭い		○●○	○●○	○●○
	黒い		○●○	○●○	○●○
	寒い		○●○	○●○	○●○
	白い		○●○	○●○	○●○
	狭い		○●○	○●○	○●○
	高い		○●○	○●○	○●○
	強い		○●○	○●○	○●○
	長い		○●○	○●○	○●○
	早い		○●○	○●○	○●○
	広い	○●●	○●○	○●●・○●○	
安い	○●○	○●○	○●○		
悪い	○●●・○●○	○●○	○●○		

表1 調査結果：3拍形容詞

拍数	東京	形容詞	A(77歳女性)	B(70歳男性)	C(33歳男性)
4	○●●●●	明るい	○●●●●	○●●●○	○●●●●
		危ない	○●●●●	○●●●○	○●●●●
		怪しい	○●●●●・○●●●○	○●●●○	○●●●●
		重たい	○●●●●	○●●●○	○●●●●
		悲しい	○●●●○	○●●●○	○●●●●・○●●●○
		黄色い	○●●●●・○●●●○	○●●●●・○●●●○	○●●●●
		冷たい	○●●●●・○●●●○	○●●●○	○●●●●
		平たい	○●●●●・○●●●○	○●●●○	○●●●●・○●●●○
		眠たい	○●●●●・○●●●○	○●●●○	○●●●●・○●●●○
		優しい	○●●●●	○●●●○	○●●●●・○●●●○
	○●●●○	幼い	○●●●○	○●●●○	○●●●○
		かわいい	○●●●○	○●●●○	○●●●○
		汚い	○●●●○	○●●●○	○●●●○
		詳しい	○●●●○	○●●●○	○●●●○
		少ない	○●●●○	○●●●○	○●●●○
		素早い	○●●●○	○●●●○	○●●●○
		鋭い	○●●●○	○●●●○	○●●●○
		切ない	○●●●○	○●●●○	○●●●○
		激しい	○●●●○	○●●●○	○●●●○
		まぶしい	○●●●○	○●●●○	○●●●○

表2 調査結果：4拍形容詞

3.1 3拍形容詞

3.1.1 3拍形容詞(東京アクセントで平板型)

表1上部に示した「赤い・浅い・甘い…」などの東京アクセントで平板型とされる形容詞は、話者A・B・C全員がおおむね安定して平板型に発音した。高年層(話者A・B)、若年層(話者C)間に目立った差異は見られず、現代東京アクセントで生じているような起伏型へ統合する傾向は見られない。しかし、話者Bにおいて「厚い・荒い・薄い・丸い」の3語で平板型と起伏型の両方の発音が観察された。

3.1.2 3拍形容詞(東京アクセントで起伏型)

表2下部に示した「青い・暑い・辛い…」などの東京アクセントで起伏型とされる形容詞は、話者A・B・C全員が安定して起伏型に発音しており、ごく少数の語を除いて平板型と起伏型の両方が観察されることはなかった。

3.1.3 3拍形容詞の総括

平板型と起伏型の両者は区別されており、全体的に見ると現代東京アクセントで生じているような起伏型への統合現象は観察されない。

3.2 4拍形容詞

3.2.1 4拍形容詞(東京アクセントで平板型)

表2上部に示した「明るい・危ない・怪しい…」などの東京アクセントで平板型とされる形容詞は、話者によって平板型と起伏型の出入りがある。話者 **A・C** は調査語 10 語のうち約半数で平板型と並行して起伏型の発音が観察されており、3.1.1 で考察した東京アクセントで平板型を取る 3拍形容詞に比べて不安定であることが分かる。話者 **B** は「黄色い」以外の調査語は全て起伏型に発音しており、平板型の発音がほぼ消失していた。4拍形容詞の終止形が起伏型へ統合する変化は三樹(2014)によると現代東京アクセントで進行中の変化であるが、若年層の話者 **C** の方に平板型の発音が多く観察されていることを考えると、若年層ほど現代東京アクセントに接近しているわけではないようである。また、高齢層の話者 **A・B** を比べても個人差が大きい。これは佐藤(2013)に述べられている気仙沼市方言の名詞アクセントに見られる「かなりの個人差が認められる(高齢層)」という特徴が形容詞アクセントにも及んでいると仮定すると、気仙沼方言のアクセントが有している個人差の大きさの現れである可能性も高い。この点については後に述べる。

3.2.2 4拍形容詞(東京アクセントで起伏型)

表2下部に示した「幼い・かわいい・汚い…」などの東京アクセントで起伏型とされる形容詞は話者 **A・B・C** 全員が安定して起伏型に発音している。起伏型が安定であるという点では3.1で扱った3拍形容詞と共通した傾向である。

3.2.3 4拍形容詞の総括

3拍形容詞に比べて東京アクセントで平板型を取る形容詞のアクセントがあいまいになっており、話者によってはほぼ起伏型に統合していた。また、平板型と起伏型の区別が存在している話者においても平板型と並行して起伏型の発音が観察されている。逆に東京アクセントで起伏型を取る形容詞のアクセントはきわめて安定している。

3.3 3・4拍形容詞を通じた考察

3・4拍形容詞を通して、東京アクセントに存在している平板型と起伏型の2つの対立はある程度存在している。3拍形容詞は概して平板型と起伏型の対立の程度が強い。4拍形容詞に関しても、東京アクセントで起伏型に属するものは極めて安定性が高く、東京アクセントと同様の○●●○という発音が観察された。一方で東京アクセントで平板型に属する4拍形容詞はアクセントにはユレが認められ、ほぼ起伏型に発音している話者も見受けられた。形容詞の平板型と起伏型の対立が失われて起伏型に統合する傾向は現代東京アクセントでも指摘されているが(三樹 2014)、本調査で4拍形容詞がほぼ起伏型に統合していたのは高齢層の話者 **B(70歳)**であり、若年層の話者 **C(33歳)**は

ユレが認められるものの起伏型への統合傾向がそれほど強くなかった。本調査の結果から、東京アクセントで平板型に属する4拍形容詞の発音には並行して起伏型の発音が観察される傾向が強いことが言える。

次に、本調査で観察された3・4拍形容詞のアクセントについて、改めて2つの観点から考察する。

1) 現代東京アクセントに生じている変化を追随している可能性

東京アクセントで平板型に属する4拍形容詞のアクセントに起伏型とのユレ・起伏型への統合の傾向が見られることを述べたが、これが現代東京アクセントに生じている変化を追随している可能性について考える。図1に示した現代東京アクセントに生じている変化と、本調査で観察された4拍形容詞アクセント(特に東京アクセントで平板型に属するもの)には起伏型の発音が平行して観察される・起伏型に統合するという共通の傾向が見て取れたが、これを気仙沼市方言の形容詞アクセントが現代東京アクセントに生じている形容詞アクセントの変化を追随している過程の反映と見なすことは可能だろうか。確かに表面上の傾向は類似しているが、現代東京アクセントで変化中の特徴を機敏にとらえて追随し始めると考えることには疑問がある。さらにアクセントは語彙や文法に比べ影響を受けにくいことも考慮すると、現代東京アクセントに生じている変化を追随していると考えられることには慎重になる必要があると思われる。また、これは次の2)で述べる内容とも共通するが、気仙沼市方言における伝統的な3・4拍形容詞アクセントの実態が正確に把握できていない以上、本調査の結果が現代東京アクセントの変化を追随したものかどうか考えることは難しい。

2) 個人差の大きさが強く反映された可能性

これは十分に考えられる。3.2.1で述べたように、佐藤(2013)の気仙沼市方言における名詞アクセントの調査によると「かなりの個人差が認められる(高齢層)」ようである。同(2013)は名詞アクセントの調査だが、個人差が認められるという傾向が形容詞のアクセントにも認められる可能性は考えられる。実際に本調査でも高齢層話者A・Bの4拍形容詞アクセント(特に東京アクセントで平板型に属するもの)には強い個人差が認められた。本調査の結果は何らかのアクセント変化の傾向をとらえたものではなく、気仙沼市方言の形容詞アクセントが有しているかもしれない「個人差の大きさ」が前面に出てきた可能性も高い。個人差の大きさの影響をある程度除去した気仙沼市方言の形容詞アクセントの全貌を明らかにするためには、調査人数の拡大が必要と言える。

4 まとめ

本調査では、2名の高齢層話者と1名の若年層話者を対象に、気仙沼市方言の3・4拍形容詞の終止形のアクセントを扱った。その結果は、

- 1) 3拍形容詞は、東京アクセントにおける平板型と起伏型の対立を反映させており、全体としてアクセントのユレは少なく安定している。
- 2) 4拍形容詞は、東京アクセントで起伏型に属するものは極めて安定性が高い。一方、東京アクセントで平板型に属するものはユレが大きく不安定であり、平板型の発音と並行して起伏型の発音が観察され、話者によってはほぼ起伏型に統合しており、年齢差に加え個人差が強い。
- 3) 全体を通して若年層話者ほど現代東京アクセントに接近しているという傾向はなく、現代東京アクセントで生じている変化を追従している可能性についてはさらなる検討が必要である。
- 4) 先行研究に報告されている気仙沼市方言の名詞アクセントの個人差の大きさ(特に高齢層)は、形容詞アクセントにも認められる可能性がある。

と総括できる。

文 献

佐藤亮一(2013)「方言アクセントの個人差—宮城県気仙沼市方言のアクセントについて—」『玉藻』
47、フェリス女学院大学国文学会

清水郁子(1970)「東京方言のアクセント」平山輝男博士還暦記念会編『方言研究の問題点』、明治
書院

平山輝男(1960)『全国アクセント辞典』東京堂

三樹陽介(2014)『首都圏方言アクセントの基礎的研究』おうふう

テンス・アスペクト

津 田 智 史

1 はじめに

本稿は、2017年および2018年におこなった宮城県気仙沼市方言調査において、高年層を対象とした当該方言のテンス・アスペクトなど、時間表現に関する内容について報告するものである。いわゆるテンス・アスペクトの中心的な形式についてだけでなく、アスペクトの周縁的な形式に関する用法についても確認する。

東北方言における時間表現については、各地で記述的におこなわれている。宮城県方言については、登米郡中田町を対象とした工藤ほか（2005）および八亀ほか（2005）や、仙台市の竹田・吉田（2000）、石巻市の竹田（2003）、また山形県最上地方と宮城県北部を結ぶ陸羽東線沿線地域を対象とした竹田（2011）および津田（2011）などがある。本稿で対象とする宮城県気仙沼市方言に関するものとしては、2005年～2007年におこなわれた東北大学国語学研究室の気仙沼市・南三陸地方での方言調査の報告がある（竹田 2012 など）。竹田（2012）では、気仙沼市方言のテンス・アスペクトについて、記述調査（2005年）、多人数調査（2006年）、分布調査（2007年）の結果を示している。本稿の内容は、「テ+存在動詞」形の用法に関する竹田（2012）との比較検討をおこなうものである。言い換えれば、この約10年の間に地方都市で文法表現の変化が起こっているのかを確認するものである。加えて、従来あまり大きく取り上げられてこなかった、アスペクトの周縁的意味を表す用法の確認についてもおこなっていく。

なお、本稿における用例の表記については、該当箇所をカタカナ（下線付き）で示し、その共通語訳を文の後に（ ）書きで示すことにする。

2 調査の概要

2.1 インフォーマントについて

2017年、2018年の調査では、気仙沼市の伝統的方言におけるテンス・アスペクトなど時間表現に関する形式や用法を明らかにする調査をおこなった。共通語を当該方言に翻訳し、実際に発音してもらおう形でおこない、先行研究などを参照し、類似語形などの使用の有無やその差異についても確認をおこなった。

インフォーマントは、次のとおりである（データは調査時）。本稿では、以下の高年層4名を対象として、当該方言における時間表現の諸相について述べる。竹田（2012）のインフォーマントが1931（昭和6）年、1933（昭和8）年の生年であったので、本調査のインフォーマントとは生年で

5年～20年の開きがある。その点も考慮に入れつつ、形式や用法の違いについて比較検討していく。

なお、4名の回答については、ほぼ同様の形式や用法が確認できたため、特に言及しない限り、分けてあつかわないこととする。

ID	生年	性別	年齢	外住歴	調査年
1	1944（昭和19）年	女	73	15歳～17歳：宮城県仙台市	2017年
2	1936（昭和11）年	男	80	福岡県門司出身。 13歳～15歳および21歳以降 宮城県気仙沼市在住 ^{注1} 。	2017年
3	1940（昭和15）年	男	78	18歳～19歳：静岡県	2018年
4	1949（昭和24）年	男	69	18歳～22歳：東京都	2018年

2.2 タ形とタッタ形について

東北方言においては、テンス過去に2つの形式があることが多くの方言で確認できる。いわゆるタ形とタッタ形である。前者は共通語のテンス過去のものと同様の形式であり、後者は「動詞テ形＋アッタ」を語構成とする形式である。宮城県については、登米郡中田町方言（工藤ほか 2005、八亀ほか 2005）、陸羽東線沿地域方言（竹田 2011）、気仙沼市方言（竹田 2012）、石巻市方言（竹田 2003）、仙台市方言（竹田・吉田 2000）のいずれの報告でも両語形が確認できる。その使い分けについては、少なくとも次の2つの観点から言及されている。

① 第一過去形「ノンデダ」は、動詞がさしだす動作を発話主体が知覚しているかどうかには関知しない。それに対して、第二過去形「ノンデダッタ」は、当該動作を知覚・体験していない場面では使用できない。（登米郡中田町方言：工藤ほか 2005）

② タッタ形は、タ形と比べて過去の出来事が発話時に存在する場合には使われにくく、過去の出来事が発話時には存在しない場合にはタッタ形が使われやすいという特徴がある。

（陸羽東線沿線地域方言：竹田 2011）

いずれもムード的な意味の差異が述べられているが、①はエビデンシャルティー（証拠性）に関わるものであり、②は出来事と現在の断絶性という点に焦点がある。しかし、なんらかの事態の把握のためには、直接的なり間接的なり、その事態を知覚・体験することが求められる。その点で、出来事と現在との断絶性というのは、自身（話し手）の知覚・体験した事態が現在とは関与しないことを明示するものであると言い換えられる。断絶的な出来事であることを述べるためには、その事態の知覚・体験は当然必要であるが、ここで顕在化するのは、現在と事態の結びつき方である。つまり、より重要となるのは、タッタ形が証拠性を帯びているということではなく、その出来事が現在と断絶していることである。本稿では、タ形とタッタ形の用法の差異を、②の観点から確認していくことにする。

2.3 アスペクトの周辺的な形式について

従来のアスペクト研究においては、共通語シテイル相当の形式があつかわれ、それがどのような意味用法であるのかが主な議論の的であった。また、複数形式が確認できる場合には、それらの関係性や用法の差異が、テンス・アスペクトだけでなく、ムード的な差異として示されてきた。だが、各地方言を眺めてみると、シテイル相当ではない形式も、アスペクト形式として使用されているようである。

例えば、国立国語研究所編『方言文法全国地図』（以下、GAJ と略記）所収の「<もう少しで>落ちるところだった（将然相・回想）」の一葉をみると、オズッカッタ^{註2}のような形式が山形県を中心に複数地点で回答が確認できる。また、これらは「もう少しで」のような状況を説明する副詞を伴っている。落ちそうにはなったが実際は落ちなかった、そのような場面を言い表すために、東北地方では「(危なく)シタ」形式が使用されているということである。この形式は気仙沼市でも確認できるものである（津田 2018）。

ほかに、GAJ 所収「散っている（進行態）」の一葉からは、形式のバリエーションが確認できる。東日本のチッテルだけでなく、東北地方のチッテダ、西日本に広く分布するチリヨル、チットルなどである。これらはいわゆる共通語のシテイルに対応するとされる形式であるが^{註3}、それだけでなく、南九州地方ではチリカタ (chiikatazja)、琉球地方ではチッテアルク (?utiti?aicjun) などの形式もみられる。後者二形式は、東北方言ではみられないが、隣接の意味において確認できることが述べられている（津田 2016）。

以上のように、東北方言に限らず全国的にアスペクトの周辺的な形式は確認できる。その内、本稿では気仙沼方言における「(危なく)シタ」形式と、「一カタ」形式について簡単に用法を確認することにする。

3 調査結果①—タ形とタッタ形を中心に

3.1 存在動詞の用法

3.1.1 テンス現在

存在動詞のテンス現在については、共通語ではイルが用いられるが、当該方言においてはイルと同時にイダが用いられる。

(1) [友人の家を訪ねて、入り口で] ○○さん、イル/イダか。(いる)

金水 (2006 : 258) は、東北方言のイダがその由来である「たり」の状態の意味を残すことを指摘している。また、このようなテンス現在でイダが使用されるのは、広く東北地方でみられるが、それはほぼイダに語彙的に残るだけでも述べている。気仙沼市方言においてもその例に漏れず、使用されていることがわかる。イダは単なる存在だけでなく、過去から現在にその存在が続いていることを表す形式であるととらえられよう。

3.1.2 恒常的事実

存在動詞のテンス現在において、どのようなアスペクト的意味を表す場合にもイルとイダが使用できるかという点、そうとは限らない。例えば次のような例がある。

(2) [孫に「サメはどこにいるの」と聞かれて]

サメは、海に イル/*イダよ。(いる)

この場合、イダは使用不可である。(2)は、たしかに存在に触れるが、それは一般的な知識としてや、恒常的な事実としての話である。実際に目の前にサメがいる必要はない。先述の金水(2006)の指摘を踏まえると、イダを使用するには、現在までの存在の幅を想定できる必要があると考えられる。

3.2 運動動詞の用法

3.2.1 完成相過去

運動動詞の完成相過去においては、タ形とタッタ形が用いられる。ただし、そこには意味の違い、使い分けがありそうである。

(3) [隣からもらった水蜜を手にとって]

隣から、きれいな水蜜を モラッタ/*モラッタッタよ。(もらった)

(3)の例では、タ形のみが使用される。先述②のような差異があるとすると、タッタ形は現在と出来事の断絶性を表すために使用不可となる。ただし、仮に「[もらった水蜜を食べた後に報告して]隣から、きれいな水蜜をもらった。」という場合について聞くと、状況を説明するような「もらったけど、食べてしまった」のような表現が使用されやすいようである。4名中3名はこのように、状況を分析的に説明する表現を答えた。唯一、ID.4のインフォーマントから、「(もらったけれど)すでにない場合」について、モラッタッタゾという回答を得た。また、ID.3についても別の動詞についてはあるが同様の内省を得た^{注4}。ほかのインフォーマントにタ形とタッタ形の差異を問うたところ、タッタ形が表す事態は、「ずっと前・時間が経っている」など、時間的な幅の大きさを答えた。これは、現在とは離れているという点で、断絶性に関わるものととらえられる。

3.2.2 継続相現在

続いて、継続相現在についてみていくことにする。運動動詞の継続相現在においては、テル形やテダ形が使用される。

(4) [今、何をしているのか尋ねられ]

お世話になっている人へ、手紙を カイトル/カイテダ/カイッダよ。(書いている)

ここに表れるカイッダは、カイテダの音訛形である。そのため、基本的に意味の違いはみられない。テダ形は後述の継続相過去でも使用される点で特徴的である。ただし、過去でも用いられることから、テンス現在では「今・今まさに・今も」といった副詞や文脈が必要となる。

また、テル形とテダ形の違いは、日常の会話では意識されづらいようであり、あまり意味に違いはないという内省があった。一方で、東北方言を広くあつかう津田（2018）では、テダ形を「動詞の表す事態が生起し、なおかつその事態が何かしらの形で現在まで存在している」ことを表すものとしている。テル形もテダ形も現在も継続している点で、違いは見出しづらいものである。しかし、今後、調査によってその両者の違いを明示することが求められる。今後の大きな課題である。

3.2.3 継続相過去

完成相においては動詞のタ形とタッタ形が用いられるが、継続相では共通語と同様に「動詞テ形＋存在動詞」の形式が用いられる。ただし、その場合においても、テダ形とテダッタ形は意味用法において対立を示す。竹田（2012）では、「動詞＋テタは現在の出来事に用いられることもあるため、動詞＋テタッタのほうが出来事としてより過去らしい表現である」とする。

(5) [昨日の夕方何をしていたのか尋ねられ]

お世話になった人への手紙を カイトダ/カイツダ/カイデダッタよ。(書いていた)

本調査ではみられなかったが、カイツッタ (<カイトダッタ) のような語形もみられる場合もあるようである。ただしその場合も、両者に意味の違いはみられない。

(5) の継続相過去においてはテダ形もテダッタ形も使用できるが、カイデダッタの場合、思い出したというような意味合いが付加されるようである。ここでも、出来事と現在の断絶性につながるような内省が得られた。

3.3 形容詞の用法

形容詞のテンス過去においては、形容詞のタ形およびタッタ形が用いられるようである。

(6) [昔の相撲大会のことを思い出しながら]

あいつはずいぶん ツヨガッタ/ツヨガッタッタなあ。(強かった)

ツヨガッタッタを用いる場合、「かなり昔・もう死んでしまったけど」のような意味を含意するようである。つまり、時間的にも、事実的にも現在と大きな隔りがあるということである。その点は、運動動詞のタ形とタッタ形の差異と共通する点であろう。

3.4 竹田（2012）との比較

以上、2017年、2018年におこなった気仙沼市方言調査からその結果をみてきたが、竹田（2012）の結果と比べても、存在動詞や運動動詞ではほぼ用法の違いはみられなかった。一方で、形容詞のテンス過去については、竹田（2012）ではタ形のみ指摘にとどまるが、本調査ではタッタ形が確認できた。その使用は、動詞の場合と同様、出来事と現在の断絶性という観点②の差異を表すものとしてとらえられよう。

竹田（2012）と本調査のインフォーマントの生年等を考慮しても、昭和前半の生年のインフォーマントにおいて、テンス・アスペクトに関する顕著な形式や用法の変化はみられない。仮に当該地

域の形式等の変遷を追っていくためには、さらに古い資料との比較、もしくは若い世代への調査結果との比較が求められよう。古い資料については、GAJについても1970年代に調査されていることから比較の候補にはなるが、本調査結果や竹田（2012）の調査報告をみても、同列で比較できる内容であるのかには疑問が残る。GAJのデータも参照しつつ、談話などほかのデータにもあたっていく必要がある。若い世代への調査については、竹田（2012）にデータがあるが、それと併せてさらに若年層、少年層などと対象を広げ、データを比較することが必要になる。

4 調査結果②—アスペクトの周辺の形式

4.1 「(危なく)シタ」形式

ここからは、共通語のシテイル相当の形式ではなく、周辺の形式へと目を向けたい。まずは、「(危なく)シタ」形式である。同形式は、東北方言研究センター編（2016）にみられた形式であり、その用法の確認のため調査項目として採用したものである。過去における実際には実現しなかった事態について述べるものである。本調査において、ID.1 および ID.3 は同形式を使用しないということであったため、ほか2名のデータをここでは示す。

(7) [倉庫で作業していると、外から鍵を閉められそうになり]

アブナグ 鍵を カケライタなあ。(もう少しで閉められるところだった)

このように、過去の非実現の事態を表す際には、「(危なく)シタ」形式が使用される。「危なく」は必須であるが、それには「危なく・もう少しで」のようにバリエーションがみられる。なお、共通語的な(危なく)シメラレットコダッタナーも併用されるようである。

なお、本調査における同形式の詳細な考察については、追加調査の結果も含んで検討した津田（2019 刊行予定）を参照いただきたい。

4.2 「一カタ」形式

次に、「一カタ」形式についてみていく。この形式は、先述のように南九州地方では動作の継続を表す場合に使用される。しかし、そのような用法は東北方言や当該地域の方言にはみられない。それでは、どのような用法を持っているのか。小野寺（2010）は、東北方言における「一カタ」について、「行為」を表すものとして生産的に用いられるとする。

(8) 年賀状 書き方して 肩凝った

(年賀状を(たくさん)書いたので肩が凝った)

(小野寺 2010 : 下線は筆者)

ただし、南九州方言のそれとは異なり、「一カタ」形式単独で述語となることはできず、必ず動詞を必要とする。

(9) 孫が母親の真似をして、お皿を フキカタスル。(拭く行為をする)

インフォーマントの内省によると、「行為」を明示的に表す際に用いるようである。また、(9)では「一カタ」形式が使用可能であるが、例えば「お皿を一枚」のように指定すると、使用不可となる。同形式が使用されるには、複数(回)の作業、繰り返しといった要素が必要となる。

「一カタ」が接続する動詞などについては、小野寺（2010）に言及があるが、各地方言の詳細な記述については、気仙沼市も含め今後の課題である。

5 おわりに

以上、本稿では、2017年および2018年におこなった気仙沼市における時間表現の調査結果について、簡単に報告した。本稿では特に、気仙沼市方言および東北方言においてテンス・アスペクトの中心を担うタ形とタッタ形の違いに注目し、その違いについて確認した。また、従来あまりあつかわれてこなかった、アスペクトの周辺的な形式についてもその用法を確認した。具体的には、過去の非実現形式として「(危なく)シタ」形式を、繰り返しや反復的・多回的行為を表す「一カタ」形式を取り上げて、その用法を示した。

本稿の内容は、すでに先行研究に示される気仙沼市方言の実態の確認にとどまるものがほとんどであるが、それは言い換えれば、先行研究の記述の証明・補強をおこなうものであると考える。一部、先行研究では触れられていない形式（「(危なく)シタ」形式）についても調査、報告をおこなったが、その内容については本文中に触れたように別稿を用意しているので、そちらを参照されたい。いずれの内容についても、記述という面で課題を多く残している。今後も気仙沼市方言における時間表現について調査をおこない、考察を深めていきたい。

注

- 1 外住歴が長く、言語形成期もほぼ気仙沼市以外で生活されているが、調査ではほかのインフォーマントとほぼ同様の結果を回答していた。そのため、本稿では ID.2 の話者についても考察の対象とした。
- 2 山形県を中心に、テンス過去を表す「動詞+カッタ」という形式が使用される（津田 2011 など）。これは、形容詞の活用語尾が接辞化したもので、動詞のル形やタ形に接続することでテンス過去の意味を表すものである。宮城県ではみられないものの、山形県内陸では広く確認できるようである。
- 3 厳密に述べれば、チッテルは動詞テ形+「いる」、チッテダは動詞テ形+「いる」タ形、チットルは動詞テ形+「おる」である。チリヨルは動詞連用形+「おる」という語構成であり、それ以外と大きく構成が異なるものである。ただし、共通語の対訳としては、すべて「している」が当てられる。
- 4 ID.3 が自身で作った釜飯の話をする際、近い過去ではツクッタで表し、ずっと前の出来事であればツクッタッタを用いるという。また同時に、自身が作り、釜飯がまだ残っている場合にはツクッタを使用し、もうなくなってしまった場合にはツクッタッタを使用するとの内省を得た。

文 献

小野寺潤（2010）「宮城県方言の「一方」名詞構文の適格性条件：語彙的アスペクトと語彙概念構

- 造をもとに」『学習院大学英文学会誌 2009』
- 金水敏（2006）『日本語存在表現の歴史』ひつじ書房
- 工藤真由美・佐藤里美・八亀裕美（2005）「体験的過去をめぐって—宮城県登米郡中田町方言の述語構造—」『阪大日本語研究』17
- 国立国語研究所編（1999）『方言文法全国地図 第4集』財務省印刷局
- 竹田晃子（2003）「石巻市におけるテンス・アスペクト—体系と属性差—」小林隆編『宮城県石巻市方言の研究』東北大学国語学研究室
- 竹田晃子（2011）「テンス形式および文末の「ケ」の用法」小林隆編『宮城県・山形県陸羽東線沿線地域方言の研究』東北大学国語学研究室
- 竹田晃子（2012）「テンス・アスペクト」小林隆編『宮城県・岩手県三陸地方南部地域方言の研究』東北大学国語学研究室
- 竹田晃子・吉田雅昭（2000）「仙台市方言におけるテンス・アスペクト」小林隆編『宮城県仙台市方言の研究』東北大学国語学研究室
- 津田智史（2011）「テンス形式「ーカッタ」」小林隆編『宮城県・山形県陸羽東線沿線地域方言の研究』東北大学国語学研究室
- 津田智史（2016）『方言アスペクト研究の新たな視点』（特別研究員奨励費成果報告書）
- 津田智史（2018）「東北方言における時間表現の表す意味（1）—「テ+存在動詞」形に注目して—」『国語学研究』57
- 津田智史（2019 刊行予定）「アスペクトの周边的意味—「(危なく)シタ」形式をめぐって—」小林隆編『生活を伝える方言会話』ひつじ書房
- 東北方言研究センター編（2016）『生活を伝える被災地方言会話集 3—宮城県気仙沼市・名取市の100 場面会話—』東北大学国語学研究室
- 八亀裕美・佐藤里美・工藤真由美（2005）「宮城県登米郡中田町方言の述語のパラダイム：方言のアスペクト・テンス・ムード体系記述の試み」『日本語の研究』1(1)

終助詞「ワ」の用法

竹 田 晃 子

1 調査の目的と方法

副詞ハ／ハー／ヘー／ハヤ／モハヤ類は全国方言に見られるが、南東北ではこれが終助詞化したとみられるワや（宮城県など）、ハ（山形県山形市や福島県など）がある。調査を行った 2018 年 8 月時点で先行する資料には、東北大学方言研究センター編『生活を伝える被災地方言会話集』がある。これによると文末詞ワの例は、名取市に多く、気仙沼市に少ない。一方で副詞ハの例は、名取市にやや少ないが、気仙沼市に多く、相補分布の可能性はある。また、気仙沼市の状況は、副詞ハが多く用いられる岩手県に連続すると考えられる。おそらく、地域ごとに形式や用法の濃淡を持ちながら分布していると考えられる。

この調査では、気仙沼市方言のワの用法を解明する糸口をつかむことを目的に、東北大学方言研究センター編『生活を伝える被災地方言会話集』1～4（以下、本文では「会話集」と表記する）と『方言文法全国地図』（以下、本文では GAJ と表記する）における気仙沼市方言での用例や回答と、山形市方言のハを記述した渋谷勝己(1999)の用例を例文として、高年層話者にワの使用を確認する方法をとった。なお、特に断らない限り、[昭和 26 女] から 2018 年 8 月 4 日に教えていただいた情報の概略をまとめた。

なお、気仙沼市方言ではワはあまり盛んではなく、ワの用法解明を目的とした調査地点としては不向きであると考えられる向きもあるかもしれない。しかし、本報告は、使用があまり盛んではない、沿岸部北限の使用地域でどのように用いられるかを把握することを目的として調査を行った、その報告として位置づけられると考える。

2 調査結果

GAJ から 1 例文、「会話集」から 9 例文、渋谷(1999)から 70 例文を取り出し、合計約 80 例文を提示して確認してもらった結果、次の 7 例文でワが回答された(山形市方言の例文の意味は渋谷(1999)を参照されたい)。なお、ワと同様の位置に出てくる他の終助詞には、ネ／ナ／サ／ノ／チャがあり、ワが回答されなかった例文にはこれらが回答された。また、チャの後ろにワが付くことがあり、ネはワの後に付くことがある。

- (1) (その本なら) モー ヨンジャッタワ。(もう読んでしまった。) [GAJ205]
- (2) イヤ モスコス ヤットオモッタゲッド モー ヤメルワ。[会話集]
(いや もう少し やろうと思ったけれど もう やめるわ。)(動詞+タ[過去]を改変)
- (3) (あら、いつの間にか桜が) チッテシマッタンダッチャワネ。

(あら、いつの間にか桜散ッタハー。) [山形 24]

(4) (あら、今日は) 三日ダッタンチャワネー。

(あら、今日はもう3日ダハー) [山形 25]

(5) (バス停で待ち合わせた友達がなかなか来ないので待っていて)

(あっ、バスが) キテシマツタツチャワネー。(あっ、バス来タハー。) [山形 27]

(6) A: あのお菓子、もうない?

B: ごめん、全部 タベテシマツタワー/タベタワ。(食べてしまったよ) [山形 59]

(7) 禁酒をしていたのに、いつのまにか酒 ノンデシマツタワー。(自発文) [山形 61]

「会話集」からは気仙沼市方言の使用例を抜き出したが、(2)以外は使用しないという回答であった。「会話集」の話者は1937～1947(昭和12～22)年生まれで、本稿の話者は1951(昭和26)年生まれとやや若い。ワの使用には年代差がある可能性が考えられる。渋谷(1999)からの例文は、基本的な用法とされる(3)(4)(5)と、聞き手への配慮が現れている(6)(7)のみに回答された。

ワの意味について、話者の内省によると、思いがけないことや意外な出来事にその場で思い至ったことを表現する場合や(例文(1)～(5))、失敗や手違いが露見した時にそれが故意ではないことを表現する場合(例文(6)(7))に使うという。これらのことから考えると、ワは、副詞モー(もう)や、テシマツタ/ンジャツタ(てしまった)などの自発表現、他の終助詞チャなどで表された出来事(時間経過による変化や終了など)について、「いま気づいた」というような意味を表しているとみられる。

山形市方言のハの使用について、渋谷(1999:8)は「話し手が事前に予測や期待を抱いており、その後経験や推論を通して得た命題内容がそれに反している」という条件があるとしている。気仙沼市方言のワは、これと同系のもと考えられるが、山形市方言のハの用法と比較するとごく一部で、基本的な用法にとどまっていることが明らかになった。

宮城県内や周辺地域でのワ/ハについて、半沢康(2018)には宮城県では内陸部のワの調査結果が示されており、気仙沼市方言に比べると内陸部の方が盛んである様子がわかる。また、岩手県内陸では文末にハが回答されていることも示されており、気仙沼市方言はワとハの境界にあたる地域であることがわかる。

3. 今後の課題

以上、気仙沼市方言における終助詞ワの用法について、高年層話者を対象にした面接調査によって、山形市方言のハと同系であり、山形市方言と比較するとごく基本的な用法で用いられることが明らかになった。また、宮城県内陸と比べると盛んではないことがわかった。

副詞ハーについては未調査である。岩手県など北奥方言との連続性も視野に入れ、今後の課題としたい。

文 献

渋谷勝己(1999)「山形市方言の文末詞ハ」『阪大社会言語学研究ノート』1、pp. 6-15

東北方言研究センター(2014)『生活を伝える被災地方言会話集1—宮城県気仙沼市・名取市の100場面会話—』、東北大学方言研究センター

東北方言研究センター(2015)『生活を伝える被災地方言会話集2—宮城県気仙沼市・名取市の100場面会話—』、東北大学方言研究センター

東北方言研究センター(2016)『生活を伝える被災地方言会話集3—宮城県気仙沼市・名取市の100場面会話—』、東北大学

東北方言研究センター(2017)『生活を伝える被災地方言会話集4—宮城県気仙沼市・名取市の100場面会話—』、東北大学方言研究センター

半沢 康(2018)「東北地方におけるハの伝播と変化」『方言の研究』4、ひつじ書房

終助詞「モノ類」

小原 雄次郎

1 はじめに：調査概要

2018 年度の気仙沼市方言調査では、高年齢層を対象に終助詞「モノ類」の調査を行った。終助詞「モノ類」とは、共通語において「もの」もしくは「もん」という形で現れる終助詞であり、例えば「だって女の子だもん」の「もん」に相当するものである。この「モノ類」は、話し手がなんらかの理由や根拠を、個人的な判断に基づいて強く主張する際に用いられ、話し手の不満が含意されていることも多い。また、「モノ類」を用いることで甘えや子どもっぽさを示すこともあり、小説などでは成人女性に「もの」が用いられ、「もん」は若年層の男女に用いられる傾向がある。

東北方言では、共通語にも見られる「モノ (mono)」や「モン (mon)」だけでなく、「オノ (ono)、オン (on)、オ (o)、モ (mo)、ン (n)」などの形態も確認される。一か所の調査地点で、これら全ての形態が見られるわけではないが、多くの地点で複数の形態が併用されており、形態の違いによる意味用法の違いも指摘されている。(藤原 1986、小原 2016a, 2017a, 2017b)。

今回の 2018 年度調査では、「モノ類」の形態に関して主に「モノ」に絞って調査を行っている。場面設定会話式の調査によって、「モノ類」がどのような場面に現れるかを調べ、その意味(用法)に迫ろうという試みである。

以下では、まず 2 節で今回の調査の動機を述べ、3 節で調査の方法について説明する。4 節で調査の結果を示し、5 節でまとめを述べる。

2 調査の動機

2.1 「理由を述べる形式」：『方言文法全国地図』(第 1 集)の 33 図と 37 図から

今回の調査の動機をたどると、『方言文法全国地図』(以下 GAJ と略記)の「第 1 集」(1989)に収められた 2 枚の地図に行き着く。GAJ「第 1 集」33 図「雨が降っているから (行くのはやめろ)」と同 37 図「子どもなので (わからなかった)」は、共に「理由を述べる形式」を地図に描いたものである。これらの地図が作成された意図は、GAJ「第 1 集」付属の『方言文法地図解説 1』に述べられている。33 図は共通語の「から」、37 図は共通語の「ので」に対応する方言形を調査したものであり、特に 37 図については、名詞に接続する形式を調査する意図があったと述べられている。つまり、共通語で「ので」に接続する場合に「子どもなので」となるように、名詞「子ども」に接続した場合、方言形ではどのような形式が現れるかを調査したようである。

しかし、37 図が名詞接続の接続助詞を調査するために作成されたのだとすると、37 図で用いられた調査文「子どもなので (わからなかった)」は、はたして適切だったのだろうか、という疑問

が生じてくる。というのも、名詞接続について調査するためなら、37 図の調査文を「子どもので」のようにする必要はなく、33 図に対応させて「雨なので（行くのはやめろ）」のような文にすればよかつたのではないだろうか。私がここで指摘しているのは、37 図の調査文を「子どもので」にすることで、33 図と 37 図の関係が、形式的な対立だけでなく、意味的な対立も含んでいる可能性がある、ということである。

2.2 37 図で現れる「モノ類」

33 図と 37 図の間に、意味的な対立も含まれているのではないかという点に関して、傍証となりそうなのが、接続助詞「モノ類」の分布である。

33 図「雨が降っているから（行くのはやめろ）」の「から」にあたる部分に「モノ類」が現れるのは、全国でたった 2 地点（長崎県玉之浦町と沖縄県北中城村）のみである。それが、37 図「子どもので（わからなかった）」になると、全国で 19 地点に増え、東北地方でも 6 地点（青森県六ヶ所村、岩手県種市町・釜石市・大船渡市、秋田県東由利町、山形県寒河江市）で確認できる。興味深いのは、東北地方で「モノ類」が現れている 6 地点の全てで 2 つの形式が併用されていることである（表 1 を参照）。例えば、岩手県大船渡市（表 1 d）では、33 図で「カラ」が用いられ、37 図では「ガラ」と「モノ」が用いられている。「カラ」が「ガラ」になっているのは音韻上の問題であるため、大船渡市では 33 図と 37 図で「カラ／ガラ」という同一の形式が用いられており、37 図ではさらに「モノ」も併用されていることがわかる。

表 1 GAJ（第 1 集）の 33 図と 37 図にみられる「モノ類」（東北地方）

地点	33 図	37 図
a. 青森県六ヶ所村	「ステ」	「ステ」 「モノ」
b. 岩手県種市町	「ガラ」	「ヘーデ」 「モノ」
c. 岩手県釜石市	「カラ」	「ガラ」 「モノ」
d. 岩手県大船渡市	「カラ」	「ガラ」 「モノ」
e. 秋田県東由利町	「ヒェンデ」	「ヒェンデ」 「モノ」
f. 山形県寒河江市	「ガラ」「サゲ」	「ガラ」 「モノ」

表 1 の 6 地点の状況が示唆するのは、「カラ」や「ステ」「ヒェンデ」が理由を表す汎用的な形式であるのに対して、「モノ類」が 37 図においてのみ現れる限定的な用法であるということである。そして、汎用的な「カラ」「ステ」「ヒェンデ」と、「モノ類」との間には何らかの使い分けが存在するということである。37 図において、「モノ類」が使い分けられているとすると、そこにはどのような規則があるのだろうか。調査を通じて、その一端を明らかにし、「モノ類」の意味（用法）に迫りたいと思う。

3 調査の方法

3.1 調査票の特徴

GAJ では共通語翻訳式の調査票が用いられているが、本調査では主に場面設定会話式の調査票を用いている。本調査の主眼となっているのは、理由を述べる形式（とりわけ終助詞「カラ」と「モノ類」）の使い分けと、終助詞「モノ類」の意味（用法）を明らかにすることであるため、場面設定会話式の調査票を用いることで、形式を選ぶ際の文脈や話し手の意図（「反論する」など）をより詳しく指定している。

場面を設定するにあたっては、『生活を伝える被災地方言会話集』（東北大学方言研究センター 2014, 2015, 2016, 2017）と「話し方の全国調査」（東北大学方言研究センター、2015）を参考に、終助詞「モノ類」が現れる場面を多めに選んでいる。「モノ類」を優先しているのは、「モノ類」が「カラ」などと異なり、理由を述べる際の汎用的な終助詞ではなく、意味（用法）的に使用が限定されているためである。

3.2 調査の概要と話者（インフォーマント）

本調査は、2018年8月2日から4日にかけて気仙沼市市民会館で行われた東北大学国語学研究室気仙沼市方言調査の中で実施した。話者（インフォーマント）は以下の3名である。A、B、Cの話者はいずれも気仙沼市生え抜きの話者であるが、話者Cは回答に際して少し身構えた様子で共通語に近い表現を選んでいることがうかがえた。

話者A：1942年生まれ（調査時76歳）、女性

話者B：1941年生まれ（調査時77歳）、女性

話者C：1942年生まれ（調査時76歳）、女性

4. 調査結果

4.1 GAJの追跡調査

まず、気仙沼市についてGAJを確認すると、33図「雨が降っているから」には「フッテル**ガラ**（ ϕ utterugara）」が現れており、37図「子どもなので」では「コドモダ**ガラ**（kodomodagara）」と「コドモナ**ノデ**（kodomonanode）」の二つの形式が現れている。GAJの33図については「全国方言分布調査（FPJD）」（国立国語研究所、2010-2015）でも追跡調査が行われており、気仙沼市では「フッテ**ッカラ**」が現れている。先行研究をみる限りでは、気仙沼市では接続助詞的な用法に「モノ類」は現れない。

今回の気仙沼市方言調査でも、33図と37図の追跡調査を行っており、その結果は以下の（1）と（2）のようになる。（2）の話者Bに「モノ類」が出現している。GAJ、FPJD、および今回の調査結果を併せて表2に載せる。

(1) GAJ 第1集 33 図の追跡調査①：「雨が降っているから（行くのはやめろ）」【ただし、本調査では「降っている」の部分が「降る」になっている。】

A：アメ フツ**カラ**、イグノ ヤメタホー イーゴツテ。

B：キョーワ アメ フツ**カラー**、ムリシテ イガナクタツテ イーンデネースカー。

C：アメ フツ**カラ**、ヤメダラ イーツチャ。

(2) GAJ 第1集 36 図の追跡調査②：「子どもなので（わからなかった）」

A：ワラスダ**ガラ**、マダ ワガンネーヨネ。

B：コドモダ**モノ**、ワカンナインデナイノー。

C：マダ ガキダ**カラ**。

表2 GAJ（第1集）の33 図と37 図の追跡調査

地点	33 図	37 図
『方言文法全国地図』（GAJ）	「ガラ」	「ガラ」「ノデ」
『全国方言分布調査』（FPJD）	「カラ」	—
2018 年度調査	話者A	「ガラ」
	話者B	「カラー」
	話者C	「カラ」

GAJ の33 図と37 図の調査のように、接続助詞の位置に現れる形式を尋ねた場合、「モノ類」が出現する頻度は高くないが、終助詞の位置に現れるものを尋ねれば、37 図に関しては、東北地方の多くの地点で「モノ類」が出現した可能性がある。以下の調査では、「モノ類」が出現しやすいよう、**終助詞の位置の形式**を尋ねている。

4.2 理由を表す形式の調査

4.2.1 実質的質問への返答として、理由を述べる場合

ここでは、「どうして？」のように直接的な質問に対して答える際の形式についてみていきたい。(3) の場面会話調査①と(4) の場面調査会話②はいずれも直接「どうして？」と尋ねられた場面である。場面会話調査①は、話し手のみが知っている**個別的で一回的な理由**を聞き手に伝える場合である

(3) 場面会話調査①：聞き手の知らない理由を述べる

状況：玄関の近くで荷物を整理している夫に、荷物を片づけるように言うと、夫が「どうして（ナシテ）」と聞き返してきたため、来客があると説明する。

A：イマ オキヤクサンガ クツカラ。

B：キョーネー トモダチ クルノッサー。

C：サッサト カタヅケライン、オキヤクサン クルンダカラ。

(4) の場面会話調査②は、聞き手に注意する場面であり、そのためそこで提示される理由は聞き手も「知っている（理解している）」べき**一般的な理由**であることが多い。

(4) 場面会話調査②：聞き手も知っているべき理由を述べる

状況：居間で夫が座卓の端に湯呑を置いているので、そこに置かないように言うと、夫が「どうして（ナシテ）」と聞き返してきたため、危ないからと説明する。

A：ダレ ハジニ オイデ アブネーモノ。（「ガラ」も使用）

B：イツモ コボシテツカラサー。

C：プリントニ シミ ツグカラ。

この2つの調査は情報の個別性と一般性について考察しようとしたものである。調査①は話し手のみ知っている個別的で一回的な理由（「今日はたまたま来客がある」）を提示する場面で、調査②は聞き手も知りうる一般的な理由（「湯呑を端に置くのは危ない」）を話し手が提示する場面である。

「モノ類」は形式名詞「もの」に由来するため、助詞化した「モノ類」においても情報の一般性が関わると考えられており（坪井 1996, 小原 2016b）、この点から、調査②では「モノ類」が出現しやすいと推測される。(4) の結果をみると、話者Aに関しては、予想通り「モノ類」が現れているが、話者BとCでは「カラ」が選ばれている。話者BとCは、調査者の意図に反して、「危ない」という表現を用いなかったため、十分な一般性を持ちえなかった可能性がある。話者Bに関しては「イツモ」と述べているため、ある程度の一般化がみられるものの、「イツモ コボシテ」いるという事実が夫にのみ限定されるため、だれにでも当てはまるような普遍性を持ちえなかったのかもしれない。今後詳しく調査すべき課題である。

この調査②では、一般性とは別の要因が働いている可能性もあるため、それも指摘しておかなければならない。この調査のように「危ない」と言って注意する場合、聞き手の行為に強く反発するという意図が話し手にあり、それが「モノ類」の出現と関連している可能性がある。仮にそうであれば、以下の(6)の調査④や、(7)の調査⑤の結果と併せて考える必要があるだろう。

4.2.2 形式的質問への返答として、理由を述べる場合

(5) の場面会話調査③と(6)の場面会話調査④も、調査①と②と同様に質問に対して返答をする場面の調査である。ただし、これらの調査③と④では、質問の形式をとりながら、言外に別の意図を伝えることが多いため、先の調査とは分けて考察している。

(5) の調査③では、話し手がカラオケで歌わなかった理由を、聞き手が純粋に知りたいと思っ

ている場合もあるが、「歌えばよかったのに」と惜しんだり、からかったりする気持ちを言外に伝えることも多い。

(5) 場面会話調査③：相手の質問に個別的な事情を説明する

状況：町内会の宴会でカラオケのマイクが回ってきたが、あなたは歌うのを断った。後で友人から、どうして歌わなかったのかと尋ねられたので、その理由を答える。

A：ナンダカ トシトツタツケ、コエ デナクナッタ**カラ**。

B：ダーレ アダシ ウダッタコトナイ**シー**。

C：ヒトガ イッパイダ**モン**。アガッテシマウヨ。

調査③の結果では、話者Cが「モン」を用いているが、それぞれの話者がどのような理由で形式の選択したかについては、残念ながらこの調査だけではわからない。この状況に対する話し手の個別的な事情に依存すると考えられるため、話し手の事情を場面設定の段階で明確に指定する必要があるだろう。

(6) の場面会話調査④も質問に対する応答であるが、これまでにみた調査①②③と異なり、聞き手からの質問は、疑問を尋ねるという目的よりも、話し手を責めるという目的の方が強いと言えそうである。このような場面では、話し手の返答が反論という形になりやすい。

(6) 場面会話調査④：相手の質問に反論しながら理由を述べる

状況：あなたは炎天下の中、徒歩で用事を済ませて帰ってきた。部屋の中も暑かったので、強めに冷房をつけた。車で帰ってきた夫が、どうしてこんなに冷房を強くしているのかと、尋ねてきたので反論する。

A：ダレ コノ アズサノ ナガ アルツテキタンダ**モノー**。

B：ダーレ アツイ {デバー/**モノー**}。

C：ダッテ アツクテ シニソーダ**モン**。

この調査④では、全ての話者の回答に「モノ類」が現れている。反論する際には「モノ類」が高い確率で用いられるようである。以下では、この「反論」という行為の内実を詳しくみていきたい。

4.2.3 聞き手の発言に直接反論する場合

ここで扱うの(7)の場面会話調査⑤は、先の調査④と同様に聞き手に反論する場面である。ただし、調査④と異なり、調査⑤の場面では、話し手が理由を述べず、ただ事実だけを述べている。

(7) 場面会話調査⑤：相手の発言に直接反論する

状況：あなたはテーブルに置いたカギを探している。夫に「カギをテーブルに置いた

はずなんだが知らないか」と尋ねると、夫は「テーブルに置いたならテーブルにあるだろう」と言い返してきたので、「あるって言われてもない」と反論する。

A：ンダッテ、アルッテ イワレデモ ネー**モノ**。

B：ナンダベ、ナイガラ キーテン**ノニー**。ナインダ**デバ**。

C：ナンボ サガシテモ ネー**モノ**。

この調査⑤では、話者AとCが「モノ類」を用いている。この場面で話し手は理由を述べていないため、調査④のように「ダレ／ダーレ」や「ダッテ」は用いられていない。この種の「モノ類」の用法は共通語にもみられるが、その発生は詳らかではない。「ないよ。だってないもの。」のような、判断と根拠の内容が同一であるトートロジー的な表現に起因すると考えれば、調査⑤の「モノ類」に現れる用法も、理由の用法の延長線上に捉えることが可能である。

4.2.4 相手の発言と対立的な理由を述べる

(8) から (10) の場面会話調査⑥⑦⑧で扱うのは、話し手が聞き手の発話を否定し、そのうえで否定した理由を述べる場面である。この調査⑥⑦⑧は、先の調査④⑤と同様に、話し手と聞き手の認識が対立している。

(8) の調査⑥では、相手の確認要求（「あなたでしょ？」）に、「ちがう」と否定で答えたいうえで、その理由を述べる場面である。

(8) 場面会話調査⑥：忘れ傘が自分の傘でないことを述べる

状況：町内会の集まりが終わって帰ろうとすると、友人が傘を振りながら「(あなた)さんのでしょ」と呼び掛けてくる。あなたはそれがあなたの傘でないことを述べる。

A：オレンナ コレ モッテダ**ガラ**。

B：ワタシワ コレ ジブンノ モッテッ**カラ**。

C：ワタシ モッテッ**カラ**。

調査⑥の結果は、すべて「カラ」になった。全員が「カラ」を選んだ理由は、この場面での友人の確認要求発話がほぼそのまま質問になっていることが原因と考えられそうである。場面設定を変えて、聞き手が断定的に述べるような状況に設定すれば、話し手が強く否定することになり、理由を提示する際に「モノ類」が出現する可能性がある。

次の(9)の調査⑦は、話し手が友人の誘いを断ったうえで、その理由を述べる場面である。

(9) 場面会話調査⑦：誘いを断る

状況：近所の友人から町内会の温泉旅行に一緒に行こうと誘われるが、甥の結婚式があるため断る。

A：オズガイ（招待） モラッテツ**カラ**。

B：ダレー イガレネー。ダメダー。オイッコノ コンレイサ ブツカッタ**モノー**。

C：ソノヒワ トックニ ヨテー ハイッテツ**カラ**。

調査結果では話者Bのみが「モノ類」を用い、話者AとCは「カラ」を用いている。「モノ類」を用いている話者Bに特徴的なのは、「ダレー」で始まり、「ダメダー」と嘆息している点である。話者Bと比べると、話者AとCは淡泊に断っている。このことから、誘いが断りにくい際に、「モノ類」が用いられていると考えられるかもしれない。

(10) の場面会話調査⑧は、聞き手が「たまたまだ」のように謙遜したので、話し手はそれを否定してから、聞き手を褒める場面である。

(10) 場面会話調査⑧：相手を褒める（相手が謙遜した場合）

状況：友人がNHKの「のど自慢大会」に出て優勝した。その友人にたまたま道端で会ったので褒める。その友人謙遜した場合はどのように言うか。

A：マダ ソンナコトバリ ユッテー。ジョーズダッタ**ツチャー**。

B：ナニー アンダ イッツモ ウタッテ ウマイ**モノー**。ミンナオ ヨロコバセル**モノ**。タイシタ モンデガスー。

この調査⑧は当初、「相手を褒める場面」として設定しており、相手が謙遜することは盛り込んでいなかったが、どの話者の回答にも「カラ」や「モノ類」が出現しなかった。そのため、急遽、AとBの話者に対しては「相手が謙遜した場合」という条件も加えて追加調査したのが(10)の結果である。相手（聞き手）をいったん否定するため、理由が強い主張を伴うことになり「モノ類」が選ばれると考えられそうである。

5. 調査結果のまとめ

今回の調査では終助詞の位置に出現する「モノ類」（終助詞「モノ類」）について、「カラ／ガラ」などの他の形式との対比で調査した。その結果、「モノ類」は「カラ／ガラ」のような汎用的な形式ではなく、話し手が聞き手の発言と対立するような理由や情報を述べる際に好んで用いられる形式だということが分かった。これは、小原（2016a, 2017a）が談話資料を用いて述べてきた「モノ類」の特徴とも対応している。

また、話し手がどのような場面で、対立する理由や情報を「モノ類」によって提示するのか、という点についても、具体的に明らかになった。これまでに指摘してきた「反論」の場面以外にも、「誘いの断り」や「相手の謙遜の否定」などの下位場面があることが分かった。今後は、これらの場面の構造について詳しく考察しながら、「モノ類」が高い確率で出るような条件を探っていく必要があるだろう。

文 献

- 小原雄次郎 (2016a) 「宮城県方言におけるモノ系終助詞の形態と用法」 日本方言研究会第 103 回研究発表会発表原稿集、於東北文教大学
- 小原雄次郎 (2016b) 「終助詞「もの」の意味と用法の派生」『言語科学論集』(東北大学大学院文学研究科言語科学専攻) 第 20 号
- 小原雄次郎 (2017a) 「宮城県方言におけるモノ系終助詞の形態と用法」『国語学研究』(東北大学文学研究科「国語学研究」刊行会) 第 56 号
- 小原雄次郎 (2017b) 「東北方言におけるモノ系終助詞の諸相」、第 404 回国語学研究会、於東北大学
- 坪井由香里 (1996) 「終助詞・接続助詞としての「もの」の意味ー「もの」「ものなら」「ものの」「ものを」ー」『日本語教育』91
- 藤原与一 (1986) 『方言文末〈文末助詞〉の研究 (下)』春陽堂書店

行為指示表現の体系

八巻千穂

1 はじめに

宮城県方言には、敬語表現として文末形式「(ラ)イン」が挙げられる。この表現は加藤・小林・佐藤(1982)において「書かイン」や「見ライン」のように、動詞の未然形に接続し、共通語では「書きなさい」、「見なさい」といった意味に該当する、丁寧な勧誘・命令表現とされている。つまり、相手に何らかの行為を勧めたり、指示したりする表現、「行為指示表現」である。「(ラ)イン」は代表的なものとしてよく取り上げられるが、他にも行為指示表現のバリエーションが存在することは明白であることから、全容を明らかにする必要がある。また先行研究においては命令表現のみ、依頼表現のみ等、別個に研究されているが、まとめて研究することでそれぞれの形式についてもさらに詳細な記述ができるのではないだろうか。

本稿では気仙沼市において、①気仙沼方言において、行為指示表現の体系がどのようになっているのか、②伝統的な方言形式の使用に性差や、使用相手の差は見られるか、という2点について調査を行ったものである。

なお、本報告は特に断らない限り、高年層の話者3名の面接調査の結果によったものである。3名の話者については、昭和13年生まれの女性〔昭13女〕、昭和31年生まれの女性〔昭31女〕、昭和32年生まれの男性〔昭32男〕である。

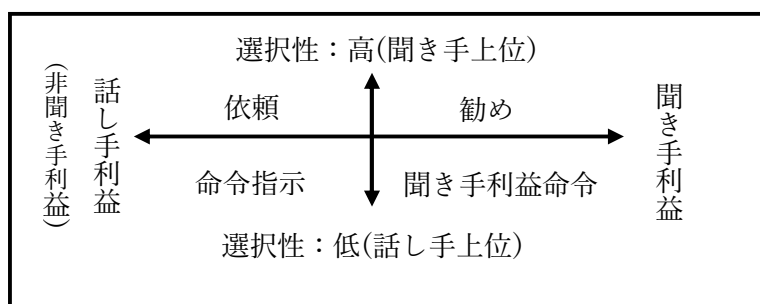
2 調査項目とその意図

(1) 行為指示表現の分類

今回、調査票の場面を設定する上で用いた分類は、森(2016)において挙げられている「行為指示表現の分類」である。行為指示表現とは、聞き手に何らかの命令、依頼といった行為の指示をすることである。

この行為指示表現には話し手に利益があるのか、聞き手に利益があるのかという軸(受益者)と、話し手がどれだけその行為を遂行したく、どれだけ強制力があるのかという軸(選択性)で、「依頼」、「命令指示」、「勧め」、「聞き手利益命令」の4つに分類している。

図1 行為指示表現の分類 森(2016)



(2) 対話相手の設定

行為の指示をする上で、話し手と聞き手の関係性というものは非常に重要である。森(2016)においても、「恒常的であれ、臨時的であれ、話し手と聞き手の上下関係は選択性を考慮する上で重要である」とある。ただし、上下関係の中にも親しいのか・親しくないのかによって接し方は変わるものだと考えられるため、ここでは親疎関係を「親しい相手」、「疎遠な関係」に二分し、その中で上下関係を取り扱うこととする。実際に調査した対話相手は以下に挙げたものである。

【親しい相手】

- ①家族 年上／同年代／年下
- ②友人 年上の親しい人／同年代の親しい人／年下の親しい人

【疎遠な相手】

- ③知人 年上の親しくない知人／同年代の親しくない知人／年下の親しくない知人
- ④初対面 年上の初対面の人／同年代の初対面の人／年下の初対面の人

以上の(1)、(2)を組み合わせ、質問を作成した。例えば「勧め」の場面の場合、年上の家族から順に対話相手を挙げ、その相手に対してどのような言うかを回答してもらい、さらにその場面で「(ライン)」や「テケライン」が用いられることが想定されるが回答されない場合は、用いるか否かを確認することとした。「(ライン)」は先行研究の中でも取り上げられることが多く、宮城県方言の行為指示表現の中でも特徴的な形式であるものの、使用場面や使用相手など不明確な点が多いことから、特に注目すべきと考えたためである。

3 調査結果

本稿では調査結果の動詞部分について、どのような付属形式が用いられているかを考察対象とし、配慮表現として用いられた「よかったら～」や、「すみませんが～」といったものは考慮しないものとする。先に動詞部分まで含めた形式を列挙する。

【回答された形式】

タベテ／タベテミテ／タベテミナ／アガッテッテクダサイ／ヤスンデイガナイスカ／ヤスンデイキマセンカ／ニゲナクチャ／ニゲッペシ／カシテケンネスカ／カシテ／カシテクレナイスカ／カシテクレナイ／カシテモラエマスカ／オシエテイタダケマセンカ／オシエテモラエナイデスカ／オシエテイタダケナイデスカ／イカイン／オアガリクダサイ／アガッテッテ／アガライ／ノンデガナイ／イソイダホーガイイデスヨ／ニゲヨー／ニゲンダヨ／ニゲマショー／ニゲッペネー／カシテケライン／オシテホシインダケド／オシエテイタダキタインデスケド／イガネノスカヤ／イガネーノ／アガラハレセ／イップグシテゲ／カシテケンネベガネス／カシテケロ／カシテケンネガ／ヤメネーノ

まず、話者ごとの回答結果を表1から表3にまとめる。なお、表を作成する際に、「勧め」、「聞き

手利益命令」、「依頼」、「命令指示」を、丁寧に言わなければならないであろう順に並び替え、左から「依頼」、「勧め」、「聞き手利益命令」、「命令指示」に並び替え、さらに動詞の付属形式部分のみを取り出し、表を作成した。こうすることで用いられた形式の丁寧さや、話者の共通語・方言の使い分け方に注目していきたい。また、回答を求めた動詞を用いるのではなく、「時間ですよ」といった表現のみが回答された場合、「婉曲表現」と表記した。

表 1 「昭13女」の回答結果

相手\場面	依頼		勧め		聞き手利益命令		命令指示
	～テケン ネスカ	～テ	～テ	～テ ミテ	～ナク チャ	～ベシ	
年上 家族							～テ
同年代 家族	～テ		～テミテ		命令形		婉曲表現
年下 家族			～テミナ			～ナク チャ	
年上 親しい友人	～テクレナイスカ		婉曲表現		～ナクチャ		～テ
同年代 親しい友人	～テクレナイ		～テ				
年下 親しい友人	～テモラエマスカ						
年上 知人	～テイタダケマセン カ		～テクダサイ		～ナクチャ		～テ
同年代 知人	～テモラエナイデス カ		～テイガナイスカ ～テ				
年下 知人	～テイタダケナイデ スカ		～テイキマセンカ				
年上 初対面	～テイタダケマセン カ		婉曲表現		～ナクチャ		～テクダサイ
同年代 初対面							
年下 初対面							

表 2 「昭31女」の回答結果

相手\場面	依頼	勧め		聞き手利益命令	命令指示
年上 家族	~テクダサイ ~テケライン	婉曲表 現	(ラ)イ ン	(ラ)イン	(ラ)イン
同年代 家族	~テ	婉曲表現		~テ 命令形	~テ
年下 家族					命令形
年上 親しい友人	~テホシインダケ ド ~テ	~クダサイ		~ベシ (ラ)イ ン	(ラ)イン
同年代 親しい友人	~テク ダサイ	~テケ ライン	(ラ)イン		
年下 親しい友人		~テ	~テ		
年上 知人	~テクダサイ	(ラ)イン		(ラ)イン ~ダヨ	~テ
同年代 知人		~ナイ	~テ	~ベシ ~ダヨ	(ラ)イン
年下 知人				~ベ	~テ
年上 初対面	~テイタダキタイ ンデスケド	~ホーガイーデス ヨ		~マシヨ ー	(ラ)イ ン
同年代 初対面	~テクダサイ	~テ		~テ	~テクダサイ
年下 初対面				~ベ	

表 3 「昭 32 男」 の回答結果

相手\場面	依頼		勧め	聞き手利益命令	命令指示	
年上 家族	～テケンネスカ ～テケンネベガネス		～ネノスカヤ	命令形 ～(ラ)イン	～(ラ)	命令形
同年代 家族	命令形	～(ラ)	～ネーノ		イン	
年下 家族	～テケロ	イン			婉曲表現	
年上 親しい友人	～テケンネスカ ～テケンネベカ		～ハレセ	命令形 ～(ラ)イン	～(ラ)	命令形
同年代 親しい友人	命令形	～(ラ)イン	～(ラ)イン		婉曲表現	
年下 親しい友人	～テケロ ～テケライン		命令形		命令形	
年上 知人	～テケンネスカ	～テガハレ セ	～(ラ)	命令形 ～(ラ)イン	命令形	～ネーノ
同年代 知人	～テケンネガ	～テゲ	イン		命令形	
年下 知人			命令形			
年上 初対面	～テイタダケマセン カ	～(ラ)イン ～テクダサイ	命令形 ～(ラ)イン	命令形 ～(ラ)イン	NR	
同年代 初対面						
年下 初対面						

表1より、〔昭13女〕は方言形式の使用自体が少なく、用いているのは依頼の場面で年上の家族と年上の親しい友人に対して、「～て+け(動詞「ける」の未然形)+ない(ね)+待遇表現「ス」+か」の「～テケンネスカ」、「～テクレナイスカ」、聞き手利益命令の場面で家族に対して「ベシ」くらいである。

表2より、〔昭31女〕は、依頼では親しい相手、疎遠な相手の両方ともに共通語と同様の形式を用いていることがうかがえる。方言形式は年上の家族、同年代の親しい友人に限られており、共通語を用いることが丁寧とされているのであろう。勧めでは方言を使うかどうかは対話相手を知っているかどうかにかかっているようである。また、聞き手利益命令では「ベ・ベシ」が初対面の相手にも用いられており、「(ラ)イン」よりも丁寧な表現の可能性が高い。命令指示では聞き手利益命令と同じような対話相手に「(ラ)イン」が用いられており、命令的な表現であることがうかがえる。

表3より、〔昭32男〕は女性に比べ、圧倒的に命令形の使用が多いことに注目したい。動詞の命令形のほかにも動詞「ける」の命令形が付属形式となった「～テケロ」、「食べて行け」などの「て行け」のイが欠落した「～テゲ」も用いられており、男性であるとはいえ、共通語よりも荒く聞こえる一因ではないだろうか。また、共通語形式が出てくるのは依頼・勧めの初対面の人のみであり、知り合いか否かが共通語と方言形式の使い分けの基準となっているようである。

3.1. 各形式の考察

続いて本節では各方言形、そして共通語と同様の形式ではあるが使い方が異なると考えられる形式を考察していくこととする。調査票作成の際、森(2016)の行為指示表現の分類の枠組みを用いて場面設定を行ったが、本節では各形式がどの意味で用いられているかに注目し、気仙沼方言の行為指示表現の特徴を明らかにしていきたい。

以降の図に用いた記号について説明を行う。「○」は女性、男性ともに使用が見られる場合、「●」は女性2名の使用の場合、「△」は1名のみを使用の場合、「×」は使用なしの場合である。また、使用できる対話相手の表については、使用できる場合は「○」、できない場合は「×」で表記した。

3.1.1. (ラ)イン

家族、親しい友人といった親しい人が対話相手の場合の結果を図2、表4にまとめる。

男女ともに「勧め」の場面において「(ラ)イン」の使用が見られた。ただし〔昭13女〕が用いていない点から、世代差があることがうかがえる。詳しく見ていくと、使用できる対話相手は親しい友人が主である。

「聞き手利益命令」では〔昭31女〕、〔昭32男〕が使用すると回答しているが、〔昭31女〕は家族に対して、〔昭32男〕は家族・親しい友人の区別なしに用いている点、差異が見られる。女性は「(ラ)イン」が用いられていない部分に次節で取り上げる「ベシ」が用いられており、「(ラ)イン」と「ベシ」に補完関係が見られるのではないだろうか。

また、「依頼」については使用が見られなかった。

「命令指示」では〔昭 31 女〕が家族、親しい友人に関係なく用いており、〔昭 32 男〕は主に家族に対して用いている。設定した質問文では対話相手に強く伝えると注意している上に、特に高年層においては友人にも用いていることから、比較的丁寧ではあるものの、命令的な表現であることがうかがえる。

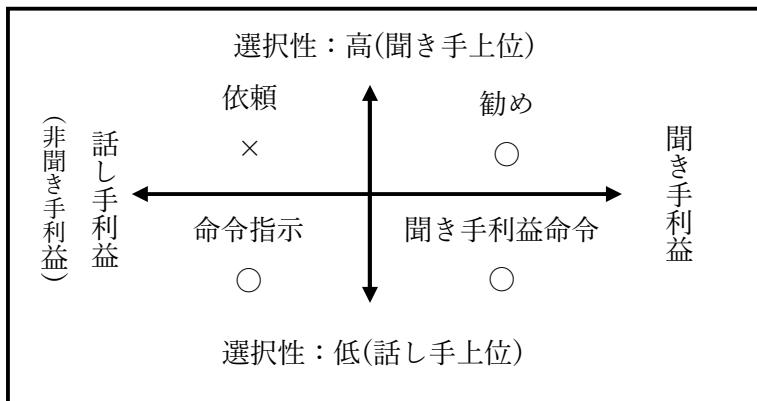


図 2 親しい対話相手の場合の「(ラ)イン」

表 4 親しい対話相手の場合の「(ラ)イン」の使用の有無

対話相手\話者	勧め			聞き手利益命令			命令指示		
	13 女	31 女	32 男	13 女	31 女	32 男	13 女	31 女	32 男
年上・家族	×	○	×	×	○	○	×	○	○
同年代・家族	×	×	×	×	○	○	×	○	○
年下・家族	×	×	×	×	×	○	×	×	×
年上・親しい友人	×	×	○	×	×	○	×	○	○
同年代・親しい友人	×	○	○	×	○	○	×	○	×
年下・親しい友人	×	○	×	×	×	○	×	○	×

疎遠な対話相手の場合の結果を図 3、表 5 にまとめる。「勧め」では親しくない知人では〔昭 31 女〕、〔昭 32 男〕の 2 名に使用が見られるが、初対面の人に対しては〔昭 32 男〕のみが使用できるとしている。〔昭 32 男〕は全くの初対面にも用いており、「(ラ)イン」を丁寧な表現としてとらえていることがうかがえる。

「聞き手利益命令」では〔昭 31 女〕は親しくない知人には使用できるとしているが、〔昭 32 男〕は知人・初対面の区別なく使用可能としている。「勧め」の場合と似ており、〔昭 32 男〕は「(ラ)イン」を丁寧な表現として用いている可能性が高い。

「命令指示」では〔昭 31 女〕のみが同年代の親しくない知人と年上の初対面の人が相手の場合に使用できるとしており、丁寧な表現であると同時に命令的な表現であることがうかがえる。

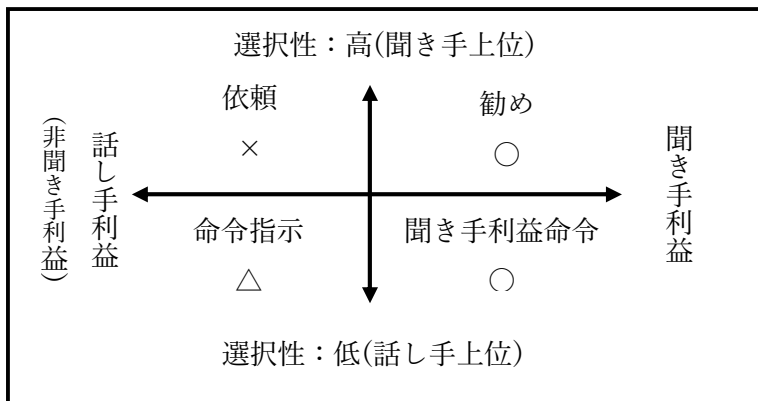


図 3 疎遠な対話相手の場合の「(ラ)イン」

表 5 疎遠な対話相手の場合の「(ラ)イン」使用の有無

対話相手\話者	勧め			聞き手利益命令			命令指示		
	13 女	31 女	32 男	13 女	31 女	32 男	13 女	31 女	32 男
年上・知人	×	○	○	×	○	○	×	×	×
同年代・知人	×	○	○	×	○	○	×	○	×
年下・知人	×	×	×	×	○	○	×	×	×
年上・初対面	×	×	○	×	×	○	×	○	×
同年代・初対面	×	×	○	×	×	○	×	×	×
年下・初対面	×	×	○	×	×	○	×	×	×

これらのことから「(ラ)イン」は、主に聞き手に利益がある場合に用いられる行為指示表現であり、疎遠な相手の場合にも使用できるとしていることから、元来丁寧な表現であるといえるのではないだろうか。ただ、[昭 13 女] の使用が見られないことから、世代差が見られる表現であることが分かった。

3.1.2. テケライン

「テケライン」は親しい人が対話相手の場合以外は使用が見られなかったため、図は図 4 のみである。この形式は [昭 31 女] が年上の家族、年上・同年代の親しい友人に使用でき、[昭 32 男] は年下の親しい友人にのみ使用可能である。依頼という相手に負担がかかる場面であることからより丁寧に話さなければならないという意識があり、方言形式はかなり限定された使用になっていると考えられる。

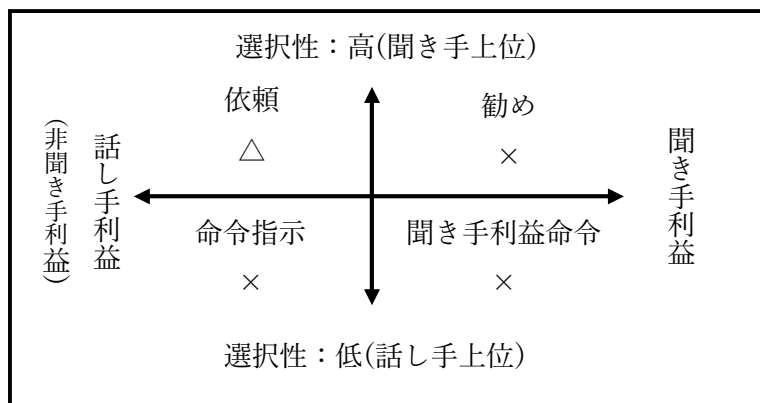


図 4 親しい対話相手の場合の「テケライン」

表 6 親しい対話相手の場合の「テケライン」使用の有無

対話相手\話者	依頼		
	13 女	31 女	32 男
年上・家族	×	○	×
同年代・家族	×	×	×
年下・家族	×	×	×
年上・親しい友人	×	○	×
同年代・親しい友人	×	○	×
年下・親しい友人	×	×	○

3.1.3. ベ・ベシ

「ベ(ペ)」は推量・意志・確認・勧誘で用いられる助動詞であり、「ベシ(ペシ)」については東北大学方言研究センター(2014)において「強く勧める用法」を持つとして「ベ(ペ)」と同じ項の中で取り上げられているため、本稿でも同じ節の中で取り上げることとする。

「聞き手利益命令」では〔昭13女〕と〔昭31女〕が使用しているが、ここで考慮しなければならないのはこの「ベ・ベシ」が自分も一緒に行動する勧誘の意味として用いられている可能性がある点である。もちろん、調査の際には「相手のみが行うように伝える」ように注意をされており、その注意を踏まえた上で回答をしてもらっているが、この可能性も捨てきれない。しかしながら玉懸(1999)において、仙台市方言の「ベー」には「ある現実化していない事態の現実化を自らの行為でもって図るように聞き手に勧める」という場合に用いる「勧誘(exclusive)用法」があるとされており、気仙沼方言でも用いられる「ベ(ベシ)」も同様の用法を持つと考えられる。

また、対話相手について〔昭13女〕は家族にのみの使用であるのに対し、〔昭31女〕は家族以外へ使用できるという点が非常に興味深い点である。方言形式をあまり用いない〔昭13女〕が用いて

いる点で比較的丁寧な表現であることも考えうるが、〔昭31女〕が疎遠な対話相手にも用いていることから、丁寧かつ命令的な表現であるのだろう。加えて〔昭32男〕が用いていないことから、女性の使用が主であることも考えられる。

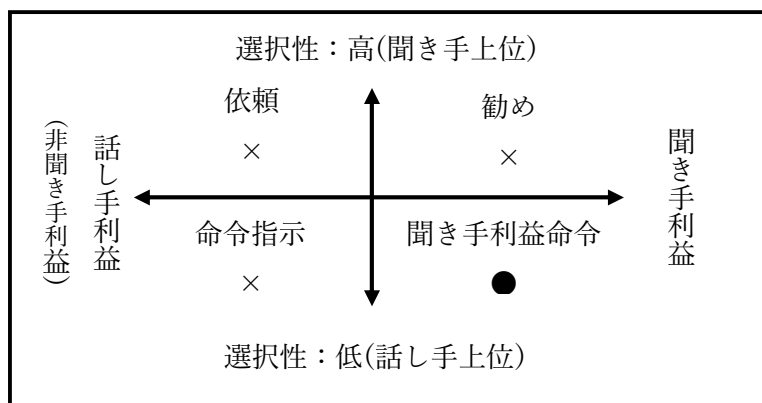


図5 親しい対話相手の場合の「ベ・ベシ」

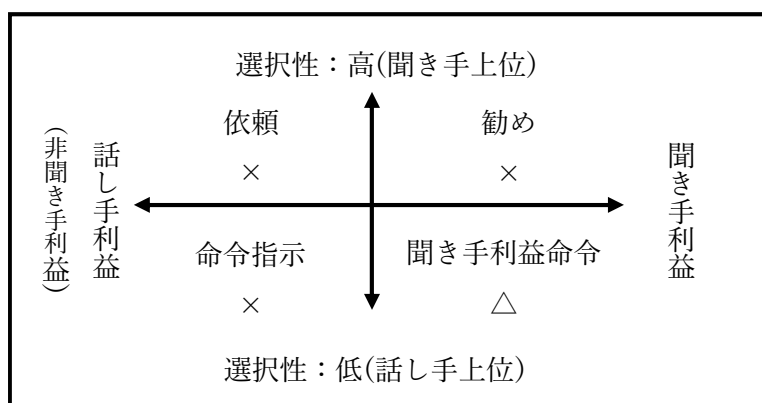


図6 疎遠な対話相手の場合の「ベ・ベシ」

表7 「ベ・ベシ」の使用の有無

対話相手\話者	聞き手利益命令			対話相手\話者	聞き手利益命令		
	13女	31女	32男		13女	31女	32男
年上・家族	○	×	×	年上・知人	×	×	×
同年代・家族	○	×	×	同年代・知人	×	○	×
年下・家族	×	×	×	年下・知人	×	○	×
年上・親しい友人	×	○	×	年上・初対面	×	×	×
同年代・親しい友人	×	○	×	同年代・初対面	×	○	×
年下・親しい友人	×	○	×	年下・初対面	×	○	×

3.1.4. 命令形

動詞の命令形の使用について、親しい対話相手の場合の結果を図7、表8にまとめ、疎遠な対話相手の場合の結果を表9にまとめる。なお、疎遠な対話相手の場合については使用するとの回答が〔昭32男〕のみだったため、図は作成しなかった。

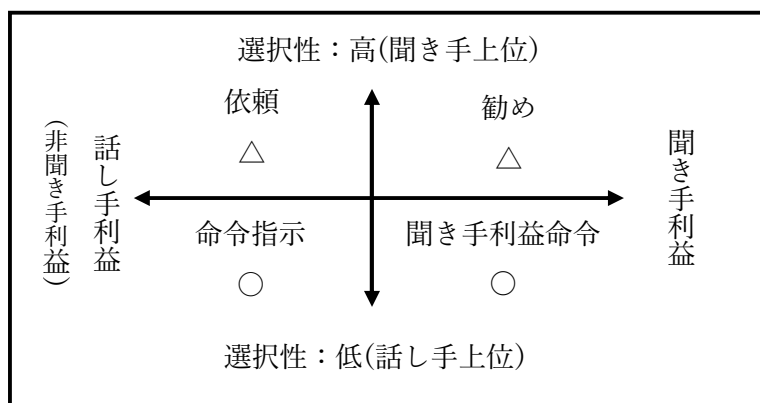


図7 親しい対話相手の場合の命令形

表8 親しい対話相手の場合の命令形の使用の有無

対話相手\話者	勧め			聞き手利益命令		
	13女	31女	32男	13女	31女	32男
年上・家族	×	×	×	×	×	○
同年代・家族	×	×	×	×	×	○
年下・家族	×	×	○	×	○	○
年上・親しい友人	×	×	×	×	×	○
同年代・親しい友人	×	×	×	×	×	○
年下・親しい友人	×	×	×	×	×	○
対話相手\話者	依頼			命令指示		
	13女	31女	32男	13女	31女	32男
年上・家族	×	×	×	×	×	○
同年代・家族	×	×	○	×	×	×
年下・家族	×	×	×	×	○	×
年上・親しい友人	×	×	×	×	×	○
同年代・親しい友人	×	×	○	×	×	×
年下・親しい友人	×	×	×	×	×	○

表 9 疎遠な対話相手の場合の命令形の使用の有無

対話相手\話者	勧め			聞き手利益命令			命令指示		
	13女	31女	32男	13女	31女	32男	13女	31女	32男
年上・知人	×	×	×	×	×	○	×	×	×
同年代・知人	×	×	×	×	×	○	×	×	×
年下・知人	×	×	○	×	×	○	×	×	×
年上・初対面	×	×	×	×	×	○	×	×	○
同年代・初対面	×	×	×	×	×	○	×	×	×
年下・初対面	×	×	×	×	×	○	×	×	×

日本語記述文法研究会(2013)では命令の機能を持つ基本的な形式である動詞の命令形について、「女性が「しろ」を用いることはほとんどない」としているが、今回の調査結果では女性が用いる結果となっている。聞き手利益命令、命令指示の場面であり、年下の家族に限られてはいるものの、気仙沼方言では女性が命令形を日常的に使用していることから、共通語ほど命令形が強いニュアンスを持った表現ではないことが考えられる。

〔昭32男〕については依頼にも用いている点、興味深い。男性という点を考慮しても、依頼という場面上配慮する必要性は高いはずが、動詞の命令形のみならず「～テケロ」という命令形の付属形式も用いていることから、気仙沼方言においては男性であればこういった、共通語の感覚からすると一見ぞんざいな表現を用いることも可能なのであろう。

3.2. 気仙沼方言における行為指示表現の体系

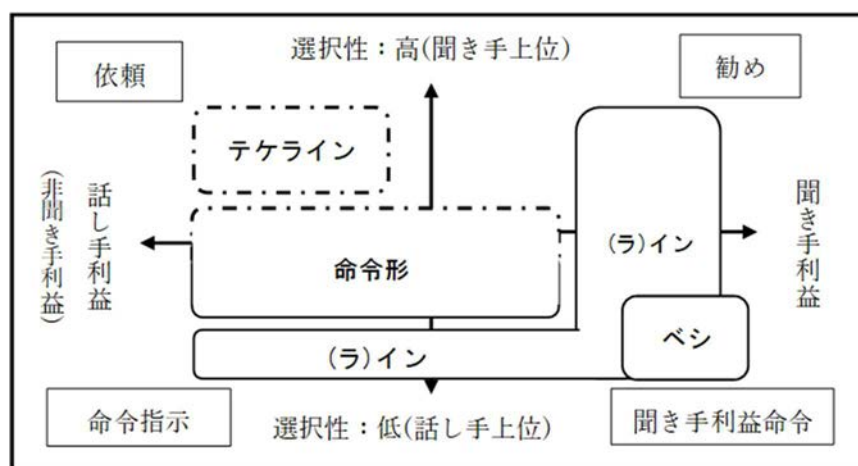


図 8 気仙沼方言における行為指示表現の体系案

以上、今回取り上げた方言形式をまとめると、図8のようにまとめることができるのではないだ

ろうか。

ただし、「ベ・ベシ」については女性の使用が主である点、動詞の命令形の使用は男女に見られるものの男性の方が使用可能な範囲が広い点、「テケライン」については依頼で用いる形式ではあるものの、依頼は相手への配慮が求められる場面であることから方言形式の使用が躊躇われ、共通語形式の使用が優勢である点を考慮に入れなければならない。また、今回取り上げた形式は調査結果の中の一部であることや、共通語形式の使用も多く見られたことから、さらにほかの形式も含めて研究を進めていく必要があるだろう。

文 献

加藤正信・小林隆・佐藤和之(1982)「宮城県北地方の方言調査報告」『日本文化研究所研究報告』別巻 19 pp1-28

玉懸元(1999)「仙台市方言の「ベー」の用法」『言語科学論集』3 pp.37-48 東北大学

東北大学方言研究センター(2014)『生活を伝える被災地方方言会話集－宮城県気仙沼市・名取市の100場面会話－』

日本語記述文法研究会編(2013)『現代日本語文法4 第8部モダリティ』くろしお出版

森勇太(2016)『発話行為から見た日本語授受表現の歴史的研究』ひつじ書房

山浦玄嗣(1986)『ケセン語入門』共和印刷企画センター

「トゼン類」の形態と意味

八木澤 亮

1 はじめに

2017年度に筆者が行った気仙沼市方言調査では、高年層の話者(生え抜きの話者)を対象として、漢語「徒然」に由来する方言形式(以下、トゼン類とする)に関する記述調査を行った。2018年度の調査においても、昨年度に引き続き、調査対象をトゼン類に設定した。

ここで、当該の方言形式について概説しておきたい。トゼン類は、「トゼンダ」「トゼネー」「トゼンナカ」などの形態をもち、主に「たいくつだ」「さびしい」といった意味を有する方言形式である。東北地方と九州地方に分布する全国型の周圏分布の典型例であり、その語源が漢語ということもあって、学界では長く注目されてきた。遠藤好英(2006)、福島邦道(1988)などは、その先鞭をつけた論考と言える。そして、八木澤亮(2018b)によれば、中国から日本に取り込まれた漢語「徒然」は、当初、記録体など貴族の文章語として使用されていたが、中世中期に至ると口語資料に出現する。この頃から「徒然」は口頭語的な性格を帯びるようになり、使用者の階層も庶民へと広まり出したという。そして、その頃成立した口語性の強い「トゼンナ」という形式が方言に伝播したことによって、現在の多様なトゼン類の分布が発達したと考えられている。

ところで、本調査を実施した宮城県気仙沼市においても、トゼン類の使用が確認されている。菅原孝雄(2006)、山浦玄嗣(2000)^{註1}などに言及があるほか、八木澤亮(2018a)では気仙沼市におけるトゼン類の語形・意味について考察されている。本報告では、これらを踏まえて、トゼン類の使用の条件についてより考察を深めるとともに、トゼン類の周辺、すなわち類義語の意味領域や他の語との棲み分けについても報告したい。ただし、あくまでも調査対象はトゼン類であり、類義語の意味領域の問題は派生的な課題であって、それを把握することは本研究の主たる目的として設定したわけではない。類義語についての論述は試論や推論の域にとどまらざるを得ないが、あらかじめ断っておく。

本研究の目的を大きく整理すれば次のようになる。すなわち、第一に語形・意味の確認、第二に使用状況および使用条件の詳細な確認、第三にトゼン類の類義語の確認である。

2 調査の概要

2.1 話者

調査は2018年8月、3名のインフォーマントに対して実施した。いずれも気仙沼市生え抜き話者である。

- m1：1956 年生まれ（調査時 61 歳）、男性、出身：気仙沼市要害
 m2：1955 年生まれ（調査時 62 歳）、男性、出身：気仙沼市幸町
 f1：1934 年生まれ（調査時 84 歳）、女性、出身：気仙沼市唐桑町

2.2 調査票の構成

主に 3 種類の調査からなっている。第一に《語形・意味の確認》であり、昨年度と同様、トゼン類の語形と意味、使用する世代を尋ねた。第二に《使用状況および使用条件の詳細な確認》であり、トゼン類を使用する可能性のある状況をさまざまに設定し、実際に使えるのかどうか、使えない場合はどのような語彙を代わりに使うのかを尋ねた。第三に《トゼン類の類義語の確認》であり、トゼン類と意味的な類義関係にある語と思われる語の意味を確認し、その語を含む例文を作成していただいた。なお、類義語と思われる語は、気仙沼近辺・東北地方の方言集などから収集した。

3 調査結果

3.1. トゼン類の語形・意味

トゼン類の使用の可否、使用する世代、語形、意味について、表 1 に示す。

表 1 気仙沼市におけるトゼン類

	m1	m2	f1
使用の可否	使う	使う	使う
使用する世代	70 代より上の世代	40 代でも使う	昭和 1 桁生まれの世代
語形	トーゼン（トゼン）ダ ナー、 トーゼンダカラ、 トーゼンダヤー	トーゼンダ	トーゼンダ
意味	ひま、たいくつだ、な んとなくさびしい	たいくつ、ひま	さびしい、たいくつ

今回の調査において、基本的には 2017 年度の方言調査と類似した傾向が観察された。語形は「トーゼンダ」という長音化した形の形容動詞がほとんどで、意味は「たいくつだ」、「ひまだ」と「さびしい」にまたがっているものと思われる。ただし、m2 が「40 代でも（トゼン類を）使う」と回答しており、昨年度の調査においては高年層のみの使用が推測されたが、少し下の世代も使える場合があることが今回の調査では明らかになった。なお、若年層および世代差については調査が及んでいないので、今後の課題としたい。

実際にどのような文において使うのか、それぞれの話者の回答を順に述べる。m1 は、「トーゼンダカラ、縫い物をしよう」、「（誰かが）来るまでトーゼンダ」、「漁に出られなくてトーゼンダ」な

どのようにトゼン類を使うという。m2は、「今日は何もすることがなくてトーゼンダ」というように使うという。f1は、「しばらくだな、トーゼンでなかったか」というように使うという。m1とm2に共通することとして、トゼン類は時間をもて余している状況において使われる表現であると言えそうである。f1の回答において特筆すべきこととして、挨拶の場面で使うことが多いと述べておられた点が挙げられる。「しばらくだな、トーゼンでなかったか」という言い方は、知り合いに久しぶりに会ったときに、相手を思いやったり労ったりするために言うものであって、m1やm2のように状況そのものを記述したり描写したりする用法よりも、挨拶という慣用的な使い方のほうにシフトしたものであると言える。このことは世代差として捉えるべきか、地域差として捉えるべきだろうか。現時点ではその疑問に答える用意がないが、m1・m2とf1とは20歳以上離れていること、3名の出身地がそれぞれ別であることから、世代差のあらわれという可能性を示唆するにとどめたい。

3.2. トゼン類の使用状況および使用条件について

3.2.1. 人数・場所・状況による使用の制限

トゼン類を使用できるかどうかを、人数・場所・状況の3つの要素をさまざまに組み換えて確認した。まずは、調査票で提示した状況を順に述べる。

①【1人・家・することがない】

あなたは今、家に1人で居て、することが特にない状況だとします。そのとき、「トゼンダ」と言いますか？

②【1人・家・テレビがつまらない】

あなたは今、家に1人で居て、テレビをみえています。ですが、みている番組は面白くありません。そのとき、(その番組を)「トゼンダ」と言いますか？

③【1人・市役所・時間をつぶす】

あなたは今、用事があって1人で気仙沼市役所に来ました。しかし、混んでいるので「あと1時間お待ちください」と職員に言われたとします。市役所のロビーの椅子にすわってじっと待つことにしました。そのとき、「トゼンダ」と言いますか？

④【2人・家(同室)・することがない】

あなたは今、家に妻ないしは夫と2人で同じ部屋に居て、することが特にない状況だとします。そのとき、「トゼンダ」と言いますか？

⑤【2人・家(同室)・テレビがつまらない】

あなたは今、家に妻ないしは夫と2人で同じ部屋に居て、テレビをみえています。ですが、みている番組は面白くありません。そのとき、(その番組を)「トゼンダ」と言いますか？

⑥【2人・市役所・時間をつぶす】

あなたは今、用事があって妻ないしは夫と2人で気仙沼市役所に来ました。しかし、混んでいるので「あと1時間お待ちください」と職員に言われたとします。市役所のロビーの椅子にすわってじっと待つことにしました。そのとき、「トゼンダ」と言いますか？

⑦【3人・家・友達とお茶を飲む】

今、あなたの家に近所のお友達2人がお茶を飲みに来ているとします。そのとき、「トゼンダ」と言いますか？

このような状況の設定に対して、3名の話者の回答をまとめたものが表2である。使用の可否は基本的に○、△、×の記号で示し、話者のコメントも必要に応じて掲げた。

表2 トゼン類の使用条件（人数・場所・状況）

	m1	m2	f1
①1人・家・することがない	○ 誰もいないことによる	○ 今トゼンダから、飲みに来ないか？	△
②1人・家・テレビがつまらない	×	× 「オモシロクナイ」を使う	×
③1人・市役所・時間をつぶす	× 「ヒマダヤー」なら○	× 相手がいないと使えない	× 使いにくい
④2人・家（同室）・することがない	○ 同郷の人だから使える	○	×
⑤2人・家（同室）・テレビがつまらない	×	×	×
⑥2人・市役所・時間をつぶす	△ 「トゼンダ」よりも「ヒマダナ」のほうが使いやすい	× 目的がある場合には使わない	×
⑦3人・家・友達とお茶を飲む	○	○ 使える人にだけ使う	○ トゼンでなかったか。

この表2をもとに、次のようなことが指摘できるかと思う。

まず、人数が1人である場合について、インフォーマント3名とも、①は可能であって②は使えないということから、トゼン類は何かの対象に対して使う表現ではなく、自分が今現にそうになっている状況を表現するために使われることがわかる。また、同じ1人の場合でも③のように「市役所で（窓口に呼ばれるまで）時間をつぶす」ことにはトゼン類は使えないようである。目的があって（例えば「時間をつぶす」など）そのために過ごされる時間では、トゼン類が使えないということは、裏を返せば、目的のない時間を過ごすときにトゼン類が使用されうるということだと考えられる。加えて、この「時間の経過」「ひま」といったニュアンスのトゼン類と、「さびしい」というニ

ュアンスのトゼン類とは意味的に区別されるもので、それぞれ別のレベルの出来事や状況を説明する意味・用法であると思われる。つまり、根本的には同じような概念を共有しているとしても、それが発話される段階では、異なった意味が産出されてくるように感じられるのである。

次に、人数が2人である場合について、人数が1人の場合と同様、家にいてすることがない④のような状況ではトゼン類が使用される傾向にある。この項目においてf1の回答は「×」となっているが、m1とm2は「○」である。このことから、この「×」は個人差によるものと現段階では考えているが、詳細は今後の課題としたい。加えて、⑤の場合も②の場合と同様、トゼン類は使えない。その場の人数とは関わりなく、何かの対象についてトゼン類を使うことは基本的にはないということがうかがえる。⑥の場合、m1に限って使用可能ということであるが、類似した表現として「ヒマダナ」もあり、これは「トゼンダ」に比べて、よりこの状況に適しているとの教示を得た。したがって、一般的には⑥の場合にはトゼン類は使われにくいと思われる。

最後に人数が3人である場合について、トゼン類はよく使われると考えてよい。m2の「使える人にだけ使う」というのは、同じ方言の話者に対しては使う、というほどの意味である。m1は「今日トゼンかー？／トゼンダから来たのか？」、f1は「トゼンでなかったか？」というように使うとのことであった。とくにf1は「お互いに言い合う」ように使うとのことで、相手の近況をたずねる糸口の表現となっている可能性がある。この場合、コミュニケーションにおける定型句としてトゼン類が使われていると推測されるが、この点について十分に述べる用意がないので、詳しいところは今後の課題としたい。

3.2.2. 「人の不在」の時間の長さによる使い分け

トゼン類の使用に関して、八木澤亮(2018a)では「あるべきものの不在」という要素が大きく関わっていることが示唆された。それは、「人の不在」という形をとって現れることが多い。そのため、今回の調査では、「人の不在」に関してさまざまな設定を設けて、それぞれにおいてトゼン類が使えるかどうかを調査した。

「人の不在」を今回の調査では以下のように6種類に分けた。まずはそれをみていこう。

①【一時的な不在】

近所のお友達が、家にお茶に来ていましたが、つい先ほど、帰ってしまったとします。そのとき、「トゼンダ」と言いますか？

②【半永久的な不在①】

孫が家に遊びに来ていましたが、つい先ほど、帰ってしまったとします。そのとき、「トゼンダ」と言いますか？

③【半永久的な不在②】

娘が嫁に行くことになり、今まで一緒に住んでいた娘が家を離れてから1週間ほど経ったとします。そのとき、「トゼンダ」と言いますか？

④【半永久的な不在③】

娘が嫁に行くことになり、今まで一緒に住んでいた娘が家を離れてから半年ほど経ったとします。そのとき、「トゼンダ」と言いますか？

⑤【永久的な不在①】

親しい友人が亡くなってすぐ（葬儀から 1 週間程度）だとします。そのとき、「トゼンダ」と言いますか？

⑥【永久的な不在②】

親しい友人が亡くなってから半年ほど経ったとします。そのとき、「トゼンダ」と言いますか？

このような状況の設定に対して、3 名の話者の回答をまとめたものが表 3 である。使用の可否は基本的に○、△、×の記号で示し、話者のコメントも必要に応じて掲げた。

表 3 「人の不在」とトゼン類の使用

	m1	m2	f1
①一時的な不在	△ 「帰ったからヒマだ」 という意味での「トゼンダ」	○	△ (昔は使っていた) 「トゼンダダベカラ」
②半永久的な不在①	○ (m1 の祖母) 「トゼンになったなー」 がっかりして、「心に穴」 のニュアンス	× 「さみしい」を使う	○ 「孫行っちゃってトゼン になったなー」 「じーちゃんトゼン になったねー」
③半永久的な不在②	○ 「トゼンになった」 「さびしい」という意味 合いが強い	× 「さみしい」を使う	○ 「トゼンになってたんで ねーのか」
④半永久的な不在③	△	×	×
⑤永久的な不在①	×	× 「さみしさ」は四十九日 まで	×
⑥永久的な不在②	○ 回想して使う	○ 「いなくなってトゼンダ (たいくつだ)」	× (トゼンダは) 人が亡く なったときには使えない

この表 3 をもとに、次のようなことが推測される。

まず、①のような「一時的な不在」では、やや使用可能であると言えそうである。ただ、その使用の程度については 3 名の話者の間で揺れがあり、特に f1 などにおいては、現在あまり使わない用法だと考えられる。

「半永久的な不在」としては②から④まで 3 つの状況を想定した。m2 は「さみしい」という表現を使うため一時的に除いて、m1 と f1 について考えてみたい。②と③の場合では使われるが、④の場合では使われにくいことがわかる。前者では「人の不在」が数時間から 1 週間程度の期間の出来事であり、後者ではその期間が半年という長期間になっている。つまり、短い時間ではトゼン類が使われやすく、長い時間ではトゼン類が使われにくいと言えるかもしれない。このことについて、時間の経過につれて徐々に「さびしさ」の程度が薄まっていくことと関連がある可能性がある。

「永久的な不在」としては⑤と⑥を想定し、⑤には親しい者の死後すぐ、⑥にはそれから半年ほど経過した時間を設定してある。m1 と m2 は⑤ではトゼン類が使えないが、⑥では使えると回答した。⑤の場合はショックの特に強い時で、その衝撃の強さと深い悲しみをトゼン類は持ち合わせていない、ということであるかもしれない。⑥では m1 が「回想して使う」と述べるが、m2 は「いなくなってトゼンダ（たいくつだ）」という意味合いで使うようである。これは、「不在の空虚感」というべきものを指してトゼン類を使っているものと思われる。ただし、f1 の場合は「(トゼン類を) 人が亡くなったときに使うことばではない」としており、人の死後の年数に関わりなく、この意味用法ではトゼン類は使われにくい表現であると思われる。

以上のように、「人の不在」と一口に言っても、それがどの程度の期間なのか、それがどの程度の「空虚感やさびしさ」を伴うものなのか、それらによって使用に差が出るものと思われる。概して言えば、短い時間軸の中ではトゼン類は使用されやすく、長い時間軸では使用されにくい。また、「あまりにも強いさびしさ」や「時間が経過しすぎて薄れたさびしさ」などの場合では使用されにくい傾向があると言える。

3.2.3. その場の情景による使用の可否

トゼン類が、ある場や情景そのものについて使用できるかどうかについても、あわせて調査した。それは、次の 2 つの場合である。

①【いつも静かな場所が静かな場合】

いつも静かで閑散とした場所を通りかかったとします。そのとき、「トゼンダ」と言いますか？

②【普段はにぎやかな場所が静かな場合】

いつもはにぎやかな商店街が、今日はやけに人が少なく、静かであったとします。そのとき、「トゼンダ」と言いますか？

このような状況の設定に対して、3 名の話者の回答をまとめたものが表 4 である。使用の可否は基本的に○、△、×の記号で示し、話者のコメントも必要に応じて掲げた。

表4 その場の情景による使用の可否

	m1	m2	f1
①いつも静かな場所が静かな場合	×	× 「さみしいな」「静かだな」	×
②普段はにぎやかな場所が静かな場合	△ 自分がヒマかどうかによる	×	×

表4によれば、その場の情景を指して「トーゼンダ」と言うことは基本的にはないと考えてよいであろう。m1は、トゼン類の使用の基準をあくまでも「自分がヒマかどうか」に置いているのである。

ところで、この調査項目に直接的に関連するわけではないが、m2の回答の中に興味深い内容があったので述べておきたい。筆者とのやりとりの中で、「新幹線に乗って目的地に移動しているときにトゼン類を使えるかどうか」という話題に及んだ。そのときには基本的には使わないとのことであった。ただし、「1時間程度の乗車時間なら使えないが、2時間以上の時間になってくると使えるかもしれない」というコメントをいただいた。1時間という時間には、ある種の「待てば済む」という側面があるのに対して、それ以上の時間はどうにも持て余してしまう、ということらしい。「待ってもなかなか済まない」時間になってくると、話者の中にトゼン類を使っても違和感のない状態が醸成されてくるのかもしれない。

3.3. トゼン類の類義語

トゼン類の類義語として、「たいくつだ」「ひまだ」「さびしい」などにあたることばの使用を調査した。これは、あらかじめ気仙沼地方、あるいは近隣の地方の方言集などで、使用が期待される語形を提示して、それが使えるかどうかを尋ねたものである。本節では、話者ごとに、どのようなことばがトゼン類の類義語として使用されるのか、個別に見ていきたい。ただし、紙面の都合上、積極的に取り上げるのは共通語形ではなく方言が出現した語彙である。

まずはm1の回答であるが、「ヒマダレ」が観察された。言い方としては「ヒマダレだけんとも」、「今日は半日ヒマッタレしたな」のように使うことから、名詞の用法と動詞の用法とが考えられる。これは「無駄に時間を過ごしている」あるいは「何かやってもそれに意味がない」ということを表すようである。トゼン類の語義とは「時間の長さ」という点で共通するものがあるように思われるが、それが「無駄」であったり「無意味」であったりするところに差異が見られる。

次にm2の回答では、m1と同様に「ヒマダレ」が観察されたほか、「コツァビシー」が見られた。これは「さびしさ」を強調している言い方であるとのことであった。また、「トーゼンダ」に関して、「たいくつ」と「ひま」を合わせてまとめたような語感であるとの教示を得た。

最後にf1である。「シマブリ（ヒマブリ）」は、「一日何もしないで過ごす」ことを指すようであ

る。「シマダレ (ヒマダレ)」は、「ひまつぶし」の意で用いるようである。この点は m1 の回答と若干異なっている。「スゲネエ」は「さびしい」あるいは「具合が悪そうである」ことを指すようである。f1 は m1 と m2 に比べて、20 歳以上年上ということもあるためか、多くの方言形が観察された点が印象的であった。

4 おわりに

以上、本稿ではトゼン類の意味・用法、詳細な使用の条件、類義語の意味領域などについて記述し、気仙沼市におけるその実態により深く迫ることができたと思われる。ただ、考察が不十分である点も多く、それらは今後の課題としたい。

注

- 1 山浦玄嗣 (2000) は、いわゆる「ケセン語」のトゼン類について記述している。ここでいう「ケセン語」とは、主に大船渡方言のことを指していると思われる。そのため、筆者は傍証として引いたことを記しておく。

文 献

- 遠藤好英 (2006) 『平安時代の記録語の文体史的研究』おうふう
- 菅原孝雄 (2006) 『けせんぬま方言アラカルト 増補改訂版』三陸新報社
- 福島邦道 (1988) 『語史と方言』笠間書院
- 八木澤亮 (2018a) 「方言語彙「トゼン類」」東北大学方言研究センター編『文化庁委託事業報告書 被災地方言の保存・継承のための方言の記録と公開』
- 八木澤亮 (2018b) 「方言語彙の語源と歴史」小林隆編『シリーズ日本語の語彙 8 方言の語彙』朝倉書店
- 山浦玄嗣 (2000) 『ケセン語大辞典』無明舎出版

あいさつ表現定型化の実態

中西 太郎

1 先行研究及び目的

本稿では、気仙沼市のあいさつ表現の場面別の定型化の実態について、2017、2018年度に行った調査の結果をもとに報告する。

あいさつ表現の使用実態の特徴を明らかにするときに重要になる視点として「定型化」がある。あいさつ表現は、あいさつらしくなるほど、「定型化」の特徴が顕著になることが指摘されている(中西 2008 他)。日本語あいさつ表現の「定型化」の過程について、言語地理学的な観点から明らかにしたものには、三井 (2006) がある。三井 (2006) は、方言文法全国地図第 349 図 (朝)、350 図 (晩) の出会いのあいさつ表現の分布を分析し、地理的周縁部に非定型表現が存し、中央部に定型的表現が分布することから周圏分布を推定し、日本語の出会いのあいさつ表現に非定型から定型へと変わっていく定型化の流れがあることを指摘した。

さらに本稿で対象とする気仙沼市のあいさつ表現の近年の使用実態を報告したものには、中西 (2012) がある。中西 (2012) では、気仙沼市を含む南三陸地方の朝の出会いのあいさつ表現について、待遇的場面別に使用実態を明らかにした。その結果、朝の出会いの場面においては、心理的に親しい相手に対しての表現になるほど、「ドゴサイク」のような行先尋ねなどの非定型表現を併用しているということが分かった。これは三井 (2006) では明らかにしえなかった待遇的場面別の観点で分析することによって、あいさつ表現の定型性に関する知見を深化させる方向性を見出したということになる。

そこで、本稿では、気仙沼市に焦点を当て、朝の出会いの場面をも含むより多様な場面について、複数名への調査の結果をもとにその使用実態を明らかにし、気仙沼市における定型化がどのように進んでいるかを明らかにする試みを行う。

2 調査の概要と定型化判断の手法

本稿では2017年、2018年度の東北大学国語学研究室で行った気仙沼市方言調査の結果を用いる。あいさつ表現の調査項目の話者は、70代男性1名、60代男性2名、60代女性3名の計6名である。あいさつ表現に関する調査項目は、次の通りである。調査項目は質問番号順に示しており、調査場面(【 】)と合わせて、その場面で現れ得る典型的な定型的表現^{注1}(「 」)も合わせて記した。本稿では、それぞれの場面で回答された表現に、典型的な定型的表現が含まれているかどうかで定型性を判断する。

A. 《代表的あいさつ場面の定型性》

- (1) 【外出するとき】：「イッテキマス」
- (2) 【労をねぎらうとき】：「ゴクローサマ」
- (3) 【食事を頂いたお礼を言うとき】：「ゴチソーサマ」
- (4) 【断りのとき】：「スマン」「ゴメン」「ワルイ」
- (5) 【別れるとき】：「デワ（ジャー） マタ」「サヨナラ」
- (6) 【買い物に店に入るとき】：「ドーモ」
- (7) 【少額の買い物に大きなお金で支払うとき】（2018のみ）：調査結果なし
- (8) 【買い物が終わって店を出るとき】：「アリガトー」
- (9) 【ゴミ出し違反を注意するとき】（2018のみ）：調査結果なし
- (10) 【知人の家の前を通り過ぎるとき】（2017のみ）：「コンニチワ」「ゴメンクダサイ」
- (11) 【訪問時】：「コンニチワ」「ゴメンクダサイ」
- (12) 【食事の前後に人を訪ねるとき】：「ゴメン」
- (13) 【贈り物を渡すとき】：「ツマラナイモノデスガ」
- (14) 【辞去のとき】：「シツレイ」
- (15) 【祝いを述べるとき】（2017のみ）：「オメデトー」
- (16) 【外出から帰ったとき】：「タダイマ」
- (17) 【就寝時】：「オヤスミ」
- (18) 【家族を送り出すとき】：「イッテラッシャイ」
- (19) 【人の訪問を受けたとき】：「イラッシャイ」
- (20) 【相手の装いを褒めるとき】（2018のみ）：調査結果なし
- (21) 【贈り物を受けたお礼を言うとき】：「アリガトー」
- (22) 【謝罪のとき】：「スママセン」「モーシワケナイ」「ゴメンナサイ」
- (23) 【食事を勧めるとき】：「ドーズ」
- (24) 【客を送り出すとき】：「キオツケテ」
- (25) 【相手の遅刻を責めるとき】（2018のみ）：調査結果なし
- (26) 【家族を迎えるとき】：「オカエリ」
- (27) 【（地域特有表現）オミヨーニチなど】の使用場面／使用例（2017のみ）：調査結果なし

B. 《出会いのあいさつ表現の待遇的場面差》（以下、場面の説明は、会う場所と相手）

- 朝、居間で (28) 両親に：「オハヨーゴザイマス」 (29) 兄弟に：「オハヨー」
(30) 子供に：「オハヨー」^{注2}
- 朝、道端で、(31) 最も目上の人に：「オハヨーゴザイマス」 (32) 同じ相手に昼：「コンニチワ」
(33) 対等よりやや目上の人に：「オハヨーゴザイマス」
(34) 同じ相手に昼：「コンニチワ」 (35) 同じ相手に夜：「コンバンワ」

- (36)同年代の親しい人に：「オハヨー」 (37)同じ相手に昼：非定型^{注3}
 (38)同じ相手に夜：非定型
 (39)顔見知り程度の同年代の知人に：「オハヨー」
 (40)同じ相手に昼：「コンニチワ」
 (41)目下のものに：非定型 (42)同じ相手に昼：非定型
 (43)見知らぬ人に：「オハヨーゴザイマス」 (44)同じ相手に昼：「コンニチワ」

なお、定型化の度合いを測るにあたって、定型化については、それを測る基準に、Ⅰ．実質的意味の有無、Ⅱ．形式の固定度、Ⅲ．場面とことばの結びつきの強さの3つの観点がある(中西 2008)。ただし、今回の調査では、回答として得られた個別の表現ごとに、意味の希薄性を確認するまでには至っていない。そこで本稿では、まずⅡの形式の固定度の観点に注目し、話者の回答に形式が固定化している共通語の表現が含まれているかを見定める。さらに、Ⅲの場面とことばの結びつきの強さの観点では、その定型的表現が現れる割合が高いほど場面との結びつきが強く、定型度が高いということになるが、6名中何名に定型的表現が現れるか着目することによって「定型化」の進捗を判断し、場面ごとの比較を行うということである。これは、定型化が進んだ共通語の定型的あいさつ表現の形式の浸透をもって、確實とみなせる定型化の度合いを測り、場面ごとの比較の基準とするということである。そのため、共通語形とは異なる地域独特の形式が、その地域で定型化を起こしていた場合(後述の夜のあいさつ「オバンデス」など)、その意味での定型化の進捗を測ることはできないということになる。そのように不十分な点を差し引いても、多様な場面についての使用実態をもとに、場面別の定型化の進捗の実態を明らかにする本稿の試みは、今後、あいさつ表現の定型化がどのような条件で進んでいくかを探る手法を確立していくという面において、一定の意義があるものと考えられる。さらに、判断基準について細かく述べると、定型化を判断する際、表現形式の一部が俚言形、ないし常体・敬体の区別が判断基準語形異なっても、内容的に共通語の定型的表現と一致すれば定型的表現使用と見なすこととする。例えば、朝の出会いの表現として、「オハヨーゴザリス」(下線は俚言)と回答されたときも、「定型」とするということである。

なお、2017年、2018年のうち、単年度分しかない場面(7、9、10、15、20、25、27)は、データが不十分なため、分析の対象から外すことにする。

3 気仙沼市の定型的あいさつ表現の使用実態

以上のような分析の観点で、それぞれの話者ごとに、場面ごとの定型的表現の使用実態を示したものが、次の表1である。表中、横軸には、左から定型的表現が多く見られる話者順に、各話者を並べている。話者の表示のMは男性、Fは女性を表し、その後続く数字は調査当時の話者の年齢である。縦軸には、調査場面を、定型的表現の見られる数が多い順に並べて示した。質問番号は、先に示した調査項目の質問番号に対応している。定型的表現が回答された枠には「●」を付けている。最下段に、各話者の「●」の数の総計と、場面ごとの定型的表現頻度の平均値を示した。

表1. 気仙沼市高年層における定型的表現の使用実態

話者情報 調査場面	質問 番号	F68	F67	M76	M62	M64	F69	定型的 表現 頻度
訪問	(11)	●	●	●	●	●	●	6
謝罪	(22)	●	●	●	●	●	●	6
朝子ども	(30)	●	●	●	●	●	●	6
朝最上	(31)	●	●	●	●	●	●	6
朝目下	(41)	●	●	●	●	●	●	6
朝未知	(43)	●	●	●	●	●	●	6
断り	(4)		●	●	●	●	●	5
帰宅	(16)	●	●		●	●	●	5
朝両親	(28)	●	●		●	●	●	5
朝やや上	(33)	●	●	●	●		●	5
食事の礼	(3)	●	●	●		●		4
朝兄弟	(29)	●			●	●	●	4
昼最上	(32)	●		●	●		●	4
朝同知人	(39)	●	●	●			●	4
昼目下	(42)	●	●	●			●	4
昼未知	(44)	●	●	●		●		4
別れる	(5)		●	●	●			3
入店	(6)	●	●		●			3
退店	(8)			●	●		●	3
家族見送り	(18)	●	●			●		3
家族迎え	(26)		●		●	●		3
昼やや上	(34)	●		●			●	3
夜やや上	(35)	●	●		●			3
朝同親	(36)	●		●			●	3
昼同知人	(40)	●	●	●				3
就寝	(17)				●	●		2
贈り物の礼	(21)		●			●		2
昼同親	(37)	●		●				2
外出	(1)	●						1
労をねぎらう	(2)					●		1
訪問歓迎	(19)		●					1
食事を勧める	(23)					●		1
客送り	(24)						●	1
夜同親	(38)		●					1
訪問(食事前後)	(12)							0
贈答	(13)							0
辞去	(14)							0
話者ごとの総計		25	24	20	18	18	18	3.21 (平均)

表1を見ると、気仙沼市における各場面の定型化の状況がよく分かる。以降、適宜関連する場面の特徴について触れながら、主に表1の定型的表現が多く観察された場面順に各場面の特徴を見ていく。

まず、定型的表現頻度6の訪問、謝罪の場面や、朝、子どもに会う場面、最も目上、目下、未知の相手に会うときの表現には、定型的表現がよく浸透していると言える。なお、定型的表現の頻度については、例えば、定型的表現が1人の話者に2種類用いられたとしても、異なりで1/6という計算で示していく。そのため、以降、紹介する場面ごとの定型的表現の合計が6を超えるということもあるが、それはいくつかの定型的表現を併用している話者がいるためである。

訪問の場面では、伝統的方言として「イダカ／イルカ」などの声かけを予測していたが、「ゴメンクダサイ」(4/6)、コンニチワ(3/6)と、定型的表現が目立ち、「イダカ／イルカ」という表現は2例に留まった。

お茶をこぼした相手への謝罪の場面では、「ゴメン ゴメン ナレネーゴド ヤッカラナー」「アララ ゴメンネ トシ トッタガラ アシ モログナツタカモフ グカラー」「ゴメンナ」「エー イヤ ワリゴシタヤー ゴメンナサイ ゴメンナサイ」など、「ゴメン」という表現をすべての話者が使っており、「ゴメン」という表現と、謝罪場面のことばの結びつきの強さを感じさせる。

朝、子どもに会う場面、最も目上、目下、未知の相手に会うときの表現は、「オハヨー」類が浸透しているが、特徴的なのは、最も目上などに対して想定していた「オハヨーゴザリス」のような伝統的な敬語俚言形式が全く回答されなかったことで、共通語定型的表現「オハヨーゴザイマス」への一本化が進んでいることがわかる。

なお、関連して、昼、夜の出会いについて言えば、昼の場面では、「コンニチワ」が浸透してきている(最上:4/6、やや上:3/6、同親:2/6、同知:3/6、未知:4/6)。一方、F67、F68、F69の話者は、それぞれ使用場面こそ違うものの、「オヒル タベタノー」のように食事尋ねの表現が見られる点も興味深い(F68:同年代知人・目下、F67:最も目上、F69:同年代知人)。食事尋ねの表現は、東北大学方言研究センター(2013)においても、気仙沼市や多賀城市に見られる表現で、昼の出会い時の表現として、宮城県の地域的特徴と言える可能性がある表現である。筆者の調査でも、塩釜市、名取市で確認できた。今後、その地理的広がり把握する必要がある。

夜の出会いの場面について述べると、「コンバンワ」が見られるが(やや上:3/6、同親:1/6)、それ以上に地域特有の表現である「オバンデス」が用いられている(やや上:6/6、同親:1/6)。このことから、「オバンデス」という表現は、地域特有の定型的表現として考えられる。今後、共通語定型的表現の「コンバンワ」との張り合い関係がどうなるかが注目される。

また、これらの朝、昼、夜の他者との出会いの場面の定型化の様相を見ると、定型的表現が多い順に、最上=目下=未知>やや上≥同知人>同親となっており、心理的に遠く感じる相手に対する場面ほど、定型的表現の使用が多いということが言える。一方、家族では、子ども>両親>兄弟となっている。配慮を示す順としては、両親>兄弟>子どもとなってよさそうに思えるが、子どもに定型的表現を最もよく使う理由として、話者の多くがあいさつを覚えさせる「教育」のためと語っており、心理的距離以外の要因が加わった結果と解せる。それを踏まえて、他者の結果を考えると、定型的表現の進捗から見た「目下」の位置づけについても、「年下には目上の私たちが、あいさつのやり方のお手本となって見せるべきだ」という「教育」の観点が、定型的表現の使用に影響した可

能性もある。このようにして捉えられた、心理的な距離が遠い相手ほど定型的な表現がよく使われている（＝心理的に親しい相手に対しての表現になるほど非定型表現を用いる）という実態は、先行研究に示した中西（2012）の南三陸地方の特徴を裏付けるような結果と言える。また、筆者らが、これまでに捉えた他地域の傾向（中西・田附・内間 2009 など）とも一致する。つまり、言語地図の分布上で捉えたあいさつ表現の待遇の場面差の傾向が、今回のように地点を絞り、より多様な場面を扱った結果からも検証できたと言えよう。

次に、断りの場面では、「ゴメン」（3/6）、「ワルイ」（3/6）と、先ほど謝罪に使われていた「ゴメン」以外に「ワルイ」といった表現も目立つ。その他に、親しい相手には「キョーミナイシヤンダー アンタダケ ダイン（興味ないし 嫌だ あなただけ 行きなさい）」といった直接的な表現をするという回答もあった。

帰宅の場面も、ほぼ「タダイマ」（5/6）で統一されている。しかし、そのうち一人は、帰ってきたとき家に家族がいない場合は「タダイマ」と言い、いる場合は「イマ カエッテキタヨー」と言うと、相手の有無によって実質的な意味を持つ非定型表現と定型的表現の使い分けをしている。

朝、両親に会った時の場面では、「オハヨー」類が浸透しているが、「何も言わない」（2/6）が回答されているところも注目すべき点である。江端（1999、2001）では、家族に対して「何も言わない」ことが、家族へのあいさつ儀礼の古いあり方であることを示唆しており、これもその名残として捉えることができる。

食事の礼を言う場面では、「ゴツォサン」という定型的表現とともに「ユーベワ ドーモ ゴツォサンネー オイシガッタヨー」と、ごちそうになった食事が「美味しい」と褒める表現が、3例見られる点も興味深い。今後、言語行動上の特徴として考えられるのか、検証する価値がある。

別れの場面は「ンジャ マタ」のように「デワ（ジャー）マタ」のような表現が浸透しており（3/6）、「ホンデ マズ」のような俚言の表現は1例に留まった。

入店の場面では「コンニチワ」が多く（3/6）、昔使っていた表現として「カイスー」「モーシ」という表現が回答された。対して、退店の場面は「アリガトー」（3/6）、「ドーモ」（3/6）が浸透している。

家族を見送る場面では「イッテラッシャイ」が多いが（3/6）、それ以外に、特に「キオツケテ」という表現が多いことが分かる（5/6）。この場面では、「イッテラッシャイ、キオツケテ」のような併用をすると答えた話者が複数いたが、このような「キオツケテ」のような気づかいを示す表現の添加の多寡も、地域差を見る観点となるだろう。対して、家族を迎える場面では、「オカエリ」が多いものの（3/6）、「ナント オソガッタゴド」「ナンド キョーワ ハヤカッダナヤ」「キョー○○（訪問者の名前） キタヨー」「ア カエッテキタノー」「オカエリー ドーダッタ」など、出かけにまつわる一言、二言のやりとりが加わることも多いと言える。

就寝の場面では「チョット ツカレダカラ ネルー」のように直接的な表現をすることが多く（4/6）、「オヤスミ」は2例に留まる。

贈り物の礼を言う場面でも定型的表現「アリガトー」は少なく（2/6）、「ナーニ コンナニ キ

一ツカッテ モラワナクテ」や「ウワー ドーモアリガトー コレナンダネ セッカクダカラ イッショニ タベヨー」というその場での気持ちに即した表現や、「ソノホカニ アンノカ」という冗談めかした表現まで、多様な表現でお礼を述べている。

外出時も「イッテキマス」という定型的表現は少なく (1/6)、「チョット イッテクッカラ」のような非定型の形式が多く見られる (5/6)。

その他にも、訪問客を迎えるときは「ハイレ・ハイライン (入りなさい)」のような表現、食事進めるときは「タベロ・タベテミライン (食べてみなさい)」のような表現、客送りでは「ンジャ マタネー マタ キテネー コンド イツゴロ アイテルヨー」のような表現、贈答では「イツモノ ヤツ コイズ オレノ イジオシダゲンドサー ウンメーダゾ」のような表現、辞去の時には「〇〇ジニ ナッタガラ カエツガラネ」のような表現が見て取れ、これらの場面では、定型的な表現よりも実質的な内容でことばを交わし、直接的に自分の気持ちを伝える表現が多く見られるのが特徴と言える。

最後に、話者別に特徴を見たときに、特筆すべき傾向を指摘する。M64 の話者における「ドーモ」の多用である。M64 の話者は、(2)【労をねぎらうとき】、(3)【食事を頂いたお礼を言うとき】、(6)【買い物に店に入るとき】、(8)【買い物が終わって店を出るとき】、(19)【人の訪問を受けたとき】、(31)【朝、最も目上】、(32)【昼、最も目上】、(33)【朝、やや目上】、(34)【昼、やや目上】、(35)【夜、やや目上】、(39)【朝、同年代知人】、(40)【昼、同年代知人】という 11 もの場面で、「ドーモ」の表現を用いている。このような「ドーモ」の使用傾向は、小林・澤村 (2014) において、細かく言い分けるかどうかという分析性の地域差について述べる中で東北地方の特徴として指摘されており、今回、小林・澤村が指摘する以上に、細かい場面の枠組みで「ドーモ」の非分析的な (細かく言い分けられない) 使用実態をつかむことができたものと言える。なお、本稿では扱っていないが、同調査で調べた「家族に醤油差しを取ってもらって礼を言う」場面においても、M64 の話者は、すべての場面で「ドーモ」のバリエーションで回答している。

4 まとめ

以上、本稿では、気仙沼市のあいさつ表現の場面別の定型化の実態について、2017、2018 年度に行った調査の結果をもとに、その特徴を指摘した。

その結果、気仙沼市高年層のあいさつ表現の定型化に関する状況は、定型的表現と非定型表現が混在する定型・非定型中間地域としての様相を持つことが分かった。

また、待遇的場面別の実態では、心理的な距離が遠い相手ほど定型的な表現がよく使われている (=心理的に親しい相手に対しての表現になるほど非定型表現を用いる) というこれまでの研究成果を裏付けるような結果が得られた。

さらに、各場面の非定型表現の特徴をつぶさに見ると、断りや就寝、訪問客を迎える場面などの直接的な表現の使用や、贈り物の礼を言う場面で配慮を示す表現の少なさ、「ドーモ」を広く使う非分析的な表現の傾向などを考え合わせると、今回の調査の結果には、小林・澤村 (2014) の指摘す

る「言語的発想法の地域差」における東北地方の特徴、すなわち、言語的発想法における未発達地域としての特徴が各所に見られる。

そして今回、多様なあいさつ場面を扱うことで、より精密に定型化の実態とあいさつの地域的特徴を洗い出す手法を示すことができた^{注4}。

被調査者の人数を増やし得られた結果の確度を高めること、年代差などを射程に入れて分析を行い、あいさつ表現変化の方向性を見出すことが今後の課題となる。

注

- 1 筆者が2015年に関東地方で行った若年層（首都圏出身、20～22歳、7名）への記述調査の結果をもとに、使用の多い形式を定型的表現として採用した。代表語形の提示にあたって、敬体、常体の区別は示していない。
- 2 若年層への回答をもとにしているため、その多くは「子どもがいると想定した時」の回答をもとにしている。
- 3 その場面において、使用頻度が顕著な定型的表現が特にないことを意味している。
- 4 本稿は、JSPS 科研費若手研究（B）課題番号 26770165 の研究成果の一部である。

文 献

- 江端義夫（1999）「あいさつ交換儀礼の研究」『日本語学 11 月臨時増刊号 地域方言と社会方言』18（13）明治書院
- 江端義夫（2001）「A Geolinguistic Study on the Greeting Expressions and Behavior In Japan」『社会言語科学』3（2）社会言語科学会
- 小林隆・澤村美幸（2014）『ものの言いかた西東』岩波新書
- 沢木幹栄・杉戸清樹（1999）「世界のあいさつ言葉の対照研究に向けて—あいさつ言葉への視点」『国文学解釈と教材の研究』44（6）学灯社
- 東北大学方言研究センター（2013）『伝える、励ます、学ぶ、被災地方言会話集—宮城県沿岸 15 市町』東北大学大学院文学研究科国語学研究室
- 中西太郎（2008）「あいさつ言葉の定型化をめぐる—「おはよう」を事例とした定型化の検証—」『国語学研究』47「国語学研究」刊行会
- 中西太郎（2011）「あいさつ表現」小林隆編『宮城県・山形県陸羽東線沿線地域方言の研究』東北大学大学院文学研究科国語学研究室
- 中西太郎（2012）「あいさつ表現」小林隆編『宮城県・岩手県三陸地方南部地域方言の研究』東北大学大学院文学研究科国語学研究室
- 中西太郎（2015）「言語行動の地理的・社会的研究—言語行動学的研究としてのあいさつ表現研究を例として—」『方言の研究』1 日本方言研究会
- 中西太郎・田附敏尚・内間早俊（2009）「秋田県の言語調査報告」『東北文化研究室紀要』50 東北大

学大学院文学研究科東北文化研究室

三井はるみ（2006）「おはようございます、こんばんは」『月刊言語』35（12）大修館書店

評価に関わる言語行動の表現

椎名 渉子

1 調査の目的と本報告のねらい

本報告では、2018年度気仙沼市方言調査における「評価に関わる言語行動（ほめる・非難する等）における表現」の調査報告を行う。この調査は、『伝える、励ます、学ぶ、被災地会話集』（以下、会話集0）、『生活を伝える被災地方言会話集1～4』（以下、会話集1～4）において、目的別言語行動の設定場面のうち感情表明系に含まれる〈ほめる〉〈非難する〉を中心とした評価に関わる場面を調べるものである。会話集では、場面設定会話として2人によるやりとりがなされるが、本報告では会話集と同一または類似する場面において回答される表現を取り上げる。そのような比較的少ない言語量で表された回答は、談話を凝縮した言語表現といえる側面も持ち合わせていることが考えられる。そして、その地域の特徴が反映され、地域差が見出されやすい適材となる可能性もある。

具体的な調査の目的は（1）のとおりである。

- （1）ある事態・人物の属性や行為に対する肯定的・否定的評価場面での表現のバリエーションを収集する

本報告で対象とした肯定的評価に関わる場面は、ほめる・祝うなどの言語行動自体が目的となっているため、ほめることによって相手を操作する、話者が利益を獲得するものではない。一方、否定的評価に関わる場面は、評価自体が目的ではなく、相手の行為・事態改善（相手の行動の統制）・話者の不利益の改善が目的となった場合もある。その場合、評価語だけでなく行為・事態改善を要求するような働きかけの表現も出現し得る。それを踏まえ、こうした否定的評価に関わる場面におけるストラテジーを含めた「言い方」を詳細に観察するために、「直接的に（きびしく）」言う、「間接的に（やさしく）」言う場合を回答してもらい、表現の違いに着目する。得られた結果について、本稿では（2）（3）の観点を設けて検討していきたい。

- （2）東北と近畿の談話展開と表現法の地域差に関するこれまでの指摘（小林2018、椎名・小林2017、椎名2018）を踏まえ、当該地域における表現の特徴を整理する。

- （3）全国的な規模での観察を視野に入れ、関東・近畿といった他地域との差異が存在する可能性のある点について検討する。

なお、本報告は、特に断らない限り、高年層話者A〔昭22男〕、B〔昭19男〕、C〔昭7女〕の面接調査の結果によっている。

2 調査概要

2.1 調査場面

本報告において取り上げた調査場面と場面番号は次のとおりである。会話集のほかに、東北大学

方言研究センターによる自由記述式アンケート全国調査「話し方の全国調査」(2014 年度実施, 質問紙による全国通信調査データ, 調査地点は約 800 地点) 第一調査票の設定場面も参考にしている(以下, アンケート調査)。尚, 会話集と同一場面の場合は【会】, アンケート調査と同一場面の場合は【ア】と示す。また, それぞれに類似する場面は【類】とした。

このうち, 肯定的な評価に関わる表現が出現する可能性の高い場面は(1) (3) (5) (9) (10) (11) 場面で, これらを肯定的評価場面と呼ぶ。また, 否定的な評価・非難・不満・注意に関わる場面は(2) (4) (6) (7) (8) (12) (13) (14) (15) 場面で, これらを否定的評価場面と呼ぶ。

(1) 子どもに対してほめるとき

—バスの車内で出くわした赤ん坊に(ほ-1) / 公園で写生をする子どもの絵に(ほ-2)

(2) 子どもに対して叱る・促すとき

—遅い時間まで外で遊ぶ近所の子どもに(叱-1) / 外で大声で遊ぶ近所の子どもに(叱-2)

(3) 友人がかぶってきた新しいおしゃれな帽子をほめるとき【会 1-64】【ア】

(4) その帽子が正直あまり友人に似合っていないと思ったことを本人に伝えるとき【類: ア】

—直接的に(帽-1) / 間接的に(帽-2)

(5) 友人の作った料理が口に合ったことを伝えるとき【ア】

(6) 友人の作った料理が口に合わないことを伝えるとき【類: ア】

—直接的に(料-1) / 間接的に(料-2)

(7) ゴミの日をまちがった近所のひとに対して【会 1-35】【ア】

—きびしく・きつく(ゴ-1) / やさしく(ゴ-2)

(8) 遅刻してきた友人に対して納得できないとき【会 1-25】【ア】

—きびしく・きつく(遅-1) / やさしく(遅-2) / 反省する友人への許し(遅-3)

(9) 友人の子どもが大学に合格したと聞いたとき【類: 会 1-26】

(10) 友人の子どもの結婚が決まったと聞いたとき【会 1-28】

(11) 友人の新築の家をほめるとき【ア】

(12) 友人の新築の家があまり良い家に見えなかったとき【ア】

—直接的に(家-1) / 間接的に(家-2)

(13) 配偶者の飲酒後の帰宅時間が遅い日が続く, 配偶者に改善をのぞむとき【会 2-9】

—直接的に(帰-1) / 間接的に(帰-2)

(14) 近所の人に貸したスコップが壊されたとき【会 0】

—きびしく・きつく(ス-1) / やさしく(ス-2) / 弁償を要求するとき(ス-3)

(15) インスタント食品などの献立が続く, 食事担当の配偶者に改善をのぞむとき【会 3-11】

—直接的に(食-1) / 間接的に(食-2)

2.2 調査方法

前節の(1)~(15)各場面について, 下の〈調査文の一例〉に示すように, 詳細な設定場面の説明を

する。そのあと、この場合に相手への指摘や要求を話題に上げるかどうかという言語行動の選択と、その際の自然な言い方を回答してもらうかたちで進めた。言語行動を選択しない場合でも、思いつくならば、その場に適する表現を回答してもらった。

否定的評価場面においては次のような順序で質問をした。以下は、(8)場面の調査文である¹。まず、非難や評価などを話題にする（ことばをかける）か否かという〔言語行動の選択〕を問い、話題にする場合は〔第一回答〕を得る。次に、〔直接的に／きびしく／きつく〕について尋ねる。話者の認識として〔第一回答〕と同様であれば、〔第一回答〕＝〔直接的に／きびしく／きつく〕と判断した。それ以外にもきびしい言い方があれば答えてもらった。〔間接的に／やさしく〕のみ使用し、きびしい言い方をしない（思い浮かばない）という場合は、〔第一回答〕＝〔間接的に／やさしく〕というように記述する。

〈調査文の一例：(8)場面の場合〉-----

〔設定場面の説明と質問文〕

〇〇さんのご友人と共通のご友人が市内の病院に入院しました。待ち合わせて一緒に面会に行こうと思いましたが、時間になってもご友人が現れません。ようやくやってきた友人の遅刻した理由が「約束を忘れていた」というものでしたが、それに納得できません。どうしますか。

〔言語行動の選択〕

納得できないことを話題にしますか。それとも話題にしませんか。

〔第一回答〕

納得できないことを話題にする場合、どのように言いますか。

〔直接的に／きびしく／きつく〕

そのとき、相手を非難するとしたら、どのように言いますか。ちょっときつい言い方で言ってみてください。

〔間接的に／やさしく〕

非難したい気持ちはあるのですが、それを抑え、ちょっとやさしい言い方で言うとしたら、どんなふうに言いますか。

3 表現の要素の観点から—評価対象を明示する「オメー（お前）」

話者の気持ちを露わにする言語要素には、文レベルでは感嘆文、語レベルでは感動詞や終助詞があるが、ここでは語レベルに着目する。狭義の感動詞のほか、疑問詞や副詞などであっても感動詞的用法を持つ、感情的な性質を帯びている形式を広く対象とし、それらの出現様相について観察する。これまで、東北地方においては、椎名・小林（2017）、椎名（2018）などにおいて談話場面における感情的言語要素の出現が目立つことが指摘されるが、本報告書では、評価に関わる場面における感情的言語要素の出現様相の特徴について整理していく²。

出現した感情的言語要素の系統には、「オー」などの狭義の感動詞系、「ナント」「ナニ」などの疑問詞系、「チョット」などの副詞系、「オメ」といった人称代名詞系、「コノ」「コレ」などの指示詞系が見られた。整理すると表1のようになる。

表1を全体的に見渡すと、肯定的評価場面における感情的言語要素は話者Aの回答のみであるのに対し、否定的評価場面では話者B・Cの回答も出現した。また、男女差という観点でみると、話者Cの回答は4回答と比較的少なく、性差の存在が窺える。さらに、否定的評価場面では「直接的に／きびしく／きつく」の場面における回答が比較的多い結果となった。

さて、出現した言語要素のうち、感動詞的用法で出現する「オメー／オメ（お前）」についてみていきたい。これらは話者Aの回答では肯定・否定両場面に見られた。(3)場面の[4][5]、(11)場面の[13][14]、(8)場面の[27][28][29]である。これらは、相手の帽子に対するほめ、友人の新築の家に対するほめ、遅刻に対する非難場面である。(3)(8)場面は相手の眼前の状態・行為に対して評価し、(11)は眼前の家自体への評価ではなく、立派な家を建てた相手（の功績・努力等）を評価する場面で出現したと考える。話者Bにおいても、(8)場面[29]にあるようにきびしく非難する際に出現している。

このような「オメー（お前）」の機能には、単語自体の持つ意味から、相手をマークし評価対象を明示化することによる強調・強意の表出が少なからずあるだろう。相手を評価対象として強調する場面として、否定的評価場面(本調査のうち、とくに(8)場面)に現れやすいことは共通

場面の種類	場面番号	話者	用例番号	表現
肯定的評価場面	(1)ほ-1	A	[1]	ナント メンコイコト なんと かわいいこと
	(1)ほ-1	A	[2]	ナント カワイゴド なんと かわいいこと
	(1)ほ-2	A	[3]	ジョッタ ジョッタ オ スゲーナー 上手だ 上手だ おお すごいな
	(3)	A	[4]	オメ カッコイノ ヤッテンナ お前 かつこいいの 被っているな
	(3)	A	[5]	オメ イノ カッター お前 いいの 買ったな
	(5)	A	[6]	ワレ ハツモノダナー おお 初物だ
	(5)	A	[7]	オ スゲー おお すごい
	(5)	A	[8]	オ スゲー スゲー！ おお すごい すごい
	(5)	A	[9]	オ スキナモノ アルナ！ おお すきなものが あるな
	(9)	A	[10]	オニ ヤッター おお やったね
	(9)	A	[11]	オニ ヤリマシタナー おお やりましたね
	(10)	A	[12]	△ニ イガ ッタネ ああ よかったね
	(11)	A	[13]	オメニ ヨク ヤッター お前 よく やったな
	(11)	A	[14]	オメニ ケツバッター お前 頑張ったな
否定的評価場面	(2)叱-1	B	[15]	コレ アンモ クーカラ ハヤーク ケーレ こら お叱け くるから 早く 帰れ
	(2)叱-1	C	[16]	ナント ウルサイコト シズカニ シライシ モー カエツタラ なんと うるさいこと。しずかに しなさい。もう 帰ったら
	(2)叱-2	A	[17]	ヤカマスネー コノ(ヤカマス コノ) うるさいね この
	(2)叱-2	A	[18]	チョットナー セツネードー ちよっと うるさいぞ
	(2)叱-2	B	[19]	コノ ガキノ ウルセーゴド この 銀鬼の うるさいこと
	(4)帽-1	A	[20]	ナンダ オメ アワネナー なんだ お前 似合わないな
	(4)帽-1	A	[21]	ナニモ ソンナ カツキテカラニ なににも そんな 買って来て
	(4)帽-1	B	[22]	ヤッパリ ヤメタホーガ イーンジャンイカナー やはり やめたほうが いいんじゃないかな
	(4)帽-1	C	[23]	ヤッパ オカシーヨ やはり おかしいよ
	(6)料-1	A	[24]	ナニカ チョット チガウ アジダナ オレ アワネナー なんか 少し 違う 味だな 俺 合わないな
	(6)料-1	C	[25]	チョット コレ ヘンダヨ 少し これ 変だよ
	(7)ゴ-2	A	[26]	ア キョー ゴミノヒ ジャナイヨ。アレ スイヨービダヨー ゴミノヒワ。 あ 今日 ゴミの日 ではないよ。あれ 水曜日だよ ゴミの日は。
	(8)遅-1	A	[27]	オメニ ナニヤッテンダ お前 なにやっているんだ。
	(8)遅-1	A	[28]	オメー アイツサ キモチ ネンダベ お前 あいつに 気持ちがないのだろう
	(8)遅-1	B	[29]	オメニ ニンチショー ナツノカヤ オダズナヨ コノ お前 認知症に なったのか いい加減にしる この
	(8)遅-2	A	[30]	アニ ソースカー ジカン ネーカラ イク スベ ああ そうですか 時間 ないから 行きましょう
	(8)遅-3	B	[31]	ナニモ ソンナ シンコクニ ナンナヤ なににも そんなに 深刻になるなよ
	(13)帰-1	A	[32]	チョット テーゲーニ シロヤ ちよっと 大概にしる
	(13)帰-1	A	[33]	チョット イーカゲンニ シロヤ ちよっと いい加減にしる
(14)ス-2	B	[34]	オニ ソンナコト キニ シナクテ イー フルク ナッテルカラ なに そんなこと 気に しなくて いい 古く なっているから	
(14)ス-2	C	[35]	チョット ツカカタガ ランボーダッタンデナイ？ ちよっと 使い方が 乱暴だったんじゃない	
(14)ス-3	A	[36]	ナンダツケニ アノナー オラサ コイツ イッボンシカ ネンダヨナー デキタラ ベンショー シテモアネーカナ？(遠慮しながら) なんだっけ あのね わたし これ 一本しか ないんだよ できたら 弁償 してもらえないかな	
(15)食-1	A	[37]	ナンダ イツモ ソンナ モノカヤ ナンカ カワツタ モノ ネーノカヤ なんだ いつも こんな ものが なにか 変わった もの ないのか	

語的感觉と同様である。実際、(8)場面のアンケート調査では、少数ではあるが感動詞的用法の「オメー（お前）」が全国的に散見される。

しかし、同アンケート調査での肯定的評価場面での出現は東北地方に2回答あるのみで他地域には見当たらない。次の2例は、本調査(4)場面に相当する、友人がおしゃれな帽子をかぶってきたことに対する言い方についてのアンケート調査の回答である。

・おめ、今日いい帽子がぶってきたごと。(秋田県にかほ市象潟町字一丁目塩越)

・おめえ、しゃっぽ 似合うごと、どっから買ったなや(山形県東置賜郡川西町大字大塚)
 どちらの回答も表現冒頭に「おめ／おめえ（お前）」が登場する。このような、東北に見られる「オメー（お前）」が、本調査においても把握されたといえよう。

これらのことから、「オメー（お前）」は否定的評価場面では望ましくない事態を生起させた相手の評価対象として明示する一方で、ほめる場面では相手の服装・外見といった些細な指摘にも使用され、汎用性のある使い勝手の良い言語要素であることが窺える。ところが、同じく肯定的評価場面である(11)場面のアンケート調査回答からは、東北だけでなく全国的に「オメー（お前）」の使用は見られなかった。本調査の面接調査法によって、状況を具体的に説明し、より自然な言い方で言ってもらったことにより、アンケート調査では得られなかった使用例を把握できたのかもしれない。

4 話題・構成の観点から

4.1 心情の提示によるほめ・祝福

小林（2018）では、東北方言話者の特徴として、相手への感謝を表明する場面において感謝の表現が明示的でないことを次のように指摘する。

相手に向けた感謝の言葉の代わりに、「助かった」「よかった」という表現を使うことで、困難な状況からの解放を、自分に視点を置いて表明する傾向がある。(小林 2018, p. 1)

このことについて、小林（2018）では、お金を借りる場面（「表現法・言語行動の全国調査」2009）や、沖（1993）に指摘された用例を挙げ、東北方言話者の自分の感情を全面に出す表出のありかたについて指摘している。

本調査においては、話者Bからは、帽子をほめる場面において [38]「ケナリナー」「ソーユー ポーシ ホシーナー」という感想が出現する(表2)。また、祝う場面においては [39]「イカ° ッタ イカ° ッタ」と自分の感情を提示する。[40]～[43]では、「ヨカッタネ」と相手の心情に言及する。このように相手の功績や幸福を祝う場面において「すごい」「おめでとう」といった評価語や

表2 ほめ・祝福場面における心情提示

場面番号	話者	用例番号	表現
(3)	B	[38]	イー ポーシ カブッテンナー ケナリナー オレモソーユーポーシ ホシーナー いい 帽子 かぶってるな 羨ましいな わたしも そういう 帽子 欲しいな
(9)	B	[39]	オメーノ ムスコ ユーシュー ナンダナー イカ° ッタ イカ° ッタ お前の 息子 優秀 なんだな よかった よかった
(9)	C	[40]	スゴイネー ヨカッタネー すごいね 良かったね
(10)	A	[41]	ハー イカ° ッタネ ああ 良かったね
(10)	B	[42]	ヨカッタナ ヨカッタナ ジーサンニ ナンダナ 良かったな 良かったな 祖父さんに なるんだな
(11)	C	[43]	オメデトー ヨカッタネ おめでとう 良かったね

祝福の定型的な表現のほかにも、「よかった」という心情に言及する回答が、これまでの談話調査・談話資料からの指摘だけではなく、本調査においても把握できた。

4.2 判断・意見を前面に押し出す直接性・簡潔性重視の非難

否定的評価場面における「直接的に／きびしく／きつく」（以下、「直接」）と「間接的に／やさしく」（以下、「間接」）の言い方の違いについて、表3に整理する。表内の★印は、第一回答を示す。また、※印は話者の内省を簡潔にまとめたものである。

		直接的に／きびしく／きつく		間接的に／やさしく		
話者	場面番号	用例番号	表現	場面番号	用例番号	表現
A	(4)帽-1	[20]	★ナンダ オメ アフネーナー なんだ お前 似合わないな	(4)帽-2	[46]	ソーユーノ スキカ そういうの 好きか
		[44]	アフネーダロ ソイツ 似合わないだろ それ		[47]	ソーユーノ コノミカ そういうの 好きか
		[21]	ナニモ ソンナ カツテキテカラニ(家族に) なににも そんな(もの) 買って来て			
		[45]	ハデナノ カツテカラニ(家族に) 派手なの 買って来て			
B	(4)帽-1	[22]	ヤッパリ ヤメタホーガ イーンジャンイカナー やはり やめたほうが いいんじゃないかな	(4)帽-2		※それ以外の表現は思いつかない。
C	(4)帽-1	[23]	ヤッパオカシーヨ(家族に) やはり おかしいよ	(4)帽-2		※それ以外の表現は思いつかない。
A	(6)料-1	[24]	ナーンカ チョット チガウ アジダナ オレ アフネーナー なんか 少し 違う 味だな 俺 合わないな	(6)料-2		※それ以外の表現は思いつかない。
B	(6)料-1		※料理に対しては何も言わない。表現が思いつかない。	(6)料-2		※料理に対しては何も言わない。
C	(6)料-1	[25]	★チョット コレ ヘンダヨ(家族に) ちょっと これ 変だよ	(6)料-2		※それ以外の表現は思いつかない。
A	(7)ゴ-1	[26]	★ア キョー ゴミノ ヒ ジャナイヨ。アレ スイヨービダヨー ゴミノヒ。 あ 今日 ゴミの日 ではないよ。あれ 水曜日だよ ゴミの日は。	(7)ゴ-2	[49]	アノ キョー ナゲル ヒデ ナインダケドモ ワカッテベカ? あの 今日 捨てる 日では ないんだけど分かってる
	(7)ゴ-1	[48]	★ダメダ キョー ナゲルヒデネード モツテケ! だめだ 今日 捨てる日ではないぞ 持っていき			
B	(7)ゴ-1		※文書などで通知する。口頭で言わない。	(7)ゴ-2	[50]	シャカイセーカツワ ジパンノ ツゴー ダケジャンイ 社会生活は 自分の 都合 だけではない
C	(7)ゴ-1	[51]	★キョーワ ゴミノ ヒデ ナイヨ モチカエルンダツタラ モツテアゲルヨ 今日は ゴミの日 ではないよ 持ち帰るのなら 持って行ってあげるよ	(7)ゴ-2	[52]	ブンツツ タイヘンダモンネー マチガ エルヨネー (ゴミの)分別 大変だもんね 間違えるよね
A	(8)遅-1	[27]	★オメー ナニ ヤッテンダ お前 なに やっているんだ	(8)遅刻-2	[30]	アー ソースカー ジカン ネーカラ イク スベ ああ そうですか 時間 ないから 行きましょう
		[53]	オメー アイツサ キモチ ネンダベ イーヤ オメー サソツタノ マチガツタ お前 あいつに 気持ちが ないのだろう いや お前 誘ったの 間違った			
B	(8)遅-1	[29]	★オメー コンテショー ナツタノカヤ オダズナヨ コノ お前 認知症に なったのか いい加減にしる この	(8)遅刻-2	[54]	オーレダツテ イノガシダカラ サイショカラ ヤクソクナンテ スンナヤ わたしたちで 忙しいのだから 最初から 約束なんて するなよ
C	(8)遅-1	[55]	★ドーシタノ？ムカエニ イケバヨカッタカナ どうしたの 迎えに 行けば 良かったかな	(8)遅刻-2		※それ以外の表現は思いつかない。
A	(12)家-1	[56]	★コンナ デケノ ヒツヨー ダツタカ こんな 大きいの 必要 だったか	(12)家-2		※それ以外の表現は思いつかない。
B	(12)家-1	[57]	★リツバサ イエ ダケドモ ダイクサンガ サツニ ツクッタ トコモ アルヤナー 立派な 家 だけでも 大工さんが 雑に 作ったところも あるよね	(12)家-2	[58]	ドコノ ダイクサン ツクッタノ? どこの 大工さんが 作ったの
C	(12)家-1		※評価しない	(12)家-2		※評価しない
A	(13)婦-1	[59]	★イツマデ ナーニ ヤッテンダ いつまで なに やっているんだ	(13)婦-2	[60]	ホドホドニ シロヤ ほどほどに しる
		[32]	★チョット テーゲーニ シロヤ ちょっと 大騒に しる			
		[33]	★チョット イーカゲンニ シロヤ ちょっと いい加減にしる			
B	(13)婦-1	[61]	★イーカゲンニ シロ いい加減にしる	(13)婦-2	[63]	ナナジュー スギテ イーカゲンニ シタホーガ イーンデ ネーカ 七十(歳)を 過ぎてるから いい加減に したほうが いいんじゃないか
		[62]	ゴジニ ナツタラ カエツテ コイ 5時に なったら 帰って こい			
C	(13)婦-1	[64]	★チャント タクシーデ カエツテ キテヨ ちゃんと タクシーで 帰って 来てよ	(13)婦-2	[66]	チャント タクシーデ カエツテ キタノ? ちゃんと タクシーで 帰って 来たの
		[65]	ハイカイダト オモワレルヨ 徘徊だと 思われるよ			
A	(14)ス-1		※納得できない気持ちがあっても言わない。表現が思いつかない。	(14)ス-2	[67]	★イーガ ラ イーガ ラ いいから いいから
B	(14)ス-1	[68]	★ソイツアー カツテ ハレー それは 買って 払え	(14)ス-2	[34]	ナーニ ソンナコト キニ シナクテ イー フルク ナツテルカラ なに そんなこと 気に しなくて いい 古くなってから
C	(14)ス-1		※納得できない気持ちがあっても言わない。表現が思いつかない。	(14)ス-2	[35]	★チョット ツカカタガ ランボーダツテンデナイ? ちょっと 使い方が 乱暴 だったのではないか
A	(15)食-1	[37]	★ナンダ イツモ コンナ モノカヤ ナンカ カワツタモノネーノカヤ なんだ いつも こんな ものか なにか 変わった もの ないのか	(15)食-2	[69]	コンドウ アレダナ ホヤ カツテ コイヤ。 今度は あれだ ホヤ 買って 来い
					[70]	ホヤ クイタク ナツタヤ。 ホヤ 食べたくなつたな
B	(15)食-1	[71]	★フタリ ダカラ ツクッタ ホーガ イーヨネ 二人 だから (料理を)作った ほうが いいよね	(15)食-2		※それ以外の表現は思いつかない。
C	(15)食-1	[72]	★コーヤルト オイシンダツテヨ こうやると おいしいんだってよ	(15)食-2		※それ以外の表現は思いつかない。

全体的に、第一回答よりも間接的な言い方は思い浮かばない、あるいは調査の意図は理解しつつもとくにそういったやさしい言い方は思い浮かばないという話者の内省も多かった。たとえば、[20] [23] [24] [25] のように「合わない」「おかしい」「変」「違う」といった直接的な評価語も見られた。こうした言い方から、話者の判断・意見を前面に押し出すかたちで評価しているといえよう。

表現形式の違いとしては、「直接」には禁止・命令形が、「間接」には疑問形が見られる。話者 A の回答では [26] [32] [33] のように命令文形式が「直接」に出現する一方、「間接」では [46] [47] [49] にあるように、疑問文形式が見られた。話者 B の場合も、話者 A と同様、「直接」には [29] [61] [62] にあるように禁止・命令文形式が見られた。話者 C の場合は、女性ということもあり、第一回答には他の話者に見られた直接性はなく、婉曲的な言い方が目立った。それでも、話者 C からは、質問文では「友人」の想定だが、家族・兄弟など身内であればあるほど、直接的な言い方になるという認識があるようだ。

さて、このような表現形式の異なりのほか、談話の構成の観点からも違いが見られた。「直接」より「間接」のほうが文タイプや話題に幅が見られた。まず、話者の評価（主張）の正当性を示すための事情・理由説明として、[54]「オレダッテ イソガシンダカラ」、[35]「ツカイカタカ° ランボー」、[63]「ナナジュウ スギテ」などが見られた。また、[52] のようにゴミ分別の大変さへの理解を示し「マチカ° エルヨネー」と相手へ歩み寄る、[30] のように「イク° スペ」と次の行動へ話題転換する、[69] のように「ホヤ カッテコイヤ」と評価を避け望ましい行動を要求する、[67] [34] のように許しを示すといったように、さまざまな方向性が見られた。

5 まとめと課題

これらの結果から、次のような地域差のありかが窺えた。今後の課題としたい。

- ・東北における心情の提示などの、いわば「外に向かわない評価」はどのように実現されるのか、場面を広げて調査することによって、東北の持つ心情提示自体の汎用性や定型性の特徴が見出せるのではないか。

- ・そのような心情の提示は、感情的言語要素の出現とも大いに関連がある。評価の場面でどのような感情的言語要素が出現するのか、それらがどのような機能を有するのか、他地域とどのように異なるのか。

- ・「直接」「間接」の表現の幅について、地域差が見られる可能性もある。表現を婉曲化したり、一段階和らげたりするといった言い方の切り替えは近畿ではどのように行われるのか、東北や他地域とどのように異なるのか。

- ・本報告では評価する相手（聞き手）は一定させ、「直接」「間接」の言い分けを見たが、これらと評価する相手との関連性についても調べる必要がある。直接的な言い方が必ずしも身内に対するとは限らない。反対に、話者 C の内省にあるように、身内であればあるほど直接的になる場合がある。そうした言語意識の違いや出現する表現にも地域差が見られる可能性がある。

注

- 1 設定場面の説明と質問文, 「きびしく」「やさしく」における各質問文の文言は調査票と同一であるが, 調査票のレイアウト等は本報告に掲げたものとは異なっている。
- 2 今回は終助詞については取り上げない。

文 献

沖裕子 (1993) 「談話からみた東の方言／西の方言」『月刊言語』22-9

小林隆 (2018) 「自分本位な方言話者たち」東北大学言語学シンポジウム「発話行為のダイナミズム—方言・歴史・文化—」(2018年12月8日開催) 発表資料

椎名渉子・小林隆 (2017) 「談話の方言学」小林隆・川崎めぐみ・澤村美幸・椎名渉子・中西太郎『方言学の未来をひらく』ひつじ書房

椎名渉子 (2018) 「非難の言語行動の地域差—東北と近畿に注目して」東北大学言語学シンポジウム「発話行為のダイナミズム—方言・歴史・文化—」(2018年12月8日開催) 発表資料

依頼の言語行動

小 林 隆

1 調査の内容

ここでは依頼の言語行動について報告する。言語行動については、昨年度の調査において、「疑似会話型面接調査」の方法を試みた。この調査法は、会話の展開を想定し、その進行に沿って、各発話（ターン）をどう行うかを質問によって明らかにする方式である。1人のインフォーマントに、2人の話者を演じ分けてもらい、あたかも会話をしているかのように調査を進める。面接による質問式の調査でありながらも、場面設定会話を収録するような趣をもった調査方式とも言え、より自然な回答を引き出そうというねらいがあった。詳細は小林隆（2018）をご覧ください。

昨年度はこの方式で7つの場面について2名の話者を対象に調査を行ったが、今年度は「荷物運びを頼む」という〈依頼 - 受託〉の言語行動に焦点を絞り、14名の話者を対象とした。14名の話者は、昨年同様、全員高年層（60～70歳代）である。調査内容は、言語行動関係で構成した合同調査票1冊の中に組み込み、学生と筆者が調査を担当した。

調査文を次に掲げる。

-
- AさんとBさんは、近所の知り合い同士だとします。このAさんとBさんになったつもりで、会話をしてみてください。次のような場面です<絵カード提示>。

Aさんは、親戚からサンマをもらって帰ってきました。ところが、たくさんもらいすぎて重かったため、家までもう少しのところまで来て疲れてしまい休んでいました。ちょうどそこにBさんが通りかかったので、家まで一緒に運んでもらおうと思います。

- 1.1. このとき、あなたがAさんなら、Bさんにどんなふうに言いますか。（予想：依頼）
- 1.2. それでは、あなたがBさんなら、Aさんにそんなふうに言われたとして、どのように言葉を返しますか。（予想：承諾）
- 1.3. それでは、あなたがAさんなら、Bさんにそんなふうに言われたとして、何か言葉を返しますか。（予想：感謝）
- 1.4. それでは、あなたがBさんなら、Aさんにそんなふうに言われたとして、何か言葉を返しますか。（予想：配慮）
- 1.5. 【1.1で「恐縮表明」が現れなかった場合】前に戻りますが、1.1の場面では、「申し訳ない

けど」とか「悪いけど」などといった言葉を添えたりしませんか。

ア. 添えない

イ. 添える →どう言いますか。

1.6. 【1.3で「感謝表明」が現れなかった場合】1.3の場面では、「ありがとう」とか「助かるよ」などといった言葉を添えたりしませんか。

ア. 添えない

イ. 添える →どう言いますか。

●次の会話をご覧ください<会話カード提示>。気仙沼市ご出身の方に、この場面の会話を実演してもらったものです。Aさんは女性、Bさんは男性です。※会話カードは、調査員が読み上げてみせる。

001A：Bさーん 私 これ サンマ もらって、いっぱい もらいすぎたやー。

002B：なーんと どっさりでー。

003A：んだからー。 あの 持ちきれねもんだから 持ってすけてもらって
いーべがねー。

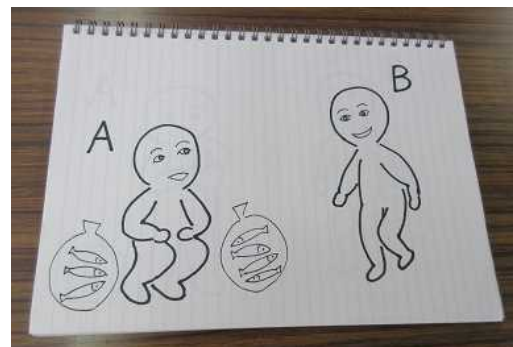
004B：あんたのこっだから 欲たけたんだべよ。

005A：んだからー。 なーに いっぱい 持ってけ持ってけて 言うからね
誰かさ あげてもいーかと 思って もらったのっさ。

006B：あーあー。 いーがすよ 持ってすけっから。

1.7.004Bのところ、BさんはAさんを非難するようなことを言っています。このような言い方は、気仙沼の会話の仕方としては普通でしょうか。それとも、気仙沼らしくない不自然な言い方でしょうか。もし気仙沼らしくないとすれば、なぜでしょうか。

上の質問の1.1～1.6で使用した「絵カード」とは、右の写真のようなものである。誰の発話であるかを明確にするために、B5判の用紙に描かれた人物AとBを、会話の進行に合わせて調査員が指さしながら調査を進めた。



2 調査の結果

全体の整理はまだ終了していないので、ここでは最初の質問である、「1.1.このとき、あなたがA

さんなら、Bさんにどんなふうに言いますか。(予想：依頼)」の回答のみ以下に掲げる(1~14はインフォーマントの番号)。

- 1 (男) ①オーイ テツダッデケ。
②テツダワネガ。(②の方が言いそうだった)
- 2 (男) イマ アノ ソコデ サンマ モラッテキタンダケド オモタクナッテ ヒトヤスミシテタン。アンタ スコシ タベネスカ。イッパイデ モッテイケナイカラ モーシワケネケド モッテスケラインヤ。
- 3 (男) アンダ チョード イートコサ キタ。チョット モッテスケネガヤ。
- 4 (男) ①オモテンデ モッテスケロ。
②オモデガラ モッテスケロ。
- 5 (男) ①オイ コイズ モッテスケネガ。〈目上に対して〉
②オイ コイズ モッテスケロヤ。〈親しい人、目下に対して〉
- 6 (男) モッテケロ。
- 7 (男) イマ イッパイ サンマ モラッチッタンダケント オモクテ ワカンネーカラ タガデケンネスカ。
- 8 (女) ①コンニチワ Bサン サンマ モラッタンダケド イリマセンカ〈自分の家に運んでほしいとは言いにくいので、Bさんにもらってほしいと言う。〉
②モッテケンネベカ〈古、おばあさんたちが言う風〉
③イッペー モラッタンデ オモクテ ワカンナイカラ モッテスケネベカ〈古、おばあさんたちが言う風〉
- 9 (女) ①チョット ニモツ オモイカラ モッテスケネスカ。
②チョット ニモツ オモイカラ モッテスケライン。
③チョット ニモツ オモイカラ モッテケンネスカ。
- 10 (女) アラ Bサン モーシワケネーケド コノ ニモツ ハコンデクレネベガ。
- 11 (女) 〈用事が無かったら〉ワタシノ ウチマデ ハコンデ クレナイ。
- 12 (女) ヤーヤ Bサン。イッペー サンマ モラッテキタヤー。ココマデ キタツケ オモダクデ ツカレテシマッタヤー。モッテスケネベカネー。
- 13 (女) タクサン イタダイタノデ モッテイタダキタイトユーコトデ オネガイスルンデスケレドモ ウチニ ツイタラ イクラカアゲルカラ オスソワケスルノデ イッショニ モッテイッテイタダケマセンカ。
- 14 (女) チョット モラッタンダケド オモイカラ モッテスケテ。〈「スケテ」以外の部分は共通語と同じ。〉

3 結果から見てくること

以上の結果から見てくることを、いくつか指摘する。全体として、さまざまな言い方が回答さ

れたが、共通する特徴を見出すこともできる。

①直接的な要求提示

依頼発話の中核をなす要求提示の形式に、共通語の感覚に照らして、一見、配慮性の弱い直接的な表現が観察される。「テツダッデケ」(1)のような敬語要素を伴わない命令形式が典型だが、「持ってくれ」に当たる「モッテケロ」(6)や「持って助ける」に当たる「モッテスケロ」(4)、「モッテスケロヤ」(5)などもそうである。こうした点は、小林隆(2014)で報告した「お金を借りる」場面を全国調査した際の東北地方の特徴と一致する。

また、否定疑問形式をとりながらも補助動詞「くれる」を用いない「テツダワネガ」(1)といった表現も直接的な印象が否めない。「モッテスケネガヤ」(3)、「モッテスケネガ」(5)なども、「スケル(助ける)」が「くれる」相当の役割を果たしている可能性はあるものの、やはり気になる表現である。

これらの直接的な表現は、使用者の性別で見た場合、男性に多く現れている点も注目される。

②恐縮表明の少なさ

上の回答の中には、恐縮表明がほとんど出現しないことも注意される。該当するのは、「モーシワケネケド」(2)、「モーシワケネケド」(10)の2件のみである。この点も、配慮性の強弱と関わる部分である。他者に負担を強いることに対して恐縮を表明しない傾向は、小林隆(2014)でも東北地方などに観察されたが、今回の結果はそうした傾向に沿ったものかもしれない。

③自己に視点を置いた状況説明

今回の回答では、状況説明、すなわち、荷物を持ってもらいたい理由が述べられない場合が見受けられる。これは調査員の具体的な質問のしかたの違いにもよるのかもしれないが、注意しておきたい点である。

また、状況説明の中心は「荷物が重い」という内容であり、これは多くの発話に現れている。ただし、詳細に観察すると、荷物が重いからどうなのかという一歩踏み込んだ言い方をする場合が見られる。「オモクテ ワカンネーカラ」(7)、「オモクテ ワカンナイカラ」(8)、「オモダクデ ツカレテシマッタヤ」(12)などがそうである(ワカンナイは「だめだ」の意)。これらは、そのことから(この場合には荷物が重いという事態)が自分にとってどうであるかを表明するものであり、自分の立場からことがらを評価して述べる表現態度と言える。

こうした表現はもちろん共通語にも見られるものである。だが、この「荷物運び」と類似の場面をアンケートにより全国調査した結果として、こうした「重いので」+「無理だ、たいへんだ、だめだ、ひどい、困った」といったタイプの状況説明は、東北地方において近畿地方の2倍の頻度で出現している(これについては機会をあらためて報告する)。単に事態を描写するのではなく、自己に視点を置いて評価を加える表現態度は、東北地方に特徴的なものである可能性が考えられる。この点は、小林隆・澤村美幸(2014)で提示した「自己と話し手の分化」の問題とも関わるものであろう。

4 昨年度の結果、および、会話との比較

まず、昨年度、2名の話者に対して行った調査結果を提示しよう。いずれも高年層男性である。

▼インフォーマント1

- ①コノサンマー モラッテキタンダケントモ、アノー ハコンデスケネスカ。
- ②イマ サカナ モラッテキタンダケントモ、チョット オモタクテー イエマデ ヒトリデ ハコベネンデ、ハコンデスケネスカ。

▼インフォーマント2

- ①コレー イッパイ サカナッコ モラッテ ココマデ キタンダケントモ、ツカレテシマッタカラ、スコス モッテスケロヤ。
- ②(コレー イッパイ サカナッコ モラッテ ココマデ キタンダケントモ、ツカレテシマッタカラ)、チョット ウチマデ モッテスケロヤ。

3節で述べた特徴は、これらの回答にも現れている。インフォーマント2には「モッテスケロヤ(一)」という命令形式が見られ、恐縮表明は両者ともに出現していない。インフォーマント1の「イエマデ ヒトリデ ハコベネンデ」やインフォーマント2の「ツカレテシマッタカラ」は自己に視点を置いた状況説明と言える。全体に今年度の結果の方が回答が短い傾向があるが、昨年度の結果の特徴は今年度の多人数調査によってもある程度確認できたと考えられる。

次に、会話について見てみよう。ここで「会話」というのは、これと同じ場面を実際の会話によって実演したもので、『生活を伝える被災地方言会話集 1』に収録したものである。具体的には、「1-1. 荷物運びを頼むー①受け入れる」の場面が該当する。今、依頼発話に関わる会話の冒頭部のみを引用すると、次のようである。話者はAが女性、Bが男性であり、ともに高年層である。

001A : Bサーン アダシ コレ サンマ モラッテ、イッパイ モライスギダヤー。
Bさん 私 これ さんま もらって、いっぱい もらいすぎたよ。

002B : ナーント ドッサリデー。
なんと どっさりで。

003A : ンダカラー。 アノ モジキレネモンダガラ モッテスケテモラッテイーベガネー。
そうなんだよ。あの 持ちきれないもんだから 持って[助けて]もらっていいだろうかね。
(『生活を伝える被災地方言会話集 1』45頁)

003Aに見られる「モッテスケテモラッテイーベガネー」のような許可要求形式は、面接調査では見られなかったものである。そうした違いはあるが、上で指摘したいくつかの特徴はここでも観察することができる。

今年度の調査結果と比較した場合、この会話に近いパターンが、インフォーマント12の回答に現れているのが注目される。あらためて引用してみよう。

12 (女) ヤーヤ Bサン。イッペー サンマ モラッテキタヤー。ココマデキタツケ オモダ
クデ ツカレテシマッタヤー。モッテスケネベカネー。

両者を比べると、全体として「呼びかけ」－「状況説明」－「要求提示」という構成が共通していることがわかる。また、「イッパイ モライスギダヤー」(会話)、「イッペー サンマ モラッテキタヤー」(インフォーマント 12) のように、開口一番、その場の事態を感嘆的に相手に訴えかける表現も類似している。こうした感嘆的な発話は小林隆 (2018) でも言及したように、面接調査ではとらえにくかったものの、気仙沼市方言のひとつの特徴である可能性が考えられる。

文 献

小林 隆 (2014) 「配慮表現の地理的・社会的変異」野田尚史・高山善行・小林隆編『日本語の配慮表現の多様性』くろしお出版

小林 隆 (2018) 「擬似会話型面接調査」の試み」東北大学方言研究センター『被災地方言の保存・継承のための方言の記録と公開』東北大学大学院文学研究科国語学研究室

小林隆・澤村美幸 (2014) 『ものの言いかた西東』岩波書店

東北大学方言研究センター『生活を伝える被災地方言会話集－宮城県気仙沼市・名取市の 100 場面会話－1』東北大学大学院文学研究科国語学研究室

第2部

声で残す名取のなつかすい方言集

はじめに

『声で残す名取のなつかしい方言集』を作成した意図を説明するには、東日本大震災のあった平成二十三年十一月に宮城県の名取市観光協会が発刊した方言語彙集『おはようござりす』について先に触れなければならぬ。『おはようござりす』の冒頭には、名取市観光協会がこの方言集に込めた思いが述べられている。

現代の若者は、幼少期からの語学教育やテレビ・ラジオ等のマスメディアの発達により、皆標準語を話せるようになっていす。

しかし、地方にはまだまだ多くの方言が存在しており、ある意味では祖先が残した貴重な文化遺産となっています。

これらの方言を伝承していくことにより、現代社会において失われつつある人間の心の豊かさや温もり、その地域の良さを再発見できればとても素晴らしいことではないでしょうか。

『おはようござりす』は、「なとりの方言」と「地名の由来」の二部構成である。全四十一頁のなかで「なとりの方言」は二十五頁

を占め、七九四語の語彙が収録されている。そして「あがあげず…あかとんぼ」「まやう…弁償する」「もうす…買い物で店の人を呼ぶ言葉」というように、「方言の語彙…共通語の語彙ないし共通語による説明」という形式で五十音順に並べられており、一般的な方言語彙集の体裁を成している。

この『おはようござりす』をさらに有効に活用することができるのではないかと考えたのが、地元で方言の継承活動をしている「方言を語り残そう会」（現在、平均年齢七五歳。代表金岡律子氏）である。「方言を語り残そう会」は、平成二十一年に地元で活動していた民話の語り部養成の会から派生して本格的に活動を始めた。名取方言のカルタの作成や小学校での方言による民話の語り教育などを実践してきたが、平成二十三年に東日本大震災を経験してからは、仮設住宅での方言による慰問活動や震災を方言で詠んだ句集『負けねっちゃ』『詩集『生きるっちゃ』』を制作するなど多岐にわたって活動を展開している。

だが、一貫しているのは地元の方言を次世代に継いでいきたいという思いである。そして、そのためには自分たちの「声」が欠かせないと考えている。会の発足以来、発刊を続けている地元の民話と創作民話を集めた『方言おかしばなし 名取ざっと昔』の一卷と

二巻においても、会員たちは必ず自らの声で昔話を朗読したCDを作成している。方言の繊細で微妙な発音やアクセントを文字に押し込めてしまうことへの違和感がその理由だが、それ以上に「方言を語り残そう会」が声にこだわるのは、生身の声の温かさが方言の温もりなのだと考えているからである。

昨年実施した被災地における方言の活性化支援事業「被災地方言の保存・継承のための方言の記録と公開―名取市における市民団体の協力による方言資料の音声化―」で「方言を語り残そう会」は方言詩集『生ぎるっちゃ』（平成二五年刊行）の朗読に参加した。

この時の朗読は「声で残す方言詩集『生ぎるっちゃ―大震災を乗り越えて―』のCDとして世に出た。そして今回は第二弾として、『声で残す名取のなつかしい方言集』を作成したわけだが、これは平成二七年から「方言を語り残そう会」が取り組んできた方言集『おはようござりす』の検討作業の集大成でもある。

「方言を語り残そう会」は、方言集『おはようござりす』に収録された語彙を検討する過程で、共通語であると思われる語彙（たとえば「たらふく」「ひよるながい」）や会員が知らない語彙（たとえば「ちっちゃこい」「にわよせいっぱい」）を外す一方で、収録されていない語彙（たとえば「いぎなり（非常に）」「しづね」）を新たに加

えた。その結果、計五八六語の語彙が『声で残す名取のなつかしい方言集』の収録語彙として選ばれた。さらに、方言集『おはようござりす』の精神―伝統的な方言の継承と地域の文化の再発見―を引き継ぎ、二つの方針を立てた。

- 一、体裁は「方言…共通語」ではなく「共通語…方言」とする。
- 二、使用例を必ず用意する。

「方言を語り残そう会」が一つ目の方針を立てた理由は、次世代に方言を継ぐためである。方言を知らない世代に方言を伝えるには、共通語が先にある方が理解しやすいであろうと考えたのである。二つ目の方針も、方言を知らない世代に方言のありのままの姿を伝えるためである。また、共通語訳では伝えきれない意味を使用例で補うという目的もある。

たとえば「鳥肌」という意味の「さらさらいぼ」は、その使用例によって恐怖を感じても寒さを感じても使用されることがわかる。

● うう、おっかねぐで、さらさらいぼ出だ。

● ああ、寒ぐで寒ぐで、さらさらいぼだ。

また、「傷をつける・切り目をつける」という意味の「きっぱつける」の使用例も興味深い。

●あいや、その手、何したの、きっぱついでわ。

●この袋、きっぱつけておくと、あと楽だど。

この二つの使用例から、「きっぱつける」が身体の表面の一部を切ることだけでなく、物の一部を切ることに使えるのがわかる。

だが、使用例は方言の意味や使用場面に応じて作成しやすいものとしにくいものがある。検討作業の結果、日常生活の会話の一部を切り取ったかのような使用例も作成されたが、一方で説明的なものや、意味の説明の補足として十分とはいえない使用例が生まれたのは否めない。

また、『声で残す名取のなつかしい方言集』では「共通語…方言」という体裁の意図を効果的に示すために、意味分類をしたうえで五十音順で「共通語…方言」を並べる形式をとった。設定した分類項目は、三三項目である。

1. 獣・鳥・両生類・爬虫類・虫（一五語）
2. 草・木・野菜（一〇語）
3. 自然現象・自然物・天候・地形（一四語）
4. 身体部位（一九語）
5. 体調・病氣・疾患・怪我（四〇語）
6. 衣類・装身具・履物（一五語）
7. 飲食物・食材・食生活（二七語）
8. 住居・建築・土地利用（二三語）
9. 日用品・金銭・祭事品（二七語）
10. 位置・方向・部分（九語）
11. 時間・時期・季節・行事（一七語）
12. 程度・数量・回数（一一語）
13. 人物・親戚関係・人間関係（二六語）
14. 人物の性格・態度・身体的特徴・職業・特性（五二語）
15. 形状・サイズ（九語）
16. 様態・態度（三九語）
17. 味覚・嗅覚・触感（一二語）
18. 感情・評価（二七語）
19. 発言・発話に関わる行為・活動（一四語）

- 20. 飲食に関わる行為・活動（五語）
- 21. 移動に関わる行為・活動（一〇語）
- 22. 心情・思考に関わる行為・活動（一七語）
- 23. 労働（家事・農作業・就業）に関わる行為・活動（一三語）
- 24. 睡眠・休息に関わる行為・活動（七語）
- 25. 汚損・破壊・切断に関わる行為・活動（一〇語）
- 26. 剥奪・剥落・落下に関わる行為・活動（六語）
- 27. 育成・成長に関わる行為・活動（八語）
- 28. 対象に働きかける行為・活動（三五語）
- 29. 人間関係・社会生活に関わる行為・活動（二四語）
- 30. 身体の動き・状態・変化（二一語）
- 31. 遊び・運動（一一語）
- 32. 相槌・疑問・呼びかけ・まじないなどの表現（一〇語）
- 33. 挨拶（三語）

意味で語彙を分類してから、分類ごとに共通語訳を五十音順で並べたことで、たとえば共通語訳では「けちな人」と説明される「いすびり」「すびたれ」「すわっぴり」「までかす」の違い（「あの人、ほんとにいすびりだっちゃんね。がめついでだ」「あの人、すびたれ

だから募金に一円だって出さねえよ」「あの人、すわっぴりでやんだなや。一緒に食いさ行がんね」「あの人までかすだおんね。すんしょ残すべおん」）や、「たくさん」と訳される「うんど」「こでっちり」「ふだ」の違い（「いやあ、このお土産、こだにうんどもらっぺいいのすか」「腹減んねようにや、こでっちりご飯分けてやっからな」「あそこの家は何でもふだふだあるんだなや」）について考える手がかりが読み手や聞き手に与えられることとなった。

だが、細かく見ていくと、意味分類の項目の設定や分類基準にいくつか問題がある。「感情・評価」と「心情・思考に関わる行為・活動」の差異化をはじめ、「対象に働きかける行為・活動」「身体の動き・変化」に他の語彙との共通項が見出しにくい語彙が集中して分類されるなど改善すべき点は多い。これは、研究者である筆者の責任に帰すものであり、今回の課題である。

とはいえ、こうした問題をはるかに上回るくらい「方言を語り残そう会」が作成した使用例とその声には、読み手と聞き手を引き付ける力がある。それは、方言が生活に裏うちされた言葉であり、地域の歴史を物語る生き証人であるからだろう。たとえば、「漬物」を意味する「おごご」や「大根漬け」を意味する「でえごんづけ」の使用例には、どちらも「お茶を飲む」という行為が出てくる。

●お茶飲みは、おごこさ限るな。

●さあ、でえごんづけでお茶っこ飲まいん。

これは、漬物をお茶請けにする東北の生活を反映したものである。これに限らず、誰かと「お茶を飲む」、つまり「お茶を飲みながら語り合う」という場面を切り取った使用例は実が多い。気心の知れた者同士のささやかな日常の風景が垣間見えるようである。

また、使用例を通して見えてくる風景の中には、かつての懐かしい生活もある。「木片」を意味する「きっこばず」（きっこばず集めてこい。風呂焚きに使うがら）や「藁で作ったたわし」を意味する「もだら」（鍋釜洗うとき、もだらでこすこす洗ったもんだ）は、現代の生活では縁遠くなったものである。

生活の風景から失われたのは、こうした日用品だけではない。たとえば、「忙しいから、赤ん坊を柱さゆつけておけ」の「ゆつける」は、「結いつける」という意味だが、赤ん坊に対してこのような行動をとるのは現代ではありえない。また、「下座」を意味する「きずり」の使用例は「きずりさ座んのは、嫁ごのあんただ」 「母ちゃんの席、きずりだつて昔教えてもらつたっけな」の二例だが、こ

した生活の文化は現代の生活から失われつつある。

そして、現代の生活では使わなくなった、いわゆる差別語にあたる言葉も方言には少なくない。ここに掲載するかどうか迷ったのは事実であるが、方言がかつてあった生活の記憶を語り継ぐ言葉である以上、掲載することには意味があると最終的に判断した。

さて、『声で残す名取のなつかしい方言集』の使用例に自身の声を吹き込んだのは、「方言を語り残そう会」の中の八名の会員（女性六名、男性二名。六〇代から九〇代）である。宮城県出身者六名、岩手県出身者一名、奈良県出身者一名だが、宮城県外出身者も名取市での在歴は四十年以上である。こうした地域差と年齢差があるためか、あるいは録音という緊張を強いる状況であったためか、それぞれの発音には微妙な違いがある。いわゆる東北方言の伝統的な発音である語中語尾のカ・タ行音の有声化、キの口蓋化、連母音の融合、そして中舌母音などに差異があった。このため、方言語彙および使用例の表記は個々の発音に近い文字を当てることにし、統一していない。たとえば、共通語の「し」にあたる発音として「す」と「すい」があるのはこれが理由である。表題の「なつかすい」も、会員たちの発音に「なづがすい」

や「なつかしい」などばらつきがあったため、会員たちと相談し中間的な発音を表記として選んだ。

また、使用例にはそれぞれ簡単な共通語の説明を付している。共通語に置き換えられない語彙や文末表現のニュアンスがうまく表せないものが複数あるため、逐語的な共通語の訳になっていない。特に文末表現は、読み手や聞き手の判断を仰ぎたい。

使用例の録音は、平成三十一年の一月一三、一四日と二月一五、一六日に名取市市民活動支援センターの会議室でおこなった。センターの職員をはじめ利用者の方々も可能な限り無音の状態を作ることに協力くださったが、多少のノイズが朗読の声と重なってしまっただ使用例がいくつかある。この点も、今後機会があれば改善したい。

以上で述べたように、『声で残す名取のなつかしい方言集』では録音、使用例、意味分類など様々な課題を残すこととなったが、計五八六語の方言語彙とその使用例は十分に聞きこたえがある。東日本大震災のあった年に発行された方言集『おはようござりす』のさらなる活用を目指して検討作業を続けた「方言を語り残そう会」の活動と会員たちの「声」は、被災地の方言の活性化に確かな足跡を残したと言えるだろう。今後は、『声で残す名取のなつかしい方言集』が新たなきっかけとなり、被災地の方言がさらに活性化される

ことを願うばかりである。

なお、CDには使用例の後に年末と年始の行事である「おつつめ」と「ちゃせご」について男性が説明する談話が入っている。活き活きとした語り口で、年中行事を語る声にも耳を傾けてもらいたい。

録音・編集担当 榎引祐希子

名取のなつかしい方言

1. 獣・鳥・両生類・爬虫類・虫

▼【赤とんぼ】あけあけず

- あけあけずいたがら、とってける。静かに行って羽っこつかめ。
(赤とんぼいたがら、とってくれ。静かに行って羽をつかめ)

▼【牛】べこ

- あそこのべこ、仔っこなすたんだってなや。(あそこの牛、仔牛を産んだんだって)

▼【鱗】こげら

- ちゃんとこげら落としてから切るんだぞ。(ちゃんと鱗を落としてから切るんだぞ)

▼【おたまじゃくし】げえろご

- げえろごは蛙の子だっちゃ。(おたまじゃくしは、蛙の子だよ)

▼【蚕】おごさま

- おごさまが桑の葉食ってる音は、雨ふってるみでな音だなや。
(蚕が桑の葉を食べている音は、雨が降っているみたいだなや)

▼【蛙】びっち ※「びっき」とも言う。

- びっちの声、うるせごだ。(蛙の声、うるさいことだ)

▼【蛙(ひき蛙)】ふぐだびっち

- ふぐだびっち、おっきいからおつかねど。(ひき蛙は大きいから、怖い)

▼【シマヘビ】すずなめ

- すずなめだ、危ねえがら、逃げる。(しまへびだ、危ないから逃げる)
- そいつ、すずなめだから、大丈夫だべ。(それ、しまへびだから、大丈夫だろう)

▼【タニシ】つぶ

● 田んぼの中さつぶ、いっぺえだ。(田んぼの中にたにしがいっぺいだ)

● つぶ、そんなにとって、なにすんの。(たにし、そんなに獲って、どうするの)

▼【トカゲ】かなげっちょ

● 庭さかなげっちょいっぺいるんだよ。(庭にトカゲがたくさんいるよ)

▼【鳥のフン】けし ※「けす」とも言う。

● 洗濯物さ、けし、かがんねえように気をつけさいん。(洗濯物に鳥のフンがかからないように気をつけなさい)

▼【トンビ】とおひ

● とおひが輪をかいで飛んでいだっけよ。(トンビが輪を描いて飛んで行ったよ)

▼【野良犬】のっつおいぬ

● のっつおいぬだから、ぼってやれ。(野良犬だから、追いつてやれ)

▼【蜂】すがり

● すがりいっから、気をつけるよ。(蜂がいるから気をつけるよ)

▼【まむし】くっさび

● くっさび、毒もってからかまれねえよに気をつけるよ。(ママシは毒もっててからかまれねえよに気をつけるよ)

2. 草・木・野菜

▼【オオバコ】げろっぱ

- 昔なあ、げろっぱも食ったもんだ。(昔はな、オオバコも食べ
たもんだ)

▼【ゴボウ】ごんぼ

- ごんぼ煎り、作ったがら。(ゴボウの煎りもの、作ったがら)

▼【笹竹の切り株】かっぱ

- 藪越えへ出っと、かっぱさすがら氣つける。(藪越えに出ると、
笹竹の切り株が刺すから氣をつける)

▼【サヤエンドウ】にどまめ

- そろそろ、にどまめ撒く時期だぞ。(そろそろサヤエンドウを
撒く時期だぞ)

▼【サルスベリ(百日紅)】さぐずこ

- 今年もさぐずこ、いっぺ咲いたね。美しいぞだ。(今年もサル
スベリ、いっぺ咲いたね。美しいことだ)

▼【じゃが芋】にどいも

- そろそろ、にどいも植えっから用意するわ。(そろそろじゃが
芋を植えるから用意しろ)

▼【トウモロコシ】とうみぎ

- とうみぎ茹でだから、食べさいん。(とうもろこしを茹でたか
ら、食べなさい)

▼【葱】ねぶか ※「ねぶか」とも言う。

- ねぶかの根っこの泥、落としてから持ってこい。(葱の根元
にある泥を落としてから持って来い)

- まだ、ねぶか汁が。他にねえのがや。(また葱の味噌汁が、
他にないのかね)

▼【山芋・長芋の一種】らぐだいも

- らぐだいも、すりおろしてご飯食うど、んめえんだ。(山芋
をすりおろしてご飯を食べると、おいしいぞ)

▼【ヨモギ】もづくさ

●草餅作っから、もづくさ摘んでこう。(草餅を作るから、ヨモギを摘んで来い)

3. 自然現象・自然物・天候・地形

▼【雨】おしめり

●天気が続いて野菜だめになる。少しおしめりあつといいんだがなや。(天気が続いて野菜がだめになる。少し雨が降るといいんだが)

●日照り続いだがら、良いおしめりだ。(左が続いたから、良い雨だ)

▼【稲妻】おひかり

●おひかり鳴ったがら、臍かくせ。(稲妻が鳴ったから、臍を隠せ)

▼【雷】おれさま ※「おれえさん」とも言う。

●おれさま鳴ったがら、雨降るぞ。(雷が鳴ったから、雨が降るよ)

●おれさま鳴ったら、へそとられっから、早く隠せ。(雷が鳴ったら、雷様に臍を取られるから早く隠せ)

▼【崖】がんけ

● がんばりから転げで怪我したんだと。(崖から転げて怪我をしたのだと)

▼【凍る】すいみる

● いやあ、夕べの寒さで、よう大根よくすみだなんや。(夕べの寒さで大根がよく凍った)

● 今朝、寒いから洗濯物干したっけば、いやあ先からすみでんのわ。(今朝は寒いから洗濯物を干したら、先から凍っているんだ)

▼【地面の凍結】たっぺ

● そごらたっぺになってっから、気づけて帰らいんよ。(そのあたりの地面が凍結してるから、気づけて帰りなさいよ)

▼【水面に立つ波】なぐら

● 大きい船来たがら、なぐら立った。(大きい船が来たから水面に波が立った)

▼【太陽】おでんとさん

● おでんとさん出て来たから洗濯物ほしててける。(太陽が出て来たから洗濯物ほしてくれ)

▼【氷柱】たろひ

● 「今年のたろひ、ちゃっこいな」「あったけがらだっちゃ」
(「今年の氷柱、小さいな」「温かいからだよね」)

▼【泥】でろ

● あら、顔さでろ付いですと。(あら、顔に泥がついてるよ)
● でろ落どしてがら、家さあがれよ。(泥を落としてから家に入あがれ)

▼【泥(裾にはねたもの)】すっぱね

● スピードを出して走って来た車に、すっぱねかけらったんだ。(スピードを出して走って来た車に泥を裾にはねられた)

▼【ぬかるみ】げいご

● まにわさ撒いた水でわらすだづ遊んだがら、げいごになったわ。

(前庭に撒いた水で子どもたちが遊んだから、ぬかるみになっ
たよ)

▼【灰】あぐ

●お練香のあぐ、落とすなよ。(お練香の灰、落とすなよ)

▼【山のふもと】やまね

●おらいの家、やまねなんだ。(私の家は山のふもとにあるんだ)

4. 身体部位

▼【顎】おどげ

●おどげぶっつけた。(顎をぶっつけた)

●おどげさご飯、ついてっと。(顎にご飯粒ついてるよ)

▼【腕】けえな

●あんだのけえな、ふっといごだ。(あなたの腕は、太いこと

だ)

●やあ、久しぶりの畑仕事でけえな痛くなった。(やあ、久し

ぶりの畑仕事で腕が痛くなった)

●五十肩でけえな痛くて寝てもいらんねえ。(五十肩で腕が痛く
て寝てられない)

▼【おかっぱ】ざんぎり

●ざんぎり頭よく似合ってたごだ。(おかっぱ、よく似合ってる
ことだ)

▼【踵】あぐど

●あそこのわらすこ、遊んでいであぐど怪我すたんだや。気つ

けるよ。(あそこの子ども、遊んでいて踵を怪我したんだそう
だ。気をつけろよ)

▼【首】くびた

●寝違て、くびた痛えごだな。(寝違えて首が痛いな)

●寒いから、くびた襟巻すたら温けえな。(寒いから首にマフラ
ーを巻くと温かいな)

▼【声】つぼっけ

●なんだや、もう少し、静かにや。つぼっけ、高いごだ。(もう
少し静かに。声が高いな)

▼【乳】っこ

●おほこさっこ飲ましえっから、ちよっと待ってろや。(赤ん坊
に乳をのませるから、ちよっと待ってて)

▼【唾】たんぺ

●そんな所さたんぺすてだめだど。(そんな所に唾を履いたらだ
めだ)

▼【つむじ】まぐめ

●珍すいごだ。まぐめ二つあるんだど。(珍しいな。つむじが二
つあるんだそうだ)

●まぐめ、ふたつもある人は強い人だどや。(つむじが二
つある人は、強い人だそうだ)

●あの人のまぐめ、反対だな。(あの人のつむじは、反対巻
だ)

▼【喉元】のどべ

●のどべさ、餅ひっかけすなよ。(喉に餅をひっかけるなよ)

▼【禿】すらっばげ

●すらっばげだがら、かづらかぶってるって。(禿げているから、
かづらをかぶっているって)

▼【額】なずじ

●熱っこあってえ。なずじば氷で冷やさいん。(熱があって。額
を氷で冷やしなさい)

▼【頬】ひてこび

● いやあ、あんたのひてこび広いね。(あんたの頬、広いね)

▼【太もも】ももた

● やあ、歩きすぎてももた痛えわな。(歩きすぎて太ももが痛いな)

● いやあ、ももたはって痛えごだな。(太ももがはって痛いな)

▼【頬】ほったぶ

● あいや、あのわらすこ、ほったぶ赤いごだ、寒いのがや。

(あの子ども、頬が赤いな、寒いのかな)

● ほったぶさ霜焼けでぎで、かゆいっちなや。(頬に霜焼けができて、かゆいな)

▼【ぼんのくぼ】ぶんのぐど

● ずっと下向いで仕事すったから、ぶんのぐど、痛えごだ。(ずっと下向いて仕事したから、ぼんのくぼが痛い)

▼【眉毛】このげ

● 焚火したらや、このげ燃えてしまったや。(焚火したら、眉毛が燃えてしまった)

▼【胸】むなめ

● めぐせがら、むなめはだけで歩くなよ。(見苦しいから、胸をはだけて歩くなよ)

▼【眼】まなぐ

● あいや、まなぐさゴミが入って痛えごだなや。(目にゴミが入って痛いな)

5. 体調・病気・疾患・怪我

▼【痣になる】くろつよる

●膝ぶつけてくろつよったあ。(膝をぶつけて痣になった)

▼【いがらっぽい】えごい

●喉、えごい。あくが強く喉えごいごだ。(喉がいがらっぽい、あくが強く、のどがいがらっぽいな)

▼【息苦しいこと】いぎっぼ(で)

●満員電車に乗ったつけ、いぎっぼくで困ってしまった。(満員電車に乗ったら、息苦しくて困ってしまった)

▼【いびき】はなぐら

●はなぐらかいで寝でだ。(いびきをかいて寝ていた)

▼【うおのめ】いよのめ

●何すたんだが、足さいよのめ出んだや。(何したんだか、足にうおのめができた)

▼【音のない屁】すかすっぺ

●誰だ、すかすっぺしたの。臭えごだ。(誰だ、音のない屁をしたの。臭いな)

▼【かじかむこと】かんず

●手袋しねがったから、手の指、かんずになったわ。(手袋をしながったら、手の指がかじかんだ)

▼【肩が張る】けんびきはる

●右肩、けんびきはって苦しいのっしゃ。(右の肩が張って苦しい)

▼【吃音になる】まますぐ

●緊張すつと、まますぐんだよ。(緊張すると、吃音になるんだよ)

▼【ぎっくり腰】ぎっくりこし

●いやあ、昨日重て物たんがいて、ぎっくりこしすてしまったなやあ。(昨日重たい物を運んで、ぎっくり腰になってしまった)

▼【くしゃみ】あくしょん

●ああ、風邪ひいですまった。あつくしょんって鼻水たれるや。

(風邪ひいてしまった。くしゃみして鼻水がたれる)

●なんだべえ、こっつ向いてあくしょんすんなよ、汚たねごだ。

あっつ向いてする。(なんだ、こっち向いてくしゃみをするな。
汚いな。あっち向いてしろ)

▼【具合が悪い】あんべわれえ

●あんだ、そんなにあんべわれえんなら、医者さ行げ。(そんな

に具合が悪いのなら、医者に行け)

▼【下痢】ざっぴり

●食あたりすたのがな、ざっぴりになった。(食あたりしたのか

な、下痢になった)

▼【下痢】はらびり

●何食ったんだや、おら腹痛えごど。はらびりになったや。(何

を食べたんだか、腹が痛い。下痢になってしまった)

▼【衰弱する・生気がなくなる】がおる

●水やんねがら、花がおってすいまった。(水をやらないから花
が萎れてしまった)

●身体弱ってすいまって、がおったや。(体力がなくなってしま
って、肉体的に衰弱した)

▼【筋を違える】ひつつげる

●夕べね、寝でて、首っこひつつげてしまつて痛えごだね。(夕
べ寝ていて、首の筋を違えてしまつて痛いことだ)

▼【卒倒する】ぶっける

●いや、おらびっくりすたや。父ちゃん、急にぶっけたんだおん。

(驚いたよ。父親が急に卒倒したんだ)

▼【体調がすぐれない】すげねえ

●あんだ、すげねえ顔して何すたの。風邪でもひいたんでねすか。

(あなた、体調がすぐれない顔してどうしたの。風邪でもひい
たのではないですか)

▼【大便】えんこ

● えんこたつて来っから、ちよつと待ってるな。(大便をして(垂れて)くるから、待ってて)

▼【体力がない】がせねえ

● いやあ、風邪ばりひいててやあ、がせねえな。(風ばかりひいていて体力がないな)

▼【痰】たんこ

● 風邪ひいて、たんこ出て止まんねえや。(風邪ひいて、痰が止まらない)

● たんこ詰まっど苦すいんがら、すっかりとれよ。(痰が詰まると苦しいから、しっかり取れよ)

▼【疲れた】こええ

● 働きすぎで、こえごだな。(働きすぎて疲れた)

▼【鳥肌】さらさらいぼ

● うう、おっかねぐで、さらさらいぼ出だ。(怖くて鳥肌が出た)

● ああ、寒ぐで寒ぐで、さらさらいぼだ。(寒くて寒くて鳥肌だ)

▼【難儀する】うざねはく

● ここまでうざねはいで登ってきた。(ここまで難儀して登ってきた)

● この仕事面倒くさくて、うざねはくなや。(この仕事は面倒で難儀した)

▼【寝小便】よずばり ※「よずはれ」とも言う。

● 雨だでば、よずばりたれで、布団、干せねべっちゃ。(雨が降って、寝小便で濡れた布団が干せない)

▼【喉に食べ物がかえること】のどっばみ

● 危ねえがら、のどっばみすねえように食えよ。(危ないから、喉につかえないように食べろよ)

▼【喉にひっかける】のぎく

●餅食う時、のどくなよ。氣つけて食えよ。(餅を食べる時は喉にひっかけるなよ。氣をつけて食べろよ)

▼【(どろっとした)鼻水・青っ鼻】ねぎりっぱな

●いや、めずらしいこた。見ろず、あのやるこ、ねぎりっぱな、垂らしてっちゃ。(珍しいな。あの男の子、青っ鼻を垂らしてろぞ)

▼【(大量の)鼻水】ぼっぱな

●風邪ひいだのがや、ぼっぱな流すて。(風邪を引いたのか、大量の鼻水を流して)

▼【歯の一部がないこと】はっかけ

●おらいのずいさん、はっかけなのは何でも食うんだよ。(私の家の祖父は、歯の一部がないのに何でも食べるんだよ)

▼【骨身にこたえること】ぎぐずぐ

●少し動いたばかりでも、体のあちこちぎぐずぐする。(少し動いただけでも、体のあちらこちらの骨身にこたえるよ)

▼【満腹】くっつい

●いっぺ食って、腹くっつくなつた。(たくさん食べて、満腹になつた)

▼【むかむかして氣持が悪い】むすずはしる

●食い過ぎだかして、むすずはしる。(食べ過ぎたのか、むかむかして氣持が悪い)

▼【目の病氣】めっちゃ

●何すてほだにめっちゃ悪くなつたの。(どうしてそんなに目が悪くなつたの)

●めっちゃでテレビ見らんねえなや。(目の病氣でテレビを見ることができな)

▼【目やに】めほ ※「めっちゃ」とも言う。

●顔洗つたのが、めほ付けでよ。(顔を洗つたのか。目やにを付けて)

● いやあ、目、悪いのが。めほ出して。（どうした、目が悪いのか。目を出して）

▼【麦粒腫（ものもらい）】ばか

● なんだかいずれと思ったけばや、目さばか出てたんだっちゃ。（なんだか違和感があると思ったら、目に物もらいが出てたんだ）

▼【やけど】やげぼっぼ

● 天ぶら揚げで、やげぼっぼなった。（天ぶらを揚げていて、やけどしてしまった）

▼【用便を漏らす】むぐす

● むぐすて洗うの、大変だ。ば。（用便を漏らしたものを洗うのは、大変だ）

▼【指のささくれ】さがさづめ

● まだ引っかけたわよ、ここや。さがさづめ痛えごだ。（また引っかけたよ、ここ。指のささくれは、痛いことだ）

▼【リンパ腺の腫れ】いのこ

● 股さいのこ出て、いずいなや。（股の部分にリンパ腺の腫れもができて違和感があるな）

6. 衣類・装身具・履物

▼【着るもの】いしょ

● 早くいしょ着る。(早く着なさい)

▼【子ども用の革履】じょじょ

● じょじょ履いで庭に出て遊ぶから。(革履を履いて庭に出て遊ぶから)

▼【子どもを背負う時に着る着物】ねんねこ

● 寒いから、ねんねこ着ておべ。(寒いからねんねこを着て背負え)

▼【地下足袋】はだしたび

● 魚の行商のときは、はだしたび、菜だな。(魚の行商をする時は、地下足袋が菜だな)

▼【女性用の防寒具・角巻】かぐまぎ

● 今かくまぎ持っている人、いねべおんな。風ふく時、かぐまぎ着つとあつたげえんだよ。(今、角巻持っている人、いないだ

ろうね。風が吹く時、角巻を身に着けると温かいんだよ)

▼【袖なしの上着(成人用にも使用)】ちゃんちゃんこ

● ちゃんちゃんこ着つと、温けど仕事もしやすいんだっちゃ。(ちゃんちゃんこを着ると、温かいし仕事もしやすいんだ)

▼【筒袖の着物】むずり

● 寒いって言うから、ばんちゃんさむずり持ってこよう。(寒いって言うから、おばあちゃんにむずりを持ってこい)

▼【寝間着】ねいしょ

● 新しいねいしょで着るのは、気持ち良いなや。(新しい寝間着を身に着けるのは気持ちが良いな)

▼【歯の高い下駄】たがっぱ

● たがっぱ履いて応援の練習をしている人いるよ。(歯の高い下駄を履いて応援の練習をしている人があるよ)

▼【帽子】ちゃっぶ

● 外暑いんだがら、ちゃっぶかぶってげ。(外は暑いんだから、帽子をかぶって行け)

▼【帽子のつば】べろ

● 暑い最中出かけっ時は、べろのおっきい帽子かぶってげよ。(暑い最中に出かける時は、つばの大きい帽子をかぶって行け)

▼【ぼろ】わんばれ

● そだなわんばれ着て恥ずかしいごだ。(そんなぼろを着て、恥ずかしいごだ)

▼【麦わら帽子】むんから

● 今日暑いがら、むんから帽子かぶって仕事するよ。(今日は暑いから、麦わら帽子をかぶって仕事をしろよ)

▼【浴衣・湯上りに着る着物】ゆどり

● しっしょがらあがったら、ゆどり着ろよ。(風呂からあがったら、湯上りの着物を着ろよ)

▼【綿入りの半纏】どんぶく

● 冬寒い時、どんぶく着ると温えけんだよな。(冬の寒い時は、どんぶくを着ると温かいんだよな)

7. 飲食物・食材・食生活

▼【イカの塩辛】きりこみ

- イカ買ってこ、きりこみ作っから。(イカ、買ってこい。イカの塩辛を作るから)

▼【一食分】ひとがだけ

- ひとがだけだけんども、持ってけ。(一食分だけだけれど、持って行け)

▼【おから】きしやず

- きしやず、んめえごだ。(おからは美味しい)
- きしやず煎り作ったぞ。けえ。(おからの煎りものを作ったぞ。食べろ)

▼【貝】けんこ

- 開上のけんこは日本一。(開上地区で獲れた貝は、日本一だ)
- 今朝のみそ汁、けんこ汁だ。(今朝のみそ汁は、貝のみそ汁だ)
- けんことりさみんなで行ぐべ。(貝をとり、みんなで行こう)

▼【きな粉】まめご

- まめご引いたがら、きなこ餅でも作ったら。(きな粉を引いたから、きな粉の餅でも作ったら)

- まめご餅作っながら、食べさいん。(きな粉の餅を作っながら、食べなさい)

▼【果物や野菜のへた】すびた ※「しびた」とも言う。

- おれんどこさすびたばり寄こして。(私の所に、へたの付いた部分ばかりを寄こして)

▼【口のまわりの汚れ】かんばん

- かんばん見つと、何食ったかわかっつと。(口のまわりの汚れを見ると、何を食べたかわかるぞ)

- 鏡見て、かんばん、よぐ落どせ。(鏡を見て、口のまわりの汚れをよく落とせ)

▼【コップ酒】もつきり

- おんつぁんは、もつきり飲むのが好きだ。(おじさんは、コップ酒を飲むのが好きだ)

▼【ご飯・食事】おまま

●早くおまま食べ。学校、遅れっと。(早くご飯を食べる。学校に遅れるぞ)

●みんな集まったら、おままにすっから。(みんな集まったら、ご飯にするからね)

●おままこぼすと、ばちあたっど。(ご飯をこぼすと、罰が当たるぞ)

▼【芯のある固い】ご飯【めっこめし】

●ちょっと水足んねぐて、晩げのおまま、めっこめしになってしまった。(ちょっと水が足らなくて、夕食が芯のあるご飯になってしまった)

▼【魚】どっと

●おらいのわらすこ、どっとって言って好きで食べんですが。(私の子ども、魚と言って、好きで食べるんです)

▼【魚のはらわた】ごんどわだ *使用例のみ音声あり

●ごんどわだ、そこらさ置いておくと、虫湧ぐがらなげるよ。(魚のはらわたをそこらに置いておくと虫が湧くから捨てる)

▼【サケ】さげのう

●さげのうとれたがら、はらこ飯、作っからね。(鮭が獲れたから、はらこ飯を作るからね)

▼【里芋の茎】からどり

●からどりの和え物、んめえもんだ。(里芋の茎の和え物は、美味しいものだ)

●雑煮さからどり入れっと味違うんだよ。(雑煮に里芋の茎を入れると味が違うんだよ)

▼【しゃこえび】こっばはじき

●皮むくの面倒くせえけんど、こっばはじきは、んめえんだ。(皮をむくのは面倒くさいけれど、しゃこえびは美味しい)

▼【旬を過ぎて珍しくなった食べ物】おわりはづもの

●このトマト、おらいのおわりはづものだけんど、食べてみらい

ん。(このトマト、私の家で作った旬を過ぎたものだけれど、食べてみなさい)

▼【赤飯】おごわ

●神社のお祭りだから、おごわ蒸すか。(神社のお祭りだから、赤飯を焚くか)

●孫振る舞いやっから、明日おごわにすっぺ。(孫振る舞いをやるから、明日は赤飯にしよう)

▼【大根漬け・沢庵】でえごんづけ

●さあ、でえごんづけでお茶っこ飲まいん。(大根漬けでお茶でも飲みなさい)

▼【大根の千切り】ひぎな

●ひぎな炒めだの、んまがったな。(大根の千切りを炒めたもの、美味しかったな)

▼【昼食】しんま

●しんまだがら、呼んで来い。(昼食だから呼んで来い)

▼【漬け物】おごご

●おごご、んまがった。(漬け物美味しかった)

●お茶飲みは、おごごさ限るな。(お茶を飲む時は、漬け物に限るな)

▼【どころてん】てんよ

●今日は暑いっから、てんよ食うべ。(今日は暑いから、どころてんを食べよう)

▼【煮小豆】にずぶすい

●今日寒いがら、にずぶすい作っか。(今日は寒いから、煮小豆を作ろうか)

▼【ニシン】かど

●晚げのおかず、今日はかどにすっぺ。(夕飯のおかずは、今日はニシンにしよう)

●かどは煮るより、焼いた方がんめえんだ。(ニシンは煮るよりも焼いた方が美味しいんだ)

8. 住居・建築・土地利用

▼【糠】さぐず

●このさぐずで大根漬けと味いぐなと。(この糠で大根漬けをすると、味が良くなるよ)

▼【ハゼ】かつか

●お正月の雑煮のだしにすっから、かつかどってきてける。(お正月の雑煮のだしにするから、ハゼをとってきてくれ)

▼【焼きおにぎり】やぎめすい

●やぎめすい、忘れんなよ。(焼きおにぎり、忘れんなよ)

▼よせ【畦】あぜ

●田んぼのよせ刈りで疲れたや。(田んぼの畦の草刈りして疲れた)

●螢見ののに、たんぼのよせ歩いたら田んぼにはまった。(螢を見るのに田んぼの畦を歩いたら、田んぼの中にはまった)

▼【(あなたの)家】あんだい

●あんだいは、どこにあんの。(あなたの家はどこにあるの)

●あんだいさ歩いて行くがら。(あなたの家に歩いて行くから)

▼【(私の)家】おらい

●おらいさ遊びさございん。お茶っこ飲むがら。(私の家に遊びに来なさい。お茶を飲むから)

▼【一戸建て】ころどや

●息子働くようになったおかげで、ころどやで暮らすことができたのっしや。(息子が働くようになったおかげで、一戸建て

で暮らすことができたの)

▼【田舎】せいこ

●今年こそお盆は、せいこさ帰っからな。(今年のお盆休みは、舎に帰るからな)

●おれ、せいこ育ちだがらくわがんね。(私は、田舎の育ちだからよくわからない)

▼【入口の戸】とぶぐづ

●とぶぐづ、閉めできたか。(入口の戸を閉めてきたか)

▼【囲炉裏】ろばた
いろり

●ろばたで餅を焼いたっちゃ。(囲炉裏で餅を焼いたね)

▼【表通り】けいど

●けいどのおばさんさ用足しに行っこ。(表通りのおばさんの所に用足しに行っこ)

▼【玄関】とのぐづ

●とのぐづさっつ立てねえで、中さ入っせ。(玄関に立っないで中に入りなさい)

▼【下座】きずり

●きずりさ座んのは、嫁ごのあんだだ。(下座に座るのは、嫁のあなただ)

●母ちゃんの席、きずりだっつ昔教えてもらっただけな。(お母さんの席は下座だっつ昔教えてもらっただ)

▼【神社や寺】によんによさん

●一日だから、によんによさんに行っってくる。(一日だから、神社や寺に行っつ神仏に祈っってくる)

▼【流し】はすり ※「はしり」とも言う。

●食っつ茶碗は、はすりさ持っつ行け。(食べ終わっつ茶碗は台所の流しに持っつ行け)

●昔のはすりだから、暗くてな。(昔の流しだから、暗くてな)

▼【庭】ろうず

● ろうずの花、早く咲くどいいね。(庭の花、早く咲くどいいね)

▼【(家の前)庭】まにわ

● あんだいのまにわ、いっぺえ花咲いでで美しいね。(あなたの家の前の庭に花がいっぱい咲いていて美しいね)

▼【墓】らんば

● そろそろお盆になっから、らんば掃除に行かんといがんな。(そろそろお盆だから、お墓を掃除しに行かないといけない)

▼【畑の土寄せ】さぐりきり

● そろそろさぐりきりしねえど、だめでねえが。(そろそろ畑の土寄せをしないとだめではないか)

▼【風呂】しっしょ ※「すっしょ」とも言う。

● しっしょさ行くぞ。ちよんてぬぐい、持ってこい。(風呂に行くぞ。風呂用の手拭を持って来い)

▼【風呂の育児語】じゃっば

● じゃっばさ入えっぺ。(お風呂に入ろう)

▼【塀】へいがさ

● あそこの家のへいがさ、いづも美しい花、咲いてるね。(あそこの家の塀、いつも美しい花が咲いているね)

▼【便所】かんじよ

● かんじよ、掃除すつと美しいくなるんだ。(便所を掃除すると、美しくなるんだそうだ)

▼【棟】ぐす

● 地震で、ぐす壊れてすいまった。(地震で棟が壊れてしまった)

▼【屋敷周りに巡らせた林】えぐね

● えぐねあつから、風あたんねえんだなや。(屋敷のまわりになぐねがあるから、風よけになって風があたらないんだな)

▼【床板】いだめ

● いだめ美しいぐ拭げよ。(床板は美しく拭けよ)

9. 日用品・金銭・祭事品

▼【赤ん坊を入れる藁の籠】えんつこ ※「えんづこ」とも言う。

●仕事すつから太郎ばえんつこさ入れでおけ。(仕事をすつから太郎を赤ん坊を入れる藁の籠に入れておけ)

▼【薄い畳】うすべり

●この畳切れてすいまったがら、とりあえずうすべり敷いておくつちや。(この畳、切れてしまったがら、とりあえず薄い畳を敷いておこう)

▼【おがくず】きつくず

●きつくず払ってからへれ。(おがくずをは払ってから入れ)

▼【金槌】せえづづ

●釘出でつから、せえづづ持ってきてける。(釘が出るから、金槌持ってきてくれ)

●釘出てあぶねえがら、せえづづでぶつけてける。(釘が出て危ないから、金槌で打ってくれ)

▼【ガラスの破片】びんどろかけ

●びんどろかけ拾っておけ。危ねえがら。(ガラスの破片、拾っておけ。危ないから)

▼【急須】きびちよ ※「きびちよ」とも言う。

●きびちよもつてこお。お茶このむがら。(急須を持って来い。お茶を飲むから)

▼【こけし】きぼっこ

●いろんな形のきぼっこあるのね。めんこいこど。(色々な形のこけしがあるのね。可愛いことだ)

▼【ゴミ】ごんど

●ごんど、ごんどん燃やせ。(ゴミ、ごんどん燃やせ)

●ごんど集めておげ。たい肥にすつから。(ゴミを集めておげ。たい肥にするから)

▼【獅子舞】すすばつく

●すすばつく、おっきな口開けつとおつかねえなあ。(獅子舞が

大きな口を開けると怖いな)

▼【注連縄】おどすなわ

●正月来っから、おどすなわ、用意すねばねえな。(正月が来るから、注連縄を用意しなければならぬ)

▼【しゃもじ】へら

●へらでおまんまよそってけさいん。(しゃもじでご飯をよそってください)

▼【植物を移植するために使うへら】しゃもろ

●畑さ行っから、しゃもろ持ってこい。(畑に行くから、植物の植え替え用のへらを持って来い)

▼【人肥】だら

●昔は畑さだらかけたもんだ。(昔は畑に人肥をかけたもんだ)

▼【石油缶・灯油缶】らんぶかん

●らんぶかん、からっぽだから配達してもらえ。(石油缶が空っ

ぽだから配達してもらえ)

▼【洗濯用の盥】せんたくばつ

●靴下洗うから、せんたくばつ持ってこい。(靴下を洗うから、洗濯用の盥を持って来い)

▼【つり銭】けえずで

●お菓子買ったら、けえずで忘ねでもらってがいな。(お菓子買ったら、釣銭を忘れないでもらってちょうだい)

▼【紐】ひぼ

●古新聞、ひぼで結んでまどめでおげ。(古新聞、紐で結んでまどめでおげ)

●着物着せっから、ひぼ持ってこい。(着物を着せるから、紐を持って来い)

▼【紐の固い結び目】いぼこ

●何だ。いぼこに結んですまっただのか。もう一回ちゃんと結び直せ。(紐を固く結んでしまったな。もう一回ちゃんと結び直せ)

【注】「できもの」の意味でも使う。

● 額の上さいぼできたど。(額の上にてきものが出来たと)

▼【風呂用の手拭】ちよんてぬげ

● ちよんてぬげ、汚ねぐなつたがら、新すいのけさいん。(風呂用の手拭が汚くなつたから、新しいのください)

▼【へそくり】ほまつ

● ほまつ貯めんのも、容易なことてねえな。(へそくりを貯めるのも、容易なことではないな)

▼【包丁】ほいちよ

● リンゴむっから、ほいじよ持つてこい。(リンゴを剥くから、包丁を持つて来い)

▼【まな板】きりばん

● きりばんねえど、野菜切らんねえな。(まな板がないと、野菜を切ることができない)

▼【丸太棒】どんころ

● どんころ危ねえがら、どげでおけ。(丸太棒は危ないから、どけておけ)

● どんころくべだから、いつまでも火がつかねえ。(丸太棒をくべたから、いつまでも火がつかない)

▼【木片】きっこばず

● きっこばず集めてこい。風呂焚きに使うがら。(木片を集めてこい。風呂を焚くのに使うから)

▼【焼き網】わだすがね

● 魚焼くがら、わだすがね持つてこう。(魚を焼くから、焼き網を持つて来い)

▼【藁で作ったたわし】もだら

● 鍋釜洗うとき、もだらでござん洗ったもんだ。(鍋や鎌を洗う時、藁で作ったたわしでござん洗ったものだ)

▼【藁を打つ木槌】つずぼ

● 葉打つすっから、つずば用意しろ。(葉打ちをするから、木槌を用意しろ)

10. 位置・方向・部分

▼【裏返し】けっちゃ

● 服ばけっちゃんに着てる。やんだごだ。(服を裏返しに着ている。

嫌なことだ)

● あんただけ、けっちゃんになってつと。(あなただけ、裏返しになってるよ)

▼【片方】かだひだ

● おれの足袋のかだひだ、どこさやった。(私の足袋の片方、どこにやった)

▼【片方】かでっぼ

● かでっぼしかねえぞ、もうかでっぼどこか探せ。(片方しかないぞ。もう片方がどこか探せ)

● かでっぼの手袋、どこさがいがった。(片方の手袋、どこに行かった)

▼【最後・びり】けっつ 注 「臀部」の意味でも使う。

● ああ、おら徒競走でけっつになつてすいまったわ。(私は徒競

走でビリになってしまった)

▼【最後・ビリ】どっぺ

●おら運動会でどっぺになったわや。(運動会でビリになった)

▼【先端】さきべ

●棹のさきべさ蜻蛉止まったよ。(棹の先端に蜻蛉が止まったよ)

●親指のさきべ傷ついて痛えごだ。(親指の先端が傷ついて痛い)

▼【隅】すまこ ※「すまっこ」とも言う。

●あそこのすまっこさ財布置いどいだがら。(あそこの隅に財布を置いておいたから)

▼【端】はすべ

●そっちのはすべ、持ってこ。(そっちの端を持って来い)

▼【横向き】よごっちょ

●写真、よごっちょ向いで写ってますまったわ。(写真に横向きで移ってしまった)

11. 時間・時期・季節・行事

▼【明後日】やなあさって

●やなあさって行くがらね。(明後日に行くがらね)

▼【明後日の翌日】やなやなあさって

●やなやなあさって手術なんだどっしや。(明後日の翌日に手術なんだそうだ)

●やなやなあさってだが、わすれんな。(明後日の翌日だが、忘れるなよ)

▼【朝の間】あさま

●その仕事、あさまのうちに終わらせておけ。(その仕事は朝の間に終わらせておけ)

▼【一日・一日中】ひして

●お茶飲みにひして過ぎだ。(一日中、お茶を飲んで過ぎた)

●あの人来ると、ひしてお茶飲みだ。(あの人来ると、一日中、お茶飲みだ)

▼【いつでも（時間を定めない）】「いったりかったり

●いったりかったり食ってだめだ。（いつでも食べてばかりいるのはだめだ）

▼【いつも（間をあげずに）】「しっちり

●あそこの家さ何がいいのが、しっちり来てんだね。（何が良いのか、あそこの家にいつも来てるんだね）

▼【いつも（頻繁に）】「とろべづ

●銭貸せ、銭貸せと、とろべづ来るんだ。（金を貸せ、金を貸せといつも来るんだ）

▼【いつも（その都度）】「ばんきり

●ばんきりおかずもらって、申す訳わけねえごだ。（いつもおかずをもらって、申し訳ないごだ）

▼【いつの間に】「いづのこまに

●いづのこまに日がくれてしまった。（いつの間にか日が暮れてしまった）

▼【「昨日」おどでな

●おどでなの話、なじよになった。（「昨日の話、どうなった）

▼【「昨日」きのな

●きのなの雪、すごかったね。（昨日の雪、すごかったね）

▼【「歳末・年の瀬」おっつめ↓「おっつめ」について」を参照

●今年も、おっつめになったな。（今年も年の瀬になったな）

▼【「昨夜」ゆんべ

●ゆんべは、なんだが眠れながった。（昨夜はなんだか眠れなかった）

▼【「正月一四日または一五日の左義長」ちゃせご↓「『ちゃせご』について」を参照

●わらすこたつ、ちゃせごに来っからお菓子準備しておけ。（子どもたちがちゃせごにくるから、お菓子を準備しておけ）

▼【初秋】あきさか

●あきさかだなあ。あけずいるっちゃ。(初秋だな。蜻蛉がいる)

▼【そのうちに】いまずに

●いまずにおやつ食うべがら。(そのうちにおやつを食べるだらうから)

▼【毎回毎回】まいたりまいたり

●まいたりまいたり、旅行に行がねくともいいんでねえが。(毎回毎回、旅行に行かなくてもいいのではないか)

▼【夕方・今晚】ばんげ

●ばんげ集まっから来てけさいん。(今晚、集まるから来て下さい)

▼【来年の春】れいはる

●れいはる、嫁に行くんだどっしゃ。(来年の春に嫁に行くんだそうだ)

12. 程度・数量・回数

▼【一度に背負える分】ひとしよい

●ひとしよい背負ってどこさ行くのっしゃ。(一度に背負える分で、どこに行くの)

●これくれえでひとしよになっぺ。(これくらいで一度に背負えるだらう)

●手に持てねえ荷物は、ひとしよい分だけだ。(手に持てない荷物は、一度に背負える分だけだ)

▼【全部】そぐつと ※「そぐつと」とも言う

●あいや、少すいも残さねえで、そぐつと持ってたんだっちゃ。(少しも残さないで、全部持っていったんだよ)

▼【たくさん】うんと

●いやあ、このお土産、こだにうんともらっていいのすか。(このおみやげを、こんなにたくさんもらって良いのですか)

▼【たくさん】こでっちり

●腹減んねようにや、こでっちりご飯分けてやっからな。(お腹

が空かないように、たくさんご飯を分けてやるからな)

▼【たくさん】ふだ

●あそこの家は何でもふだふだあるんだなや。(あそこの家は何でもたくさんあるんだな)

▼【たくさん・とても】でほど

●いやあ、でほど頭の良い人だごだ。(とても頭の良い人だ)

▼【とても・非常に】いぎなり

●おれさま、いぎなりおっかねかった。(雷がとても怖かった)

▼【とても・非常に】ばかすか

●いやあ、今日は仕事、ばかすかはかどったなや。(仕事が非常にばかどったな)

▼【何回も・何度も】なんけり

●なんけりもお参りする。(何回もお墓参りする)

▼【ほんの少し】ちょべつと

●そこのおごご、ちょべつと取ってけさいん。(そこの漬け物をほんの少し取ってください)

▼【もつと】いまつと

●このお菓子、あんまりめえがら、いまつとけろや。(このお菓子、とても美味しいから、もつとちょうだい)

●銭、いまつと欲しいなあ。(お金がもつと欲しいなあ)

13・人物・親戚関係・人間関係

▼【赤ん坊】おぼこ

● 田中さんちさおぼこ生まれたんだ。 (田中さんの家に赤ん坊が生まれたそうだ)

▼【兄・長男】おやがた

● 頼りになるおやがただ。 (頼りになる長男だぞ)

▼【縁故】えんつり

● おらいどあんだいは、えんつりだよ。 (私の家とあなたの家は縁故関係だよ)

● あそこの息子、えんつり頼って就職すんだ。 (あそこの息子は縁故を頼って就職するんだそうだ)

▼【お母さん】おがちゃん

● おがちゃん、元気がな。 (お母さん、元気かな)

● あんだのおがちゃん、変わりねえが。 (あなたのお母さんは、変わりないか)

▼【お母さん】かっちゃん

● おらいのかっちゃん、どこさ出かけたの。いつもかっちゃん、忙しいひとだがらね。 (お母さん、どこに出かけたの。いつも忙しい人だからね)

▼【おじさん】おんつあま

● 見てみる、おんつあま、かっこいいいべ。 (見てみる、おじさん、かっこいいだろう)

● あの人は、田中さんのおんつあまにあたる人だ。 (あの人は、田中さんのおじさんにあたる人)

▼【おじさん】おんつあん

● おんつあん、どこさ行くのっしや。 (おじさん、どこに行くのか)

● あの人は私のおんつあんですが。 (あの人は私のおじさんです)

▼【(他人の) 夫】だんぼ

● 隣のだんぼ、景気がいいのかな。 (隣の旦那さんは景気が良いのかな)

▼【男ども】やろめら

●あのやろめら、毎晩騒いでるんだ。（あの男ども、毎晩騒いでるんだ）

●やろめら集めてうるせえごだ。（男どもが集まって、うるさいごだ）

▼【男の子】やろっこ ※「やろご」とも言う。

●あのやろっこ、おもしろいやろっこだ。（あの男の子、おもしろい男の子だ）

▼【お兄さん】あんつあん

●あんつあんの言うことは、確かだからな。（お兄さんの言うことは確かだから）

▼【お兄さん】あんにゃ

●困ったごあつたら、あんにゃ頼めばいい。（困ったことがあつたら、お兄さんに頼めばいい）

▼【お姉さん】あんね

●あんね、早くこう、こつただ、こつただ。（お姉さん、早く来て、こつちだ、こつちだ）

●あんねは器用だから小物作り、んめえよね。（お姉さんは器用だから、小物作りがうまいよね）

▼【おばあさん】ばんさま

●あんたんどごばんさま、元気がいい。（あなたの所のおばあさんは、元気がいい）

▼【お前】うな

●うなにはわがんねべ。（お前にはわからないだろう）

▼【お前】ぬさ

●ぬさ、そこで何してんだ。（お前、そこで何をしてるのだ）

▼【家督・長男】いへもづ

●あんだいでもいへもづ産まれていがつたねえ。（あなたの家でも長男が生まれて良かったね）

▼【子ども】わらす

●今、わらすす少なくなったがら寂すいいね。(今、子どもが少なくなつたから寂しいね)

▼【子ども】がきっこ

●がきっここのくせに大人顔負けなことを言う。(子どものかせに大人顔負けのことを言う)

●この頃のがきっこ、さっぱり言うこときかねえね。(この頃の子どもは言うことをきかないね)

▼【(他人の)妻】おがだ

●田中さんのおがだだ。(田中さんの奥さんだ)

▼【(自分の)妻】がが

●おらいのががは、元氣でがす。(私の妻は元氣です)

▼【弟】しゃでっこ

●おれのしゃでっこでがす。(私の弟です)

▼【末っ子】ばつつ ※「ばつつこ」とも言う。

●おらは八人兄弟のばつつこだ。(私は八人兄弟の末っ子だ)

▼【曾祖父母】おっびさん

●おっびさん、元氣すか。(ひいおじいさん、ひいおばあさんは、元氣ですか)

▼【分家】べっか

●べっかさ持って行ってこ。(分家に行ってこい)

▼【娘】あねこ ※「あねっこ」とも言う。

●今日、あねっこ休みだから手伝わせろ。(今日は、娘が休みだから家の手伝いさせろ)

14・人物の性格・態度・身体的特徴・職業・特性

▼【浅はかでおしゃべりな人】しゃがらなす

●あの人、しゃながらすだがらなあ。まだ何にも考えねでしゃべってんだおん。(あの人浅はかでおしゃべりな人だから、何も考えないでおしゃべりするんだ)

▼【浅はかで間が抜けている人】ほでなす

●あの人偉そうにみえっけどや、ほでだすだおんね。(あの人偉そうに見えるけれど、浅はかで間が抜けている)

▼【嘘つき・嘘をつくこと】うそこぎ

●そんなにうそこぎすんでねえど。(そんなに嘘をつくんでないよ)

●あの人、いつもうそこぎなんだから。(あの方は、いつも嘘つきなんだから)

▼【嘘つきな男性】てほやろ

●あの人、いつもでっけえことばり語って、てほやろうだおん。(あの人、いつも大きなことを話して嘘つきだ)

▼【嘘つき・ほらふき】ほらこぎ

●あの人、ほらこぎだがら真に受けてだめだぞ。(あの方は、ほらふきだから、真に受けてはだめだぞ)

●ほらこぎばりしていと、遊んでもらえんなくなっから。(嘘ばかりついていると、遊んでもらえなくなるから)

▼【大食い】まぐれえ

●細い体っこして、まぐれえですが。(細い身体をして、大食いです)

●もらったお菓子、まぐれえすて胸焼けしたや。(もらったお菓子を食べ過ぎて胸焼けがした)

▼【おてんば】じゃば

●あの人、めんこいんだげんど、なんやじゃばだなや。(あの方は、かわいいんだけど、おてんばだ)

▼【金持ち】ふぐすい

●あんだの家、ふぐすいごだや。(あなたの家は金持ちだ)

▼【気が変わりやすい人】きむぎや

● あいづや、さつきどころっと変わって、ほんぬきむぎやだな。
(あいつ先どころっと変わって本当に気が変わりやすいんだ)

▼【気が利く】きはすまる

● あそこの嫁ご、きはすまっと。(あそこの家のお嫁さんは、気が利く)

● あの人は、きはすまる人だっちゃ。(あの人は、気が利く人だ)

▼【気がふれている人】すんけたがり

● ああ、まだでっけな声出すて、すんけたがりみでえだなや。(ああ、また大きな声を出して、気がふれている人みたいだ)

▼【気性がげしい】きがね

● きがねことばり言って、ほんと困ったなや。(気性の激しさがわかることばかり言って、本当に困った)

● あの娘っこ、ずいぶん、きがねごだ。(あの娘はずいぶん気性がげしいことだ)

▼【気品がある】おぐれえ

● あの俳優さん、おぐれえごだ。(あの俳優さんは、気品があることだ)

● あの人の振舞、おぐれえなあ。(あの人の振舞は気品があるな)

▼【気難しい】いんびん ※「えんびん」とも言う。

● 田中さんはいんびんだから、話すの疲れるんだ。(田中さんは、気難しいから、おしゃべりするのに疲れるんだ)

● あの人の、いんびんたがりだっちゃね。(あの人は、気難しい人だね)

▼【器量が悪い・みっともない】みだぐなす ※悪態にも使う

● あのわらす、鼻ば垂らすてて、みだぐなすごだ。(あの子ども、鼻を垂らしてみっともないことだ)

● ありがたいの一言も言わねえ、あの女ご、みだぐなすだなや。
(ありがたいの一言も言わない。あの女は態度が悪い)

▼【食い意地が張っている人】いやすこ

●あの人はいやすこだがら、何でも食うんだ。(あの方は食り食う人だから、何でも食べるんだ)

▼【口が軽い】あざこねえ

●あの人さ言ってはだめだど。あざこねえんだがら。(あの人に言うのはだめだぞ。口が軽いんだから)

▼【けちな人】いすびり

●あの人、ほんとにいすびりだっちゃね。がめついごだ。(あの人、本当にけちだからね、がめついごだ)

▼【けちな人】すびたれ ※「すびたり」とも言う。

●すびたりおやじ、少しぐらい、おごったら良いっちゃねえ。(けちなおじさん、少しぐらいおごったら良いのにな)

●あの人、すびたれだから募金に一円だつて出さねえよ。(あの人、けちだから募金に一円も出さないよ)

▼【けちな人】すわっぴり

●あの人、すわっぴりでやんだなや。一緒に食いさ行がんね。(あ

の人はけちで嫌だな。一緒に食べに行けない)

▼【節約のために】けちな人】までかす

●あの人までかすだおんね。すんしょ残すべおん。(あの人、節約のためにけちな人だ。財産を残すだろう)

▼【仮病などで怠ける人】たれか

●あの人、ねくさってばりいて、たれかだごだね。ほんにやんだぐなつと。(あの方は怠ける人だね。本当に嫌になる)

▼【強情な人】おんつん

●あの人、おんつんだがら、友達いねえべおん。(強情な人だから、友達がいないだろう)

▼【神経質な人】けんのんたがり

●何回も手洗つて、まあ、けんのんたがりだごだ。(何回も手を洗つて、まあ神経質な人だ)

▼【ずばら】ずばら

●あの人、ずべらだから何も仕事を頼まんねでば。(あの方はずぼらだから、何も仕事を頼むことができない)

▼【短気】たんばら

●すぐたんばら起こすんだがら。(すぐ短気を起こすんだがら)

▼【慎ましい】まがすい

●あの人、まがすいから、あんまり誘うな。(あの方は、慎ましいから、あまり誘うな)

▼【でたらめを言う人】らっぱふぎ

●あの人、らっぱふぎだがらや、本気にすつとだめだど。(あの人、でたらめを言うひとだから、本気にするとだめだ)

▼【とんでもない人】ずらもの

●あいづな、ずらものだから信用ねえべ。(あいづはな、とんでもない人間だから信用がないだろう)

▼【急げもの】かばねやみ

●あの人、ほんにかばねやみだな。何もしねんだおんな。(あの人、本当に急げ者だな。何もしないんだものな)

▼【急げもの】なまだら

●あの人さ何か頼んでも、なまだらばりしてや、まあずなかなか出てこねえんだぞ。(あの人に何か頼んでも、急げてばかりで、なかなか出てこないんです)

▼【急げもの】やみぞう

●あいづはやみぞうでや、はっぱり動かねえ。(あいづは急げ者でさっぱり動かない)

▼【抜け目ない】すかさね

●みんな一つずつなのに、二つ持って行ったからすかさね。(みんなは一つずつなのに、二つ持って行ったから抜け目ない)

▼【能無しなこと】のつつお

●のつつおばりついで、この馬鹿野郎。(能無しなことばかりして、この馬鹿野郎)

▼【話ぐどい人】ねっこほり

●あの人、ねっこほりだから、話すのにくたびれた。(あの人、話ぐどいから、おしゃべりするのにくたびれた)

▼【左利き】ひだりこぎ

●ひだりこぎで、よく字書けっこだ。(利き手が左手でよく字が書けることだ)

●ひだりこぎだから、少しいずいんだ。(左利きだから、少し違和感があるんだ)

▼【ひねくれること】いびきづ

●そんなにいびきづすねで、やってけるや。(そんなにひねくれていないで、やってくれ)

▼【太った人】ずぐだま

●ずぐだまでも人よりよく動くね。(太っていても人よりよく動くね)

▼【屁理屈をこねる人】りぐつがたり

●あの人やあ、集まるたんびにりぐつがたりってなんや。(あの人集まるたびに屁理屈をこねるんだ)

▼【物もらい】ほいど

●ほいど、あつつこつつ回って歩いてっど。(物もらいがあちらこちら回って歩いてる)

▼【役立たず】ずぐだれ

●このずぐだれ、まだ母ちゃんにごっしゃがったわ。(この役立たず、またお母さんに怒られた)

▼【役立たず】たがらもの

●あの子の娘やあ、たがらものなんだごっしゃ。(あの子の娘は役立たずなんだそう)

●このたがらもの、早くかせがえ。(この役立たず、早く働け)

▼【痩せている人・痩せている様】がんだれ

●おまま食べねえがら、がんだれた。(ご飯を食べないから痩

せている)

▼【欲が深い】よがこい

●何でも欲すがつて、よがこいごだから。(何でも欲しがって欲が深いんだから)

●あの人は本当によがこい人だ。(あの人は本当に欲が深い人だ)

▼【欲張り】よくたがり

●あの人やあ、よくたがりだから、ここさあるもの全部持ってたんだどわ。(あの人は、欲張りだからここにあるものを全部持っていったんだそうだ)

▼【酔っ払い・酔いどれ】よつきり ※「よつきる(酔っ払う)」

●隣のとうちゃん、まだよつきて来た。(隣の家の父親は、また酔っ払ってきた)

▼【弱い人】あおたれ

●あんだ、何があつたのか。あおつたれた顔してつと。(何かあつたのか。具合が悪そうな弱つた顔して)

●「あいづ、あんばい悪くなつただど」「あいづは、あおつたれだがらな」(「あいづ、具合が悪くなつたそうだ」「あいつは弱つしいからな」)

▼【乱暴者】さかず

●まあず、あのやろつこ、さかずだから声かけんなよ。(あの男の子、乱暴者だから声をかけるなよ)

▼【利己主義】わめぎり

●あの人、わめぎりでねえ、すかねごだ。自分だけいければええんだおん。(あの人は、利己主義で好きではない。自分だけ良ければ良いんだ)

▼【獵師】てっぼぶづ

●おらのあんつあん、てっぼぶづだ。(私の兄は獵師だ)

▼【料理人】めんばん

●あの人、めんばんさんなんだよ。(あの人、料理人だな)

15・形状・サイズ

▼【大きい】でっけえ

●こんなでっけえ魚釣ったの見たごどねえ。(こんな大きい魚を釣ったの見たことがない)

▼【尻が出でいる状態】たなけっつ

●たなけっつすて、畑仕事がんばってんな。(腰をしっかり曲げてお尻を出張らせて、畑仕事、頑張ってるな)

●立派なたなけっつすて、いやいや姿良いごだ。(立派に尻が出でいて、スタイルが良いごだ)

▼【小さい】ちゃっこい

●茄子でも胡瓜でも、ちゃっこいの取っとんめえだがら。(茄子でも胡瓜でも、小さいのを獲ると美味しいから)

▼【小さい】めっちゃこい

●めっちゃこい猫だごだ。(小さい猫だ)

●この鍵、めっちゃこいがらなくすんでねえど。(この鍵、小さいからなくすんでないよ)

▼【鼻が低いこと】はなびちょ ※「はなべちょ」とも言う。

●あの娘よう、めんこいげんども、惜しいごどにはなべちょだな。(あの娘、可愛いけれど、惜しいことに鼻が低い)

●おらいの孫、はなびちょだけんども、めんこいんだど。(私の孫は鼻が低いけれども、可愛いんだよ)

▼【低くなっている状態】くぼい

●この道路、くぼい所あっから、氣つける。(この道路は低いところがあるから、氣をつける)

▼【平たい】べったらこい ※「べったらい」とも言う。

●何だ、この重ね餅、べったらいごど。(なんだ、この重ね餅、平たいごだ)

▼【細長い】ながっびろい

●昔の学校は、廊下がながっびろかったおんね。(昔の学校は廊下が細長かったものね)

▼【眉毛や目が下がっている顔のこと】すっぺさがり

●あの娘、めんこいだげんども、すっぺさがりだおんね。(あの娘は可愛いけれど、目や眉毛が下がっているね)

16・ 様態・態度

▼【足が地についでいない様】あふらとふら

●おらいの息子、仕事もすねで、あふらとふらすてっから、なじよしたらよかんべな。(私の家の息子は仕事をしないで、地に足がついていないようだから、どうすれば良いのだろうか)

▼【忙しい様】てたばた

●人寄せあつたから、てたばたしてとっても疲れた。(人寄せがあつたから、忙しくてとても疲れた)

▼【急いでいる様】わらわら

●道草くわねでわらわら行ってこいよ。(道草をくわないで、急いで行ってこいよ)

▼【落ち着きがない様】ちしゃちしゃする

●あのわらす、教室の中でちしゃちしゃして。(あの子、教室の中で落ち着きがない)

●あのわらすこ、ちしゃちしゃすつから危ねえ。よく見てけさいよ。(あの子、落ち着きがなくて危ないから、よく見てください)

いよ)

▼【輝く様】てろてろ

●こいづ、てろてろに磨いでおげよ。(これを輝くように磨いておげよ)

▼【代わる代わる】うったげ

●誰に見せるわけでもねえのに、あの人、うったげに服着てっちなや。(誰に見せるわけでもないのに、あの方は代わる代わる服を着ているね)

▼【きちんと】きかっと

●あの人はいっつもきかっと仕事するんだよね。(あの方は、いっつもきちんと仕事するんだよね)

▼【ぎっしりと】びつと

●荷物ばびつとつめると、つぶれっから気つける。(荷物をぎっしりと詰めると、つぶれるから気をつける)

▼【急に】ぐいら

●ぐいら立って、どこさ行くのっしや。(急に立って、どこかに行くのか)

●ぐいら眩暈がしてしまったのっしや。(急に眩暈がしてきた)

▼【ぐずぐずしている様】ぐずらっしやら

●ぐずらっしやらしねえで早ぐしろ。(ぐずぐずしていないで早くしろ)

▼【ぐずぐず】ぐずらもずら

●あのわらす、ぐずらもずらして仕事はがどんね。(あの子、ぐずぐずして仕事はかどらない)

▼【元気がない様】べそっと

●何すただか。おらいのばあさん、べそっとなってや。(どうしたんだか、私の祖母は元気がなくなった)

▼【心が浮き立つ様】ほぎほぎ

●ほぎほぎして、友達と湯っこさ行ったのっしや。(心が浮き立

って友達と温泉に行った)

▼【(宴会や集会で)最後まで居残ること】すまぶり

●いっつもすまぶりしてんだがら。あんまり、かまうなよ。(いっつも最後まで居残るから、あまりかまうなよ)

▼【先を争う様】ばやくら

●兄弟なんだがらばやくらしてねえで、ちゃんと並んで食え。(兄弟で先を争うようにしないで、ちゃんと並んで食べる)

▼【さっばりと】さっばど

●おかずさっばど綺麗に食ってけらった。嬉しいごだ。(おかずをさっばりと綺麗に食べてくれた。嬉しい)

▼【精一杯な様】しっちり

●畑の草むしり、しっちりすたげっと、終わんねえなや。(畑の草むしり、精一杯したけれど終わらない)

▼【だらしない様】でれっと

●旦那は横座ででれっとしでる。(旦那は横座でだらしくしている)

▼【散らかっている様】とどらねえ

●家の中、とどらねえくて、人呼べねえんだ。(家の中が散らかっていて、人を呼べない)

▼【丁寧に扱う様・儉約する様子】まで

●新しい靴、買ってもらったばかりだから、丁寧に使えよ。(新しい靴は、買ってもらったばかりだから、丁寧に使えよ)

▼【手のつけようがない様子】めったにごった

●地震で部屋中めったにごったで手がつけらんねえ。(地震で部屋の中が手のつけようがないくらいの有様だ)

▼【手ぶらの状態】からみ

●あのおんつあん、いっつもからみで来んだど。(あのおじさん、いつも手ぶらで来るんだそうだ)

▼【手ぶらの状態】てんぼろげ

●あの人、いつつもてんぼろげで来るんだから。(あの人はいつても手ぶらで来るんだから)

▼【出来そこない】でそぐね *例文のみ音声あり

●天ぶら揚げたら、でそぐねで売り物になんねえ。(天ぶらを揚げたら、出来そこないで売り物にならない)

▼【どんちゃんかな様】あっぺとっぺ

●あっぺとっぺで訳わかんねえ。(頓珍漢で訳がわからない)

▼【のろのろしている様】のったくった

●のったくった歩ぐな、さっさと歩け。(のろのろ歩くな、さっさと歩け)

▼【端数であること・不揃いな様】はんくた

●このランプ、はんくたで遊ばんねえなあ。(このランプは、不揃いで遊べないな)

▼【一回りすること】ぐりっと

●回覧板だから、ぐりっとまわせよ。(回覧板だから一回りするよりに回せよ)

●おぼこ、眠たぐで泣いてっから、ぐりっと歩いてくっから。(赤ん坊が眠たくて泣いているから、一回りて歩いてくるから)

▼【不器用なこと】てどくされ

●おら、手仕事ほだにこまごいの、てどくされでだめなんだ。(私
は手仕事で細かいのは、不器用でだめなんだ)

▼【別々に】てんでに

●喧嘩すねえように、てんでに分けるよ。(喧嘩しないように別々に分けるよ)

▼【ぼんやりしている様子】のへっと

●のへっとすねで、しゃきっとすてせ。(ぼんやりしていないで、しゃきっとしなさい)

▼【ぼんやり】うがっと(して)

●うがっとして、財布忘れてきた。(ぼんやりしていて、財布を忘れてきた)

▼【満足に】ろくたま

●ろくたま仕事もしないで遊んでばかりいるんだがら。(満足に仕事もしないで遊んでばかりいるんだがら)

▼【醜い】めぐせ

●あの化粧、めぐせごだ。(あの化粧は醜い)

▼【おやみやたら】ただむしょ

●あんなにあった大根、ただむしょけでやったんだっちゃわ。(あんなにあった大根をおやみやたらに人にあげたんだね)

▼【もたもたして遅い様】わさくさ

●朝の忙しい時、わさくさして邪魔だごだ。(朝の忙しい時に、もたもたして遅い邪魔なことだ)

▼【乱暴な様】むで

●仔っこ犬、生まれたばかりだがら、むでにすんなよ。(仔犬が生まれたばかりだから、乱暴にするなよ)

▼【立派な様】りきつとした

●いやあ、あそこの家の息子は、りきつとした青年だな。(あそこの家の息子は立派な青年だな)

▼【わざと】やくさら

●あの人、耳聞こえねえがら、やくさら大声で言ってやった。(あの人は耳が聞こえないから、わざと大声で言ってやった)

17・味覚・嗅覚・触感

▼【美味しい】んめえ

●このお菓子、んめえごだ。どこで買った。(このお菓子は美味しい。どこで買った)

●今日のおかず、んめえごったなや。(今日のおかず、美味しかった)

▼【塩辛い】しょっぺえ

●かあちゃん、この味噌汁、しょっぺえごだ。(お母さん、この味噌汁、しょっぱい)

▼【きな臭い】ひなくせえ

●何か燃えてんでねえの。ひなくせえど。(何か燃えてるのではないの。きな臭いぞ)

▼【焦げ臭い】いぶくせえ

●何だべ、いぶくせえごだ。どっか燃えてんでねえのすか。(何だろう、焦げ臭いことだ。どこか燃えてるのではないですか)

▼【硬い】しっかだこい

●いやあ、この大根漬けやあ、しっかだこくて噛み切らねえんだ。(大根漬けが硬くて噛み切れないんだ)

▼【硬い】すなこい

●この沢庵、すなこくてくわんねえな。(この沢庵は硬くて噛み切れないな)

▼【(ご飯が)硬い】こわっぱすい

●こわっぱすいおままが好きだ。(固めのご飯が好きだ)

▼【しっとりこない・違和感がある】いずい

●おら、いづもの席でねえど、いずいんだ。(いつもの席でないど、違和感がある)

▼【湿っぽい】やばっつ

●いやあ、あの赤ん坊、やばっつくて泣ぐからな、早くおすいめ替える。(あの赤ん坊、湿っぽいと泣くからな、早くおしめを取り替える)

18・感情・評価

▼【冷たい】しゃっこい

●この水、しゃっこくてんめえんなや。(この水、冷たくて美味しいな)

▼【冷たい】つぶてえ

●この水、つぶてえごだ。(この水は冷たい)

▼【やわらかい】やっこい

●ばんつあんのご飯、やっこくしてけるよ。(おばあさんのご飯は、やわらかくしてあげてよ)

▼【いい加減なこと】おつぐれ

●あの人、会合に行っても、おつぐればかり言うがら話なんかまどまんねんだ。(あの人、会合に行っても、いい加減なことばかり言うから、話がまどまらないんだ)

▼【うるさい・やかましい】しづね ※「しえづね」とも言う。

●わらす達、家のうちで騒いで、しづねごだ。(子どもたちが家の中で騒いで、うるさい)

▼【(非常に)うるさい・やかましい】いげしづね

●なんだって、おらいの孫たづ、いげしづねえごだ。(私の孫たちは非常にやかましい)

▼【おかしい】おがつつね

●なんだって、おがつつねえんだ。あはは。(おかしいね、あはは)

●その恰好、おがつつねえなや。(その恰好、おかしいね)

▼【惜しい・もったいない】いただきます

●その着物、そんなにいただけますいのが。(その着物、そんなに惜しいのか)

▼【恐ろしい・怖い】おっかねえ

●大きな犬に吠えられて、おっかねえがった。(大きな犬に吠えられて、恐ろしかった)

●夕べ、おっかねえ夢見たんだよな。(夕べ、怖い夢を見たんだよな)

▼【驚く】どでん

●後ろから大きな声かけられ、どでんすたあ。(後ろから大きな声をかけられて、驚いた)

▼【可愛い】えらすこい

●あの赤ん坊、えらすこいなや。(あの赤ん坊、可愛いな)

●あのえらすこいの、あんだの赤ん坊だって。(あら、可愛い子だ。あなたの赤ん坊だって)

▼【可愛い】めぐい ※「めんこい」とも言う。

●おらの孫くれえ、めぐいのいねえなや。(私の家の孫くらい、可愛いものはいないな)

▼【かわいそう】もぞこい

●苦勞ばかり続いて、なんてもぞこいごだな。(苦勞ばかり続いて、かわいそうだな)

▼【感心しない】でがさねえ

●なんだべや。でがさねえごだ。(どうだろう。感心しないことだ)

▼【気になる】ゆがすい

●遠くに行った娘やあ、何しているんだが、心配でおらゆがすいなやあ。(遠くに行った娘は何をしているんだか、私は気になるなあ)

▼【寂しい】とぜん

●誰もいねえくて、おらとぜんで寝らんねかった。(誰もいない)

と、寂しくて眠れなかった)

▼【上手な様】じよんた

●あいや、あんだ絵を描くの、じよんだごだ。(あなたは絵を描くのが上手だ)

▼【心配】すんべ

●何もすんべいらねえがら、待っててけさいん。(何も心配はいらないから、待っててください)

▼【好かない】えげすかね

●なんさでも文句言うがら、まずえげすかねごだ。(何回でも文句を言うから、好かない)

▼【たやすい】じよさねえ

●この仕事をするのは、じよさねえな。(この仕事をするのは、たやすいな)

●じよさねぐれえ早く出来た。(たやすいくらい早く出来た)

▼【たやすい・簡単だ】やすこい

●この計算、やすこいなや。(この計算はたやすいな)

▼【どんでもない】らずもねえ

●うっかりすてらずもねえごと、すてすまった。(うっかりしてどんでもないことをしてしまった)

▼【恥ずかしい】おしよすい

●おしよすいがら人前さ出たぐねえ。(恥ずかしいから人前に出たくない)

▼【腹が立つ】ごせつばらやげる

●あの人、何すてんだが、この忙しいのに。ごせつばらやげる。(あの人は何をしてるんだか、この忙しいのに。腹が立つ)

▼【本気】ほんこ

●そんなごとと言って、ほんこが。(そんなこと言って、本気か)

●ほんこにやればもっとできるんだよ。(本気でやればもっとで

きるんだよ)

▼【まぶしい】まつぼい

●おでんとさん、あだってまつぼいごだ。(太陽があたってまぶしい)

▼【やるせない】やっしやね

●この頃、力入らなくてやっしえねえんだな。(この頃、力がはいらなくてやるせない)

▼【容易でない】むせえ

●畑の草取り、むせえごだなや。(畑の草取りは、容易でない)

▼【楽でない】ゆるぐねえ

●頂上まで登るのは、ゆるぐねえ。(頂上まで登るのは楽でない)

●この仕事、ゆるぐねえなや。こええごだ。(この仕事は楽ではない。疲れた)

▼【煩わしい】ずんけねえ

●年とつとわ、何すんのもずんけねえな。(年をとると、何をするのも煩わしい)

19・発言・発話に関わる行為・活動

▼【暗記】そらよみ

- 全部そらよみしたんだ。偉いぞ。(全部暗記したんだそう
だ。偉いぞ)

▼【言い返せないこと】おじよもす

- いやあ、あんたの話にはおじよもすいました。いやいや、かなわねえ。おじよもすいた。(あなたの話には言い返せません。いやいや、かなわねえ。降参しました)

▼【言いはる】のっばる

- 自分の考えどこまでものっばって通すから。(自分の考えをどこまでも言いはって通すから)

▼【言いふらす】はやす

- あんまり仲がいいどはやされる。(あんまり仲が良いと言いつぶ
らされる)

▼【お世辞】べんちゃら

- あんまりべんちゃら言うな、信用なくすぞ。(あまりお世辞
を言うど、信用をなくすぞ)

- いやいや、次から次ど、よぐべらちゃら、言えっこだなや。(次
から次へと、よくお世辞が言えることだな)

▼【からかう】しずる

- あんまりしずるなど。後で泣ぐがらや。(あんまりからかう
な。後で泣くから)

- しずんのやめるわ、もぞこいべ。(からかうのはやめる。かわ
いそうだろう)

▼【からかう・横から口を出す】ちよっけかける

- 人の話さちよっけばかりかけているんだがら。(人の話に横から
口を出してばかりいるんだがら)

▼【からむ】すっかげる

- なんだべ、お父さん。酒を飲んで女の人さすっかげて、わが
ねよ。(お父さん、酒を飲んで女の人からむのはだめだよ)

▼【口答え】つけずごと

- まあず、あんただらばつけずごとばりして、めんこぐねえごだ。
(あなたは口答えばかりしてかわいくない)

▼【小言】よめえごと

- 姑母様は、よめえごとをしょっちゅう言って、おらやんだごだ。
(姑は小言をしょっちゅう言って、私は嫌だ)

▼【小言を言うこと】ごしょがだり

- よぐごしょがだりばり言ってるばんつあんだなや。(よく小言ばかりを言っている婆さんだな)
- おらいのじいちゃん、いつもごしょかだってから、誰もそばさ行かねべ。(私の家の爺さんは、いつも小言を言っているから、誰もそばに行かないだろう)

▼【しつこく追及すること】ごんぼほり

- まあず、あの人、ごんぼほりばりして自分側の意見ば通すんだおんね。(あ的人是しつこく追及して、自分の意見を通すんだ)

▼【冗談】おどげ

- いやあ、あのおどげ語りで、おもしえごだなや。(あの人ば冗談を話す話す人で、おもしろい)

▼【悪口】ざんぞ

- あの人、ざんぞばかりかだってる。(あの方は、悪口ばかり話している)

20・飲食に関わる行為・活動

▼【食べる】くう

●おれもくうがら寄こせ。(私も食べるから、寄こせ)

▼【食べ終わる】くいげる

●お客さん来っから、早くくいげさい。(お客さんが来るから、早く食べ終わりなさい)

▼【食べさせる】かせる

●こいつ珍すいもんだがら、早くほらみんなさかせる。(これは珍しいものだから、早くほらみんなに食べさせる)

▼【食べられない】かんね

●ああ、もうだめだ。腹くつつくて、もうかんねわ。(もうだめだ。満腹でもう食べられない)

▼【丸飲み】いぎのみ

●いぎのみすつと、ひっかけるよ。(丸呑みすると、喉にひっかけるよ)

21・移動に関わる行為・活動

▼【行き会う】いじゃう

●久すいぶりに内田さんにいじゃうって話したやあ。(久しぶりに内田さんに行き会って、おしゃべりした)

▼【行こう】あばい・あばいん

●一緒にあばいん。買い物さあばいん。家さばかりいねで。(一緒に行こう。買い物に行こう。家にばかりいないで)

▼【追い越す】かっとす

●運動会で、まだ田中にかっとされてしまった。(運動会で、まだ田中に追い越されてしまった)

▼【出かける】ではる

●買物にではってった。(買い物に出かけた)

▼【通り越す】とっこす

●あそこの道をとっこして行ってしまったや。(あそこの道を通り越してしまった)

▼【通り過ぎる】つんぬげる

●ひとつ路地、つんぬげでしまったや。(一つ路地を通り過ぎてしまった)

▼【通り過ぎる】とんのげる

●あや、なんだや、買い物する店、とんのげてすまったわや。(買い物する店を通り過ぎてしまった)

▼【乗る】のさる

●よがったら車さのさってあばいん。(良かったら車で行こう)

▼【ほっつき歩く】ずるべまわる

●何すったんだが。あの人、ずるべまわってるなあ。(何したんだか。あの人ほっつき歩いているな)

▼【曲がる】おずる

●田中さんの家は左におずって右側にあるっちゃ。(田中さんの家は、左に曲がって右側にあるよ)

22・心情・思考に関わる行為・活動

▼【相手に自分の意志を押しつけること】そべっこ

●また、そべっこして。(また甘えて)

▼【苛立っている・怒っている】おせる

●なに気にさわったんだが、おせながらしゃべってるぞ。(何が気にさわったのか、怒りながらしゃべっているぞ)

▼【意地悪】いづくされ

●そんなにいづくされすんな。(そんなに意地悪をするな)

▼【うろたえる】ほろまぐ

●財布落どすてほろまいだんだ。(財布を落としてうろたえたそうだ)

▼【怒る】ごっしゃぐ

●いやあ、おら昨日遅く帰ってや、親父さんからごっしゃがったや。(私は昨日遅く帰って、父親から怒られた)

▼【思い出す】あじだす

● なつかすいこだな。昔のごと、あずだすたあ。(懐かしい)

ことだな。昔のことを思い出す)

● ほういえば、あそごさすまっただのか。あずだすたや。(そう
いえば、あそこに仕舞ったのか。思い出した)

▼【知らない・しかたがない】しゃね

● なあ、母ちゃん、どこさ行ったがしゃねが。(お母さん、どこ
に行ったか知らないか)

● ああ、あいづ、まだちゃっこいながら、しっぺえしたってしゃね
っちな。(あいづはまだ小さいから、失敗しても仕方がない)

▼【心配】すんべ

● 何にもすんべえいらねえがら待っててけさいん。(何も心配い
らないから待っていてください)

▼【すねる】むつける

● むつけてばりいると、仲間さ入れられねど。(すねてばかりい
ると、仲間に入れないよ)

▼【駄々をこねる】ずごねる

● 孫、何が買ってけねどずぐにずごねで困るんですが。(孫は何
か買ってあげないと、すぐに駄々をこねて困るんです)

▼【調子に乗る】おがる

● 黙ってっとおがるから、途中で止めさいん。(黙っていると
調子に乗るから、途中で止めなさい)

▼【調子に乗る】おだづ

● おだづもっこばりしてやめる。(調子に乗ってふざけてばか
りいるのはやめろ)

▼【調子に乗せる・おだてる】おがす

● あんまりおがすな。調子に乗っから。(あんまりおだてるな。
調子に乗るから)

▼【目で分量を量ること】めがん

● めがんでこれは十キロあるな。(目分量では十キロはある)

▼【面倒くさがること】いつかんなぎ

●いつかんなぎすねで、ちゃんとしろな。(面倒くさがらないで、ちゃんとしろ)

▼【持て余す】ししゃます

●畑の草、ぼうぼうと伸びてすまって、一人ではししゃまするな。(畑の草が伸びてしまっって、一人では持て余すな)

●あんまり物あつて、整理すんのししゃまするなや。(あまりにも物があつて、整理するのは持て余すな)

▼【忘れる】わしえる

●何回言つても、わしえるんだがら。(何回言つても、忘れるんだから)

23・労働(家事・農作業・就業)に関わる行為・活動

▼【稲を乾燥させること】はせがけ

●この頃は、はせがけしてつこねえな。(この頃は、稲を乾燥させる方法を実践している所がないね)

▼【乾かす・干す】はしゃがす

●洗濯物はしゃいだがらおつこめ。(洗濯物を乾かしたから取り込め)

▼【仕事がかどらないこと】はがいがね

●畑仕事、はがいがなくて困つてしまつたや。(畑仕事がかどらなくて困つてしまつた)

▼【磨り白を引くこと】するすびぎ

●するすびぎすつから、手伝いさ来てけらいん。(磨り白で引くから、手伝いにきてください)

▼【膳にのせる】つこえる

●ほいだぎでたんねえがら、おひたしばもつこえさい。(それだ

けでは足りないから、おひたしも膳にのせなさい)

▼【雑巾がけ】いだめふぎ

●いだめふぎすつと、ここもつと美すいぐなつと。(雑巾がけをする、ここがもつと美しくなる)

▼【田畑を耕し、畝を作る】うなう

●今日中に田うなえよ。(今日中に田畑を耕して畝を作れよ)

▼【手伝い】おでって

●おでってさ行つてこう。(手伝いに行こう)

▼【夜間灯をともして漁をすること】よどぼし

●今夜、よどぼしして魚とってきたんだ。(今夜、夜間灯をともして魚をとってきたんだ)

▼【夜なべ】よわり

●よわりして、着物縫い上げだ。(夜なべをして着物を縫い上げた)

▼【結い(人手を頼むこと)】よいっこ

●農繁期には、よいっこした。(農繁期には、人手を頼んだ)

●畑仕事よいっこしねど、一人でできねぐなつた。(畑仕事は人手を頼まない、一人でできなくなった)

▼【結い返し(人手を借りること)】よいなす

●昔は、田植え、よいなすすたもんだ。(昔は田植えで人手を借りた)

▼【郵便物を出す】たてる

●葉書たててけるな。(葉書を出してくれ)

●手紙書いたがら、たててけらいん。(手紙を書いたから、出してください)

24・睡眠・休息に関わる行為・活動

▼【居眠り】ねむかけ

●ご飯食った後、なんだかねむかけしたくなるなあ。(ご飯を食べた後は、なんだか居眠りしたくなる)

●車運転、ねむかけしてわがねど。(車の運転で居眠りをしてはだめだぞ)

▼【うたた寝】きどころね

●そんな所できどころねすつと風邪引くど。(そんな所でうたた寝すると風邪を引くよ)

●炬燵に入って、ついきどころねすてすまった。(炬燵に入っ
て、うたた寝してしまった)

●きどころねばりすつから風邪ひくんだど。(うたた寝ばかりし
ているから、風邪を引くんだよ)

▼【腰を降ろすこと】いすかれ

●疲れたべ、ぼうつと立ってねでいすかれ。(疲れたでしょうか
ら立ってないで腰をおろしなさい)

▼【座る】ねまる

●ちよつとあんだ、相談あつから、ここさねまっけてけさいん。(ち
よつと、相談があるから御座に座ってください)

▼【暇つぶし】ひまだれ

●あの人来て、ひまだれして仕事はがいがねがった。(あの人
来て暇つぶしして、仕事はかどらなかつた)

▼【横になる】ながぐなる

●そんなどこさながぐなって、風邪ひくよ。(そんな所で横にな
って、風邪ひくよ)

▼【寄りかかる】おっかがる

●腰痛えから、おっかがるものがあつといいな。(腰が痛いから、
寄りかかるものがあると良いな)

●そいつさおっかがつと、危ねえぞ。(それに寄りかかると危な
いぞ)

25・汚損・破壊・切断に関わる行為・活動

▼【折る】おちちよる

●桜の木、おちちよってだめだど。(桜の木を折ってはだめだ)

▼【掻く】かっつあぐ

●虫にささったどご、痒くて痒くてかっつあいでしまったや。
(虫に刺されたところが痒くて痒くて、掻いてしまった)

▼【傷をつける・切り目をつける】きっぱつける

●あいや、その手、何したの、きっぱつけでわ。(その手、どうしたの。傷をつけて)

●この袋、きっぱつけておくと、あと楽だど。(この袋、切り目をつけておくと、後で開けるのに楽だぞ)

▼【切る】ちったぎる

●もってねえがらやあ、振袖の袖ばちったぎって訪問着にしたのっしや。(持っていないから、振袖の袖を切って訪問着にした)

▼【削る】へずる

●鉛筆ばへずっておいだがらね。(鉛筆を削っておいだからね)

●あやあ、もう少しへずっとかっこいいんでねえが。(もう少し削ると格好が良いのではないか)

▼【こぼす】まげる

●コップの水、まげねようにもっていがいん。(コップの水をこぼさないように持って行きなさい)

▼【壊す】ぶっちゃぐ

●おら、母ちゃん大事にしてだ茶碗ぶっちゃいでしまったわや。
(私は、お母さんが大事にしていた茶碗を壊してしまった)

▼【染みる】ぶちる

●あいや、おつゆこぼすて、ここぶちでしまったんでねえがわ。
(お汁をこぼして、ここに染みてしまったのではないか)

▼【汚す】そぎす

●大事な本だがら、そぎすなよ。(大事な本だから汚すなよ)

▼【汚れる】まぶれる

●泥まぶれになって、汚ねえぞだ。(泥で汚れて、汚いことだ)

26・剥奪・剥落・落下に関わる行為・活動

▼【奪い合う】ばやう

●またばやうって泣いてだ。(また奪い合って泣いていた)

▼【(堀や川などに)落ちる】けっぱりくう

●釣りっこさ行ってけっぱりくった。(釣りに行って川に落ちた)

▼【(池、川、沼などに)落ちる】つつべる

●いやいや、つつべっちゃまったや。かぶだれして。(いやいや、川に落ちてしまった。水浸しだ)

▼【落とす】ほろぐ

●どこさ財布いったんだが。おら、ほろってしまったなや。(どこに財布はいつてしまったのか。私は落としてしまったんだな)

●うわあ、着物さ泥ついた。早くほろげ。(着物に泥がついた。早く払って落とせ)

▼【はがす】へがす

●張り紙へがすてこい。(張り紙をはがしてこい)

▼【盗む】がめる

●あそこの畑から大根がめってきた。(あそこの畑から大根を盗んできた)

27・育成・成長に関わる行為・活動

▼【産む】なす

●隣の嫁さん、おぼこなしたんだと。(隣のお嫁さんが、赤ん坊を産んだそうだ)

▼【老いる】とっしよる

●なんだ、何もすねでほだごとしてっと、とっしよるよ。(何もしないでそんなことしていると、年取るよ)

▼【大きくなる】おがる

●わらすたち、おがるの早いなやあ。(子どもたちは、大きくなるのが早いな)

●すいばらく見ねうづに随分おがったごと。(しばらく見ないうちに大きくなったこと)

▼【成長がとまる】こつける

●すいばらく雨降んねえがら、こつけて伸びなくてなや、こんでは人さやらんねえよ。(しばらく雨が降らないから、成長が止まって伸びなくて、これでは人にあげられない)

▼【成長がとまる】おがりこつける

● いやあ、肥料、足んねかったのがや。この野菜、おがりこついでなや。(肥料が足らなかったのかな。この野菜の成長が止まったな)

▼【育てる】おがす

● あんや、庭の花とか野菜、おがしてんだな。(庭の花とか野菜を育ててるんだな)

▼【芽が出る】めめぐる

● 春だな、野菜めめぐってきたわ。(春だな、野菜の芽が出てきた)

▼【芽が出て大きくなる】ほざる

● もづくさ、ほぎでっから取ってこい。(ヨモギの芽が出て大きくなったから、採ってこい)

28・対象に働きかける行為・活動

▼【勢いよく出す】つんだす

● つんだすんでねえ、そつとな。(勢いよく出すのではない。そつとな)

▼【いじる・触る】ちよす

● 珍しいからって、ちよすな。(珍しいからって、いじるな)

▼【追い出す】ぼんだす

● あそこの家の嫁さん、ぼんだしたんだど。(あそこの家の嫁さんを追い出したんだそ、うだ)

▼【追い立てる】ぶったぐる

● あやあ、あそこさいた雀、ぶったぐってこい。(あそこにいた雀を追い立ててこい)

▼【追い払う】ぶぐる

● いやあ、どこの犬だが、早くぶぐれ、ぶぐれ。(どこの犬だが、早く追い払え)

▼【かき混ぜる】かんまじえる

●よくつどかんまじえっと味いぐなつど。(よくかき混ぜると、味が良くなるよ)

▼【(狭い空間を)かき回す】あざぐ

●誰だや、こだに引き出しん中、あざいで。(誰だ、こんなに引き出しの中をかき回して)

▼【「噛みつく」かぶづぐ

●いやいや、犬、急におれの足さ急にかぶづいてきたんだぞ。いや、おっかねえなや。(犬が急に私の足に急に噛みついてきたんだ。怖い)

▼【「着物の腰上げをすること」こっしやげ

●こっしやげしながら、ちようどやんべだな。(着物の腰上げをしたから、ちようど良い具合(塩梅)になった)

▼【「蹴る」けっぱる

●邪魔な石があったから、けっぱった。(邪魔な石があったから蹴った)

▼【「蹴る」けっぱづく

●歩きながらボールをけっぱづく人いっけども、危ねえごだ。(歩きながらボールをける人がいるけれども、危ないごだ)

▼【「故意に後ろから押す」つんのめす

●なんだべ、あの人、おればつんのめしてもごめんも言わねんだから。(なんだろう、私を後ろから押しても、ごめんも言わないんだから)

▼【「先に手を出すこと」てそずらすい

●あの人、待ってらんねんだおんね。てそずらすいごだ。やんだぐなるごだ。(あの人、まっていられないんだもの。先に手を出してしまうこと、嫌になる)

▼【「閉じているものを拡げる」はだける

●おら、あの服欲しくて、財布、はだけで払ったよ。(あの服が

ほしくて、財布の口を捻げてお金を払ったよ)

▼【失敗する】そべぐる

● ケーキ、作ったんだけど、おらそべぐるってしまったっちゃ。
(ケーキを作ったけれども、失敗してしまった)

▼【しゃぶる】くっちゃぶる

● 何だや、あんだ、ほだにまでに袋までくっちゃぶって。(そんなにまで袋までしゃぶって)

▼【邪魔をすること】じゃまっぱり

● いやいや針仕事、孫来て、じゃまっぱりするがら、なかなかかどんねえごだ。(針仕事をしている最中に孫が来て邪魔ばかりするので、仕事がかどらない)

▼【束ねる】まるぐ

● 稲まるがねしてねえね。(稲を束ねていないね)

▼【散らかす】ぶつつらがす

● 喧嘩して部屋中、ぶつつらかしたんだおん。(喧嘩して部屋の中を散らかしたんだ)

▼【つかえ棒をする】つつぱりかる

● 倒れそうだがら、つつぱりかけておげ。(倒れそうだから、つかえ棒をしておけ)

▼【取り返し損ねる】とりっぱぐる

● 貸した金をとりっぱぐった。(貸した金を取返し損ねた)

▼【取り替える】とっける

● 服をよごすたがらとっけつがらね。(服を汚したから取り替えるからね)

▼【殴りつける】かっくらづける

● 言う事きかねどかっくらづけつぞ。(言うことを聞かないと、殴りつけるよ)

▼【投げつける】ぶつつける

●他の人さぶっつけでわがんねがらね。(他の人に投げつけてはだめだからね)

▼【塗る】ぬだぐる

●ペンキぬだぐったら、見栄えよぐなったね。(ペンキを塗ったら、見栄えが良くなった)

▼【吐き出す】ほぎだす

●あさり汁を飲んでいたら、砂が混じっていたのでほぎだした。(あさりのみそ汁を飲んでいたら、砂が混じっていたので吐き出した)

▼【貼る】ねっばす

●はがれでっからねっばすておけ。(剥がれているから貼っておけ)

▼【引き抜く】しんぬぐ

●大根、大きくなったがら、しんぬいで持っつけ。(大根が大きくなったから、引き抜いて持っつけ)

▼【ひっくり返す】ひっつるげす

●カレー鍋、ひっつるげすてしまった。(カレーの鍋をひっくり返してしまった)

▼【もみくちゃにする】もじゃぐる

●大切な書類をもじゃぐるて捨ててしまった。(大切な書類をもみくちゃにして捨ててしまった)

▼【持ち上げる】もっちゃげる

●こいつも、もっちゃげでかせ。(これを持ち上げてください)

▼【燃やす】つんむす

●学校のストーブであだってだら、ズボンつんむすてすまった。(学校のストーブであたっていたら、ズボンを燃やしてすまった)

●何つんむすしてんだが煙てごだ。(何をもやしているんだか、煙たいごだ)

▼【「結いつける」ゆっける

● 忙しいがら、赤ん坊を柱さゆっけておけ。(忙しいから、赤ん坊を柱に紐で結いつけておけ)

▼【「湯水に浸す」うるがす

● 餅つくがら、米、うるがすかららわ。(餅を搗くから、米を湯水に浸す)

● 汚れたがら、うるがして洗うといい。(汚れたら、湯水に浸してから洗うと良い)

▼【「分けること」わっぶ

● 一つのをわっぶして食えよ。(一つの物を分けて食べるよ)

29・人間関係・社会生活に関わる行為・活動

▼【「いたずら」わっしゃ

● そんな事、わっしゃしてだめだぞ。(そんな事、いたずらしてはだめだぞ)

▼【「一文無しになること」ほろほろになる

● ほろほろになるまで飲むな。(一文無しになるまで飲むな)

● 仕事もすいねで遊んでばりいたら、ほろほろになるぞ。(仕事もしないで遊んでばかりいたら、一文無しになるぞ)

▼【「お節介をやく」ちよっけだす

● ちよっとちよっと今大事な話だがら、ちよっけださないでけさいん。(ちよっと、ちよっと、大事な話だから、お節介をやかないでください)

● おれひとりででぎっがら、ちよっけだすなよ。(私一人できるから、お節介をやくなよ)

▼【「金を使わせる・もてなされる」おいだみかける

● 急に来たのに、こんなにしてもらって、おいだみかけました。(急

に来たのに、こんなにしてもらってお金を使わせてしまいました。
した)

●お昼にたいすいたごっつおになって、おいだみかけすた。(お
昼に大変ご馳走になって、お金を使わせました)

▼【義理を果たすこと】ぎりすべ

●何かあった時はしゃあ、顔出すすてぎりすべするものなんだ
ど。(何かあった時は、顔を出して義理を果たすもんなん
だ)

▼【だらしなくすること】だらぐ

●まず家の中、だらぐしてつから、足の踏み場もねえ。(家の中
でだらしなくしているから、足の踏み場もない)

▼【つけあがる】ぬさばる

●あの人、田中さんにぬさばってばりいるんだよ。(あの人、田
中さんにつけあがってばかりいるんだ)

▼【出鼻を折る】はなころせめる

●偉そうなこと言うがら、はなころせめてやった。(偉そうなこ
とを言うがら、出鼻を折ってやった)

▼【なすりつける】かつける

●悪い事友達さかつけるな。(悪い事を友人になすりつけるな)

▼【入学する】つく

●今年からおらいの孫、小学校さつくんだ。(今年から、私の家
の孫は小学校に入学する)

▼【願いが叶う】うげもうされる

●あの神社さお参りすつと、うげもうされつど。(あの神社にお
参りすると、願いが叶う)

▼【励ます】せごえかける

●なんだ、友達、元気ねえごだ。みんなでせごえかけつべ。(友
達の元気がないようだからみんなで励ます)

▼【不幸】ぶっしやわせ

● なんだって、ぶっしやわせなごどだ。(不幸せなことだ)

▼【訃報の知らせ・訃報を知らせる人】ししやせ

● あの家の人が亡くなったんだね。あんた、ししやせ頼むからね。(あの家の人が亡くなったそうだ。あなたに訃報の知らせを頼むからね)

▼【弁償する】まやう

● 器壊してしまったがら、まやうので許してけさいん。(器を壊してしまったから、許してください)

▼【土産を持たないこと】からつら

● よくからつらできたごど。(土産を持たないで、よく来たな)

▼【無料で入場すること】べろんこ

● サークスやってるな。べろんこすんなよ。(サークスをやってるな。無料で入場するなよ)

▼【やっつける】やっちやめる

● あいづ、悪い事ばりすっからやっちやめつか。(あいづ、悪い事ばかりするから、やっつけようか)

● あいづ、生意気だからやっちやめでやっぺな。(あいづ、生意気だから、やっつけてやるうな)

▼【野次馬で人が集まる】よったがる

● あその家さんがよったがって、何か話してんだっけよ。(あその家に野次馬がたくさん集まって、何か話してんだよ)

▼【余計な世話】おずはっちゃ

● 隣のおばちゃん、おずはっちゃしてくっから何にも話できね。(隣のおばあさんは、余計な世話をしてくるから、何も話ができない)

▼【余計な世話をする】さっぺする

● またさっぺして。やめとげばいいのに。(また余計な世話をして。やめておけばよいのに)

● おれ一人ですっからさっぺすんな。(私一人でするから、余計な世話をするな)

▼【呼ぶ】よばる

●お茶飲みさ田中さんよばっぺ。(お茶飲みに田中さんと呼ばう)

▼【嫁入りする】むがさる

●隣の娘、むがさって行くんだど。(隣の娘、嫁に行くんだそうだ)

▼【寄りつく】よってづく

●あの人いつつも、うちさよってづくんだ。(あの方は、いつも家に寄りつくんだ)

●あそこの家さ、よってづがなくなった。(あそこの家に寄りつかなくなった)

30・身体の動き・状態・変化

▼【仰向け】あおのげ

●あおのげに寝て天井見でみる、何が見える。(仰向けに寝て天井を見てみる。何が見える)

▼【温まる】ほどる

●温泉さ行ってほどる。(温泉に行って温まる)

▼【浮かぶ】うぎる

●やあ、水さやっとうぎるようになったな。もっと練習すっと、うまくなっと。(水にやっとうかぶようになったな。もっと練習すると、うまくなる)

▼【うづくまる】すぐだまる

●森の中さ入って、おっきな木がお化けに見えて、すぐだまってしまった。(森の中に入って大きな木がお化けに見えて、うづくまってしまった)

▼【背負われる】おぶさる

●寒いながら、歩がねで早くおぶされ(寒いから歩かないで背負われる)

▼【かがむ】ここまる

●いや、ひじゃかぶ痛くてここまらんねば。(膝が痛くて、かがめない)

●急に腹いだぐなって、ここまってしまった。(急に腹痛になって、かがんでしまった)

▼【転ぶ】ひっころぶ

●わぁ急いで来たがら、ひっころんだや。(急いでいたから転んだ)

▼【倒れる】のめる

●何、急いでんだが。のめるように歩いてるね。(何を急いでいるのか。倒れるように歩いているね)

▼【小さくなる・縮こまる】つんつこまる

●寒くてつんつこまった。(寒くて縮こまる)

▼【つまづく】つまける

●転ぶがら、つまけんよ。(転ぶからつまづくなよ)

▼【手で鼻をかむこと】つかんばな

●あの人、歩きながらつかんばなすたっけよ。(あの人、歩きながら手で鼻をかんだよ)

●誰見てっかわがんねがら、つかんばなして歩くなや。(誰が見てるかわからないから、手で鼻をかむな)

▼【でんぐり返り】くらんげり

●おらいの孫、たいしたくらんげりじょんだよ。(私の家の孫は、とてもでんぐり返りが上手だよ)

●あんだ、くらんげり、何回できたの。(あなたは、でんぐり返りが何回できたの)

▼【覗く】まがってみる

●何してっか、まがってみる。(何をしているのか、覗いてみる)

▼【入り込む】ささる

●毎日お茶飲みしていてあの人の家さささってばりいる。(毎日お茶飲みばかりしていて、あの人の家に入り込んでばかりいる)

▼【腹違いになる】ぬだばる

●ぬだばって何してる。(腹違いになって何してる)

▼【伏せる】のだばる

●のだばってだめだ。汚れっから。(伏せるのはだめだ。汚れるから)

▼【踏む】あがる

●本の上さあがってわがんねえ。(本を踏んではだめだ)

▼【へこむ】ししげる

●缶のおもちゃ、ししげっている所あって、もってねえながったな。

(缶のおもちゃにへこんでいる所があって、もったいなかったな)

▼【目を閉じる】くっちゃぐる

●目くっちゃぐったら、目薬さんねっちゃや。(目を閉じたら、目薬がささらないよ)

▼【柔らかくなる】うるげる

●水ちよすったら、手の指うるげてすまった。(水をいじったら、手の指の皮が柔らかくなってしまった)

▼【よろける】よろばる

●家の中でよろばっても、怪我すっから氣つけさいね。(家の中でよろけても、怪我をするから氣をつけなさいね)

31・遊び・運動

▼【(籤や賭けで)当てる】とすける ※「とつける」とも言う。

●一銭店でとすけて、おら一等賞だ。(駄菓子屋で籤をして、私は一等賞を当てた)

●十円で何とすけられんの。(十円で何が当たるの)

▼【お手玉】ざんめす

●遊び時間のざんめす、おもしえがったな。昔はざんめすで遊んだもんだ。(遊び時間のお手玉、おもしろかった。昔はお手玉して遊んだものだ)

▼【おはじき】つぼこ

●みんなすてつぼこすっぺ。(みんなで、おはじきしよう)

▼【かくれんぼ】かぐれかご

※「かぐれっこま」「かぐれまっこ」とも言う。

●みんな集まれ、かくれかご、すっとう。(みんな集まれ、かくれんぼするぞ)

▼【駆けっこ】はしくら

●さあ、学校まではしくらすっぺ。(さあ、学校まで駆けっこしよう)

●今日、運動会ではしくらすて何等になった。(今日の運動会で駆けっこして何等になった)

▼【じゃんけん】えすけん

●さあ、みんなでえすけんすて順番決めっぺ。(みんなでじゃんけんして、順番を決めよう)

▼【凧】てんばた

●良い風吹いできたから、てんばた揚げてこう。(良い風が吹いてきたから、凧を挙げてこい)

▼【土いじり】つづごね

●子どもの頃、つづごねして遊んだっちゃんね。(子どもの頃、土いじりをして遊んだよね)

▼【ままごと遊び】おままだっこ

●また、おままだっこして遊ぶべし。(またおままごとして遊ぶね)

▼【水遊び】みずあぶり

●わぁ、暑いから川さ行って水あぶりでもしてくっか。(暑いから川に行って、水遊びでもしてくるか)

▼【めんこ】ぱった

●こっちゃんこ。ぱったすて遊ぶべ。(こっちに来い。めんこして遊ぶ)

32・相槌・疑問・呼びかけ・まじないなどの表現

▼【あのね】あのねれ ※使用例のみ音声あり

●あのねれ、あそこの家の娘っこ、今度嫁に行くんだど。(あのね、あそこの家の娘さん。今度嫁に行くんだそう)

●あのねれ、明日飲み会あるの知ってた。(あのね、明日、飲み会があるの知ってた)

▼【買い物で店の人を呼ぶ表現】もうす

●もうす、誰かいますか。(お店に誰か、いますか)

▼【そうだ】んだ

●んだんだ、そうなんだってな。(そうそう、そうなんだってな)

▼【そうです】そっしゃ

●「あんたの家で畑売ったんだって」「そっしゃ、売ったのっしゃ」「あなたの家で畑を売ったんだって」「そうです、売ったのです」

▼【「そうですね」んだねや

●「天気、良くなるようだね」「んだねや」（「天気、良くなる
ようだね」「そうですね」）

●「雨ぱり降って、何ぬもできねえ」「んだねや、寝でるすかね
えな」（「雨ばかり降って、何にもできない」「そうですね、
寝ているしかないね」）

▼【「そうですね」んだっちゃ

●んだっちゃ、おらもそう思うがす。（「そうですね、私もそう思
います」）

▼【「どうする」なじよする

●あの話、なじよする。（あの話、どうする）

▼【「どうにもこうにも」なじよにもかじよにも

●あんだだちの話も聞いても、なじよにもかじよにもなんねえ。
（あなたたちの話を聞いても、どうにもこうにもならない）

▼【「雷や地震に遭った時に唱える言葉」まんぜらぐ

●おれさまの音、大きいごだ。まんぜらぐ、まんぜらぐ。（雷の
音が大きい。まんぜらぐ、まんぜらぐ）

▼【「小さな子どもをあやす言葉」めんこめんこ

●めんこめんこだがら、泣くな。（めんこ、めんこだから、泣
くな）

▼【おはようございます】おはよがす

●おはよがす。今日も寒いごだねや。(おはようございます。今日も寒いですね)

●おはよがす。今日も良い天気だなや。(おはようございます。今日も良い天気ですね)

▼【こんばんは】おばんなりした

●おばんなりした。回覧板、持って来たすと。(こんばんは。回覧板、持ってきましたよ)

●おばんなりした。では、おみようぬづ。(こんばんは。では、また明日)

▼【さようなら】おみようぬづ

●ほんでまず、おみようぬづ。(それでは、さようなら)

●今日も夕方まで、お茶飲みすいてすまったなや。では、おみようぬづ。(今日も夕方まで、お茶を飲みながらおしゃべりしてしまっただね。では、さようなら)

文化庁委託事業報告書
被災地方言の保存・継承のための
方言の記録と公開 2

2019年（平成31年）3月14日 印刷

2019年（平成31年）3月20日 発行

編者 東北大学方言研究センター
発行所 東北大学大学院文学研究科国語学研究室
〒980-8576 仙台市青葉区川内 27-1 TEL 022(795)5987
